2023年度言語研修

「ハカス語」
研修テキスト 1

Intensive Language Course 2023
“Khakas”
Textbook 1

1

ハカス語

文法

高島尚生

Khakas grammar

Naoki Takashima

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所

2024

ハカス語文法

2023 年度言語研修「ハカス語」テキスト 1

高 島 尚 生

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

まえがき

本書は，2023 年度，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催のハカス語研修に際し，ハカス語研修用に編纂された文法書です.

これまで日本ではハカス語の文法について網羅した文法書はほとんどなかったといえます．今回ハカス語研修の機会を与えられたのを幸いに，研修用テキストとして，ハカス語文法を概観できる本を書くことができました.

本書は，N.A.バスカコフ著「ハカス語文法」（1975 年）や V.G.カルポフの一連の著作（参考文献参照）をベースにして，できるだけ最近の研究成果を取り入れながら書くように努めました．また，学校で用いられるハカス人生徒向けのハカス語教科書からも例文を取り入れるようにしました.

まだまだ参考にするべき本や論文は多数あり，取り上げるべき，深めるべき文法項目もあり，シンタクスについて本書ではあまり触れられませんでしたので，まだまだ完全とはいえません。とはいえ，本書がハカス語を勉強してみたいという人にとって少しでも文法便覧的な役割を担うような本になっていれば，著者としてとても嬉しいかぎりです.

2024 年 3 月

著者

目次

まえがき 2
１．ハカス語 6
２．アルファベット 6
３．発音 9
３．１．母音 9
３．２．子音 9
３．３．単語および音節中の音声構造 10
３．４．アクセント 10
３．５．発音規則 11
４．名詞 14
４．１．名詞の語形成 14
４．１．１．接辞を用いる語形成 14
４．１．２．接辞を用いない語形成 21
４．１．３．指小形接辞 22
４．２．数のカテゴリー 23
４．３．所有のカテゴリー 24
４．４．述語接辞 27
４．５．格のカテゴリー 29
４．５．１．主格 29
４．５．２．属格 30
４．５．３．与格 31
４．５．４．対格 32
４．５．５．位格 33
４．５．６．奪格 35
４．５．７．方向格 36
４．５．８．具格 37
４．５．９．因格 38
４．５．１０．比較格 39
４．５．１１．格変化表 40
４．６．外来語に接辞をつける際の注意点 42
５．形容詞 43
５．１．形容詞の形成 44
５．１．１．名詞から形成する形容詞 44
５．１．２．動詞から形成する形容詞 46
５．１．３．形容詞，副詞から形成される形容詞 49
５．１．４．その他の形容詞形成接辞 50
５．２．形容詞の強化 51
５．３．形容詞の弱化 52
５．４．比較級 53
５．５．最上級 53
５．６．形容詞の名詞化 54
５．６．１．形容詞に所有接辞をつける方法 54
５．６．２．形容詞に名詞の複数形接辞をつける方法 54
６．数詞 55
６．１．個数詞 55
６．２．序数詞 57
６．３．集合数詞 58
６．４．概数 60
６．５．分配 61
６．６．分数 62
６．７．小数 63

６．８．算数 63
６．８．１．加法 63
６．８．２．減法 63
６．８．３．乗法 63
６．８．４．除法 63
６．９．助数詞 63
６．１０．数量をあらわす語句 64
７．代名詞 65
７．１．人称代名詞 65
７．２．指示代名詞 66
７．３．物主代名詞 69
７．４．定代名詞 70
７．５．不定代名詞 70
７．６．再帰代名詞 72
７．７．疑問代名詞 74
８．動詞 77
８．１．動詞語幹と不定形 77
８．２．動詞の形成 79
８．２．１．接辞を用いた動詞形成 79
８．２．２．ロシア語動詞との組み合わせによる動詞形成 85
８．２．３．ロシア語名詞とハカス語動詞 идерге との組み合わせ 86
８．２．４．子音交替による動詞語幹の形成 86
８．３．否定形 87
８．３．態 88
８．３．１．基本態 88
８．３．２．再帰態 88
８．３．３．相互態 89
８．３．４．被動態 90
８．３．５．使役態 91
８．３．６．態の組み合わせ 93
８．４．体（アスペクト） 94
８．４．１．不完了体 94
８．４．２．完了体 94
８．４．３．開始体 97
８．４．４．多回体 98
８．５．人称接辞 99
８．６．形動詞 102
８．６．１．形動詞現在 -чатхан 形 102
８．６．２．形動詞現在 -иған 形 103
８．６．３．形動詞現在 -дырған 形 104
８．６．４．形動詞過去 -ған 形 104
８．６．５．形動詞過去 -ғалах 形 106
８．６．６．形動詞現在＝未来 -чаң 形 107
８．６．７．形動詞未来 -ар 形・未来否定 -бас 形 109
８．６．８．形動詞未来 -ғадағ 形 111
８．６．９．形動詞の名詞化 112
８．７．副動詞 112
８．７．１．副動詞 -ып 形 112
８．７．２．副動詞 -а 形 114
８．７．３．副動詞 -бин 形 115
８．７．４．副動詞 -ғанча 形 116
８．７．５．副動詞 -ғали 形 117
８．７．６．副動詞 -абас 形 118

８．８．法と時制 119
８．８．１．直説法 119
８．８．１．１．現在形 119
８．８．１．１．１．-ча 形現在 119
８．８．１．１．２．-чадыр 形現在 124
８．８．１．１．３．推量現在 -чаттыр 形（「どうやら～しているようだ」） 125
８．８．１．１．４．習慣現在 -дыр 形 127
８．８．１．１．５．-ир 形現在 131
８．８．１．１．６．動詞 одыр-，тур-，чӧр- を用いる現在形 133
８．８．１．１．７．現在形の疑問文について 135
８．８．１．２．過去形 136
８．８．１．２．１．-ды 形過去（近過去） 136
８．８．１．２．２．-ған 形過去 139
８．８．１．２．３．-чаӊ 形過去（習慣過去） 143
８．８．１．２．４．-чатхан 形過去 147
８．８．１．２．５．-тыр 形過去 150
８．８．１．２．６．-ғалах 形過去 152
８．８．１．２．７．-чых 形過去 154
８．８．１．３．未来形 155
８．８．１．３．１．-ар 形 / -бас 形未来 155
８．８．１．３．２．合成未来 161
８．８．２．命令法 162
８．８．３．条件法 166
８．８．４．譲歩法 169
８．８．５．仮定法 170
８．８．６．希求法 173
８．８．７．推量法 175
８．９．合成動詞 177
８．１０．助動詞 178
８．１０．１．さまざまな助動詞 178
８．１０．２．助動詞　пол- の用法 181
８．１０．２．１．可能・能力「～できる」・不可能「～できない」をあらわす構文 181
８．１０．２．２．「～するふりをする」をあらわす構文 182
８．１０．２．３．「もしかして～したのではないですか」をあらわす構文 183
８．１０．２．４．「たぶん～だろう」をあらわす構文 183
８．１０．２．５．動詞と助動詞 пол- の様々な過去形との組み合わせ 183
９．副詞 187
９．１．副詞の形成 187
９．２．副詞の弱化 189
９．３．副詞の比較級 190
９．４．疑問副詞 190
９．５．不定副詞 190
１０．後置詞 191
１１．接続詞 192
１２．助詞 193
１３．後置詞および後置詞句一覧表 198
参考文献 214

１．ハカス語

ハカス語はチュルク諸語北東語群に属しており，ロシア連邦ハカス共和国の基幹民族であるハカス民族の母語である．ハカス民族はハカス共和国の他，主に隣接するクラスノヤルスク地方やケメロボ州，トゥバ共和国などに暮らしており，ロシア連邦内に約 6 万人が住んでいる．

ハカス語の方言は，サガイ方言（主としてアス・キス地区とタシュトゥプ地区北部－自称「サガイ（族）」），ベリティル方言（主としてアス・キス地区ウスチ・キンドゥルラ村とウスチ・ソス村，ウスチ・タシュトゥプ村，チラン村，小モノク村，タシュトゥプ地区アルバトゥ村に住む），コイバル方言，カチン（ハース）方言（主としてウスチ・アバカン地区とシラ地区－自称「ハース（族）」），クズル方言（主としてシラ地区とオルジョニキーゼ地区，クラスノヤルスク地方ウジュル地区とシャルポフ地区－自称「フジュル・キジ」），ショル方言（主としてタシュトゥプ地区上流マトゥル村，下流マトゥル村，アンジュリ村，クズル・スグ村に住む自称「ショル（族）」）とに分かれる．

現代ハカス語は上記方言を話す種族の言語を基にして１つの標準語を形成していった．主にカチン（ハース）方言とサガイ方言を基にして標準語を形成しているが（とくに 1950 年代はカチン（ハース）方言），1990 年代以降はサガイ方言が標準語の中心となっている．

２．アルファベット

現在使用しているアルファベットは３９文字あり，そのうち２文字は記号である．以下にアルファベット表を挙げる．

ハカス語のアルファベット

文　字	発　音	文　字	発　音
А　а	/a/	П　п	/p/
Б　б	/b/	Р　р	/r/
В　в	/v/	С　с	/s/
Г　г	/g/	Т　т	/t/
-　ғ	/ɣ/	У　у	/u/
Д　д	/d/	Ӯ　ӯ	/y/
Е　е	/je/	Ф　ф	/f/
Ё　ё	/jo/	Х　х	/x/
Ж　ж	/ʒ/	Ц　ц	/ʦ/
З　з	/z/	Ч　ч	/ʧ/
И　и	/i/	-　ҷ	/ʤ/
І　і	/ə/	Ш　ш	/ʃ/
Й　й	/j/	Щ　щ	/ɕː/
К　к	/k/	-　ъ	хатығ таныг
Л　л	/l/	Ы　ы	/ɯ/
М　м	/m/	-　ь	нымзах таныг
Н　н	/n/	Э　э	/e/
-　ӊ	/ŋ/	Ю　ю	/ju/
О　о	/o/	Я　я	/ja/
Ӧ　ӧ	/ø/		

文字に関する補足点

母音字 э は語頭か借用語における母音の後に用い，е は語中あるいは語末で用いられる．

例）ээн（肩），эрінчек（怠け者），дуэт（デュエット；ロシア語借用語），
тегілек（円；丸い），кўске（ネズミ）

母音字 ö と ÿ はハカス語（チュルク語）固有の単語のなかでのみ使われる．

例）köс（炭），öскі（ヤギ），сўт（乳）

母音字 у と ў は文法的な接辞（例えば，名詞の格や形容詞形成接辞，動詞の様々な活用における接辞など）のなかで用いられることはなく，単語語根のなかに用いられる．

例）пўўр（オオカミ）

ハカス語固有の単語においては，母音字 я は語頭のみで用いる．

例）яблах（じゃがいも），яңылас（こだま）

語中および語末では，母音字 я は -йа- の綴りとなる．

例）уйа（巣），адайах（小犬）

子音字 ғ，ң，ч はハカス語（チュルク語）固有の単語のなかで用いられ，これらの文字で単語は始まらない．

例）суғ（水；川），таң（夜明け），хойчы（羊飼い）

子音字 в，ф，ц，ш，ж，щ はロシア語からの（あるいはロシア語を通して取り入れられた）借用語のなかで用いられる．

例）вагон（車両），машина（車）

ハカス語（チュルク語）固有の単語は，有声音と無声音のペアがある子音のあいだでは，必ず無声子音から始まる．すなわち，子音字 п（б では始まらない），с（з では始まらない），к（г では始まらない），т（д では始まらない），х（ғ では始まらない）から始まる．

もし，そのような単語（б，з，г，д，で始まる単語）があるとすれば，それはロシア語からの借用語とそれらの借用語に，たとえば，-лығ（形容詞形成接辞）などの接辞がついた場合である．

例）гараж（ガレージ，車庫），дача（別荘，セカンドハウス），
дачалығ（別荘を所有している；ロシア語借用語＋形容詞形成接辞 -лығ）

ただし例外として，助詞 даа / дее（～も）がある．

ь（軟音記号）と ъ（硬音記号）はロシア語あるいはロシア語を通して借用された単語においてのみ用いられる．

ь は子音の後につけて，ь の直前にある子音を軟子音として発音する記号であり，ъ は子音と軟母音のあいだにおかれて，ъ の直前にある子音と ъ の後に続く軟母音とを別々に発音することを示す記号である．

例）специальность（専門，職業），объект（客体）

ハカス語の文字はロシア帝国時代，19 世紀末にロシア正教宣教団が創出した文字（1893～1899）を基にして文字が創出されて 1924～1929 年に使われ始めていたが，ソ連の言語政策によって全国的にラテン文字化が推進されると，ハカス語文字も 1929 年にラテン文

字化された．ラテン文字は 1939 年まで使用されたが，政策の転換によりキリル（ロシア）文字化され，現代に至っている．文字変遷表を以下に挙げておく．

キリル文字（1924～1929）	ラテン文字（1929～1939）	現代ハカス語文字（1939～）
А а	A a	А а
Б б	B в	Б б
В в	V v	В в
Г г	G g	Г г
- h（1927～29）	- ɣ	- ғ（1946～）
Д д	D d	Д д
Е е	(je)	Е е
- -	(jo)	Ё ё（1953～）
Ж ж	Ƶ ƶ	Ж ж
З з	Z z	З з
И и	I i	И и
І і（～1936）	Ị ị	І і
Й й	J j	Й й
К к	K k	К к
Л л	L l	Л л
М м	M m	М м
Н н	N n	Н н
Ҥ ҥ	- ŋ	- ӈ（1962～） - нъ（～1962）
О о	O o	О о
Ö ö	Ө ө	Ö ö
П п	P p	П п
Р р	R r	Р р
С с	S s	С с
Т т	T t	Т т
У у	U u	У у
Ӱ ӱ	Y ɣ	Ӱ ӱ
Ф ф	F f	Ф ф
Х х	X x	Х х
Ц ц	(ts)	Ц ц
Ч ч	C c	Ч ч
J j	- ç	- ҷ（1947～）
Ш ш	Ş ş	Ш ш
Щ щ	(şc)	Щ щ
- -	- -	- ъ
Ы ы	Ь ь	Ы ы
- ь	- ’	- ь
Э э	Ə ə（～1935）, E e（1935～）	Э э
Ю ю	(ju)	Ю ю
Я я	(ja)	Я я

３．発音

３．１．母音

母音は以下の通りである．
母音：а，о，ö，у，ÿ，ы，и，і，э，е，я，ю，ё

長母音：аа，оо，öö，уу，ÿÿ，ыы，ии，ээ，ее

母音 э は語頭か借用語における母音の後に用い，母音 е は語中あるいは語末で用いられる．

母音字 ö と ÿ はハカス語（チュルク語）特有の単語のなかでのみ使われる．

母音字 ё はロシア語からの借用語のなかでのみ使われる．

硬母音：а，ы，у，о，я，ю，ё
軟母音：ö，ÿ，и，і，э，е

母音字 я と ю，ё はハカス語では硬母音字として扱う．従って，次に続く接辞は硬母音に続く接辞のバリエーションをつける（それぞれの接辞の変化参照）．

硬母音と軟母音の区別は，母音調和の規則（３．５．）で述べられているように，語形成やさまざまな接辞をつけるさいに重要な事柄である．

３．２．子音

子音は以下の２４個である．
子音：б，в，г，ғ，д，ж，з，й，к，л，м，н，ӈ，п，р，с，т，ф，х，ц，ч，ҷ，ш，щ

子音 в，ж，ф，ц，ш，щ はロシア語あるいはロシア語を通して借用された単語において用いられる．

子音 ғ，ӈ，ҷ はハカス語特有の文字である．

ハカス語固有の単語の語頭には無声子音がくる．有声子音が語頭に来る場合は，м，н のみである．また，２つ以上子音が並ぶこともふつうない．
例）хара（黒い），тас（石）

ただし，単語において２つ以上の子音の組み合わせは，рт と лт のみがある．例外は形容詞や動詞の態形成など語形成接辞がついて形成された単語と複数接辞や所有接辞，格接辞，過去形接辞など文法的な接辞との組み合わせである．
例）чурт（住居），тӧрт（４），харалт-（黒くする；動詞語幹）
чилдер（風；複数形接辞 лер ），чилдіг（風のある；形容詞形成接辞 ліг ）

有声子音で終わる単語の語末は，л，м，н，ӈ，р，ғ，й のみである．別の言い方をす

れば，б，д，з，ч で単語は終わらない。ただし，例外として б で終わる単語が１つ иб（家，天幕型住居）がある．

ふつうハカス語の単語では２つの母音に挟まれる子音は有声子音である．しかし，２つの母音に挟まれた子音が無声子音の単語も見られるが，それは歴史的に二重子音であったが，現代ハカス語の正書法では１つの子音で書きあらわすという規則によって無声子音で書きあらわされているためである．

例）хачы（書記），ікі（２）

子音 к は軟母音との組み合わせで用いられる．それに対し、子音 х は硬母音との組み合わせで用いられる．

例）кем（誰），кір（泥），кўскў（秋），харах（目），тахта（橋）

３．３．単語および音節中の音声構造

他の親類言語と同様に，ハカス語にとっても特徴的であるのは，単音節および多音節の単語である．

例）単音節単語：ат（ウマ），пу（この），тӧрт（４）
　　多音節単語：тура（家），хузурух（尻尾），ўгренчілер（生徒たち）

ハカス語の音節タイプ

１）　開音節

①　母音　　例）а-зы-ра（飼料をあげなさい）
②　子音　＋　母音　　例）су-ла（カラスムギ）

２）　閉音節

①　母音　＋　子音　　例）ыс（煙）
②　子音　＋　母音　＋　子音　　例）пас-хыс（階段）
③　母音　＋　子音　＋　子音　　例）ирт-че-лер（通る）
④　子音　＋　母音　＋　子音　＋　子音　　例）чурт（生活；経済）

ロシア語からの借用語が増えたので，新しい音節のタイプが増えたといえる．

例）子音　＋　子音　＋　母音　　例）кни-га（本）
　　子音　＋　子音　＋　母音　＋　子音　　例）трак-тор（トラクター）

３．４．アクセント

ハカス語のアクセントは強弱アクセントであり，ふつう２音節あるいは３音節以上から成る単語はその最終音節におかれる．

例）хоза́ӈ（ウサギ），мунзуру́х（拳），аба́（クマ），хызы́д（赤い）

第２あるいはそれに続く音節に狭窄母音をともなう単語では，アクセントが第１音節にくることもある．

例）о́дыӈ（薪），ки́лін（息子の嫁，兄弟の妻），ха́рых（眉間）

多音節の単語ではアクセントのある音節が２か所あることもある．ただし，後にくるアクセントのほうがより強い．

例）мàрыгласчатханнáрга（競争者たちにとって）

長母音は単語中のどこにあってもふつうアクセントをもつ．その単語に接辞がついたときも長母音は第２アクセントとして残る．

例）сàасханнáр（カササギたち）

単語に接辞がつくとアクセントはだいたいは接辞に移る．接辞のついた単語にさらに接辞をつけると，新しくつけた後のほうの接辞にアクセントは移る．

例）чылтыстáр（星々；複数接辞），чылтыстарзáр（星々へ；方向格接辞）

ただし，単語中のどの位置にこようがアクセントを有する接辞がある．それは以下の通りである．

・複数形接辞 -лар（とその発音上のバリエーション）
・格接辞
・動詞の使役態接辞 -тыр（とその発音上のバリエーション）
・動詞否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション），
　　-бин（とその発音上のバリエーション）
・動詞時制をあらわす接辞
　現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）
　過去形接辞 -ды（とその発音上のバリエーション），
　形動詞過去形接辞 -ған（とその発音上のバリエーション），
　形動詞未来形接辞 -ар（とその発音上のバリエーション）

例）аӈчылáрнаӈ（猟師たちによって），ӱгренчéбис（私たちは学んでいる），
　тоғынáрзар（あなたは働くつもりです），чòохтабúнча（話していない）

ときには助詞にもアクセントがくることもある（１つの単語のように読む）．

例）мин нé（私も），ол дáа（彼さえも）

３．５．発音規則

１）母音調和

単語中における音の母音調和の本質は母音の調和と子音の同化にある．口蓋音をともなう母音の調和は徹底している．

単語の第１音節に硬母音がきたなら，後に続く音節にも硬母音が続く．同様に単語の第１音節に軟母音がきたなら，後に続く音節にも軟母音が続く．それは複数接辞や格接辞，動詞の否定接辞や過去形のさまざまな接辞がきても同様である．

例）тура（家），палых（魚），чистек（ベリー），көгліг（楽しい），
　тоғысчыларға（労働者たちに），иміӈілерібіске（私たちの医者たちに），
　көбіктенерге（泡立つ）

ただし，単語中の母音 и は軟母音であるがこの規則には従わない．単語中，母音 и の前が硬母音であれば，母音 и の後は硬母音が続き，母音 и の前が軟母音であれば，母音 и の後は軟母音が続く．主として，硬母音が続く単語中に母音 и が現れるのは，動詞不

定形を形成するとき，あるいは否定形接辞 -бин（とその発音上のバリエーション）が入るときである．

例）санирға（数える），имнирге（治す），санабинча（数えていない）

また，ロシア語からの借用語のときである．

例）артист（アーチスト），книга（本）

２）子音の同化

無声子音の後には無声子音がきて，有声子音の後には有声子音がくる．

例）хасса（掘るならば），чыҕза（集めるならば），сайда（砂利の上に），
паспа（書くな）

鼻音子音はこの法則に従わず，鼻音子音の後に有声，無声子音どちらがきてもよい．

例）алты（６），мылча（蒸風呂），паарсах（かわいい），аннар（獣），
харда（雪上に）

３）子音の ҕ，г，ҥ の脱落

母音に挟まれる子音 ҕ，г，ҥ は脱落する．その結果，２つ並んだ母音は１つの長母音になる．

例）аас < ағыс（口），соох < соғук（寒さ），оол < оғыл（若者；息子），
тураа < тураға（家に），інеем < інегим（私のウシ），
тимнеен < тимнеген（準備した），тооп < тоңып（寒さに凍えて）

狭窄母音に挟まれて上記の子音が脱落した場合，２つ並んでいる母音は и にかわり長母音 ии となる．

例）хазии < хазығы（彼の健康），чітии < чітігі（その鋭さ），
хузурии < хузуруғы（その尻尾）

ただし、子音 ҕ，г，ҥ を挟む母音の一方が長母音の場合、母音に挟まれる子音 ҕ，г，ҥ は脱落しない．

例）салааға（枝に），чааға（戦争に），кіреге（手挽き鋸に）

４）副動詞 п 形の形成時の子音 п の脱落

動詞語幹が子音 п で終わる１音節のみから成る動詞語幹に副動詞 п 形の接辞をつけると，動詞語幹末の子音 п は脱落し，その結果１つの長母音となる．

例）таап < тап + ып（見つけて），хаап < хап + ып（つかんで，持ち上げて），
теп < теп + іп（蹴って）

５）無声子音の有声化

語末が無声子音で終わる単語に語形成接辞や所有接辞などの接辞をつけたとき，母音間に挟まれた無声子音は有声化する．文字も有声子音に交替する．

例） пас + -ым → пазым（私の頭），
ах + арча → ағарча（白くなっている），
тут + арға- → тударға（つかんでいる），
көнек + -ім → көнегім → көнеем（私のバケツ）

なかでも，子音 х に接辞がついて２つの母音に挟まれることになったときは，ふつう有声子音 г となる．

例） чоох + -ы → чоогы（彼の話）

４．名詞

ハカス語の名詞は数，格で変化する．また、名詞には所有接辞や述語接辞もつく．
ハカス語には１０の格，すなわち主格，属格，与格，対格，位格，奪格，方向格，具格，因格，比較格がある．

４．１．名詞の語形成
４．１．１．接辞を用いる語形成

1）

名詞・動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
無声子音	-чы	-чі
有声子音	-ҷы	-ҷі
母音 子音	-(а)ачы	-(е)ечі

例）аңҷы（猟師＜ аң：獣），имҷі（医者＜ им：薬），
тоғысчы（労働者＜ тоғыс：労働，仕事），
хығырҷы（読者＜ хығыр-：読む），ӱгретчі（教師＜ ӱгрет-：教える）

この接辞は名詞や動詞語幹について，職業や身分，その名詞があらわす行為をする人，その名詞があらわす行為をする傾向がある人，をあらわす名詞を形成する．
この接辞の多くはもともと特徴や性質などをあらわす形容詞を形成していたが、名詞もあらわすようになった．

2）

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
子音	-ыг	-іг
母音	-ғ	-г

例）садыг（商売＜ сат-：売る），тоғазыг（会うこと＜ тоғас-：会う），
оңнаг（理解＜ оңна-：理解する），пӱдіріг（建設＜ пӱдір-：建設する）

動詞語幹の末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為をあらわす名詞を形成する．

3）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-ыс	-іс
母　　音	-с	

例）сағыныс（思考＜ сағын-：考える），өрініс（喜び＜ өрін-：喜ぶ），
пірігіс（統一＜ пірік-：１つになる）

動詞語幹の末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為や状態をあらわす名詞，抽象的な意味をあらわす名詞を形成する．

4）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-ым	-ім
母　　音	-м	

例）алтам（１歩＜ алта-：歩く），чарым（半分＜ чар-：分ける），
чөрім（動くこと＜ чөр-：行く，動く），көзідім（例＜ көзіт-：示す）

動詞語幹の末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

5）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-хы	-кі
母　　音 有声子音	-ғы	-гі

例）чарытхы（光，照明＜ чарыт-：輝く），сүрткі（軟膏＜ сүрт-：塗る），
сыбырғы（箒＜ сыбыр-：掃く）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

6）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-ых	-ік
母　　音	-х	-к

例）хоных（宿泊＜ хон-：泊まる），көбік（泡＜ көп-：［生地などが］膨らむ），
салғах（波＜ салға-：波立てる）

動詞語幹の末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

7）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-хыс	-кіс
母　　音 有声子音	-ғыс	-гіс

例）чысхыс（雑巾，ふきん＜ чыс-：拭き取る），ілгіс（ ハンガー＜ іл-：掛ける）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

8）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-хын	-кін
母　　音 有声子音	-ғын	-гін

例）тасхын（氾濫，洪水＜ тас-：こぼれる），сүргін（ 追跡＜ сүр-：追う）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

９）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-чых	-чік
母　　音 有声子音	-ҷых	-ҷік

例）хонҷых（氾濫，洪水＜ хон-：泊まる），хазалҷых（ 紡錘＜ хазал-：回す），
нахланҷых（ 愚痴っぽい人＜ нахлан-：愚痴をこぼす）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１０）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-чах	-чек
母　　音 有声子音	-ҷах	-ҷек

例）чуғынҷах（伝染＜ чуғун-：くっつく，伝染する），
кӯрҷек（ スコップ＜ кӯр-：掻き集める）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１１）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
無声子音	-па	-пе
母　　音 有声子音	-ба	-бе

例）чарба（脱穀した・挽きわった穀類＜ чар-：割る，細かくする），
көгербе（ 淵＜ көгер-：緑色になる）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１２）

動詞語幹の最後の音	
母　　音	-л

例）азырал（餌＜ азыра-：餌を与える，食べさせる），
чырғал（ 満喫，喜び＜ чырға-：満喫する）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１３）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-(н)ды	-(н)ді

例）чыырынды（収集＜ чыыр-：集める），кирінді（ 挿入＜ кир-：はめ込む）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１４）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-мах	-мек

例）оймах（穴＜ ой-：穴をあける），сүүмек（ 布製袋＜ сүг-：濾す）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１５）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-ын	-ін

例）чадын（寝床＜ чат-：横になる），ағын（ 流れ＜ ах-：流れる）

動詞語幹の末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為の名詞を形成する．

１６）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-ан	-ен

例）чайаан（創造主＜ чайа-：創造する），
сүген（ 筌［魚を捕る仕掛け］）＜ сүг-：濾す）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１７）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-ос	-öс

例）тырбос（熊手＜ тырба-：掻き集める），　хайырғос（砥石＜ хайыр-：研ぐ）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１８）

動詞語幹の最後の音	
母　　音	-т

例）маңзыт（急ぐこと＜ маңзыра-：急ぐ），
хурут（ 乾燥チーズ＜ хуру-：乾燥する）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

１９）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-ңа	-ңе

例）хурчаңа（腰＜ хурча-：ベルトを締める），
хорлаңа（ タイガの中の小川＜ хорла-：音を立てて流れる）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞が意味する名詞を形成する．

２０）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
	-ғор	-гӧр

例）турғор（池＜ турға-：囲む），ілгор（ 棚＜ іл-：掛ける）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

２１）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-ас	-ес
母　　音	-с	

例）чарас（休戦＜ чар-：似合う，役に立つ），ілес（ 釣り竿＜ іл-：掛ける）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

２２）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-ах	-ек
母　　音	-с	

例）хайах（休戦＜ хай(ыл)-：溶ける），кизек（ 小片＜ кис-：切る）

この接辞は動詞語幹から形成されて，その動詞があらわす行為を意味する名詞を形成する．

２３）

名詞・動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-тас	-тес
母　　音	-дас	-дес

例）харындас（兄弟＜ харын：腹），көріндес（ 鏡＜ көрін-：自分を見る）

この接辞は名詞や動詞語幹から形成される．

２４）

名詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　　音	軟　　音
子　　音	-тых	-тік

例）пастых（長＜ пас：頭），чүстік（ 指輪＜ чүс：関節）

この接辞は名詞から形成される．

４．１．２．接辞を用いない語形成

接辞を用いないで名詞を形成する方法として，２つの名詞を組み合わせる方法，２つの名詞語幹を組み合わせてつくる方法と合成略語がある．

１）２つの名詞から成る名詞

例）тимір чол（鉄道），хара суғ（泉），хара хус（ワシ），ағас чистегі（キイチゴ）

２）２つの名詞語幹から成る名詞，あるいは２つの同義語や類義語を並べてつくる名詞，対になる語を２つ並べてつくる名詞

これらの名詞は２つの語幹や名詞のあいだにハイフンがはいる．

例）ідіс-хамыс（食器），іче-паба（父母），істі-харын（おなか），
харых-чон（人民，民衆，人々）

このようにして形成された単語のなかには子音交替などが起きて１つの単語になったものもある．

例）тораат（栗毛馬）＜ торығ（栗毛の）＋ ат（ウマ）
ирепчі（夫婦）＜ ир（男性；夫）＋ ипчі（女性；妻）

４．１．３．指小形接辞

ハカス語で用いられる指小形接辞を以下に挙げる．

１）

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
母音	-ҷах	-ҷек
子音	-ычах	-іҷек

例）турачах（小さい家＜ тура：家），чиліҷек（ 微風＜ чил：風）

２）

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
	-ах	-ек

例）адайах（小犬＜ адай：犬），мелейек（ 小さい手袋＜ мелей：手袋）

３）

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
	-ас	-ес

例）азағас（小さい足＜ азах：足），ӧдігес（ 小さい靴＜ ӧдік：靴）

名詞末尾が無声子音のときは，接辞をつけると２つの母音に挟まれて有声化する．

この指小形接辞は，他の指小形接辞のあとにつけることができる．

例）турачағас（小さい家＜ тура[家] ＋ ҷах ＋ ас），
харычағас（ 細雪＜ хар[雪] ＋ ычах ＋ ас）

４．２．数のカテゴリー

名詞には単数形と複数形があり，複数形は以下の接辞を名詞の後につけてあらわす.

複数形接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-м, -н, -ӈ を除く）	-лар	-лер
無声子音	-тар	-тер
-м, -н, -ӈ	-нар	-нер

例）туралар（家），аллар（村），кізілер（人々），хаптар（袋），
інектер（ウシ），хозаннар（ウサギ），төӈнер（丘）

ロシア語からの借用語の際，語末が б，в，г，д，ж，з で終わる単語はロシア語の発音規則に従って無声化するので，それらの単語につける複数形接辞は -тар / -тер になる.

例）арбузтар（スイカ），заводтар（工場）

ロシア語からの借用語で語末が ь で終わる単語に複数形接辞をつける際は，語末の ь は脱落せず，語末最後の母音と子音に合わせて複数形接辞をつける.

例）медальлар（メダル），портфельлер（書類カバン），
геранньнар（ゼラニウム［植物］）

上記の規則は格変化の際も同様に当てはまる.

例）совхозта（ソフホーズで），лагерьде（キャンプ場で）

４．３．所有のカテゴリー

名詞に所有接辞をつけることによって，その名詞であらわされるものの所有者やその名詞であらわされる行為の行為者をあらわす.

所有接辞表

数	人称	語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音		例
			硬母音	軟母音	
単数	1人称	子音	-ым	-ім	пазым, ибім
		母音	-м		турам, іҷем
	2人称	子音	-ыҥ	-іҥ	пазыҥ, ибіҥ
		母音	-ҥ		тураҥ, іҷеҥ
	3人称	子音	-ы	-і	пазы, ибі
		母音	-зы	-зі	туразы, іҷезі
複数	1人称	子音	-ыбыс	-ібіс	пазыбыс, ибібіс
		母音	-быс	-біс	турабыс, іҷебіс
	2人称	子音	-ыҥар	-іҥер	пазыҥар, ибіҥер
		母音	-ҥар	-ҥер	тураҥар, іҷеҥер
	3人称	子音	-ы	-і	пазы, ибі
		母音	-зы	-зі	туразы, іҷезі
接辞表中の例の単語：пас（頭），тура（家），иб（天幕型住居），іҷе（母）					

所有接辞をつける際の注意点

母音 ＋ 無声子音で終わる単語は，所有接辞をつけると単語最後の無声子音が母音に挟まれることになり，有声化する．具体的には以下のようになる．

末尾が п，т，с で終わる単語は，それぞれ б，д，з にかわる．

例）хап（袋）：хап ＋ ым → хапым → хабым

ат（名前）：ат ＋ ым → атым → адым

чиҥіс（勝利）：чиҥіс ＋ і → чиҥісі → чиҥізі

末尾が г，ғ，ң で終わる単語は，所有接辞をつけるとこれらの子音は母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音になる．

その際，単語の最終音節の母音が а，о，е，ö のときは，それぞれ長母音は -аа，-оо，-ее，-öö となる．

例）таг（山）: таг + ы → тагы → таы →таа

көг（メロディー）: көг + ім → көгім → көім → кööм

単語の最終音節の母音が ы，і のときは，長母音は -ии となる．

例）таныг（記号）: таныг + ы → таныгы → таныы → тании

ағырыг（病気）: ағырыг + ы → ағырыгы → ағырыы → ағырии

үгредіг（学業）: үгредіг + і → үгредігі → үгредігі → үгредии

単語の最終音節の母音が у，ү のときは，１音節の単語はそれぞれ長母音 -уу，-үү となり，２音節以上の単語は長母音 -ии となる．

例）суг（川）: суг + ы → сугы → суы → суу

чүг（羽）: чүг + і → чүгі → чүі → чүү

пулуң（隅）: пулуң + ы → пулуңы → пулуы → пулии

単語の最終音節の母音が х，к のときは，１音節の単語はそれぞれ有声化して ғ，г となり，２音節以上の単語は有声化する場合もあれば，脱落して１つの長母音になることもある．長母音になる際は末尾が г，ғ，ң で終わる単語と同様の変化をする．

例）харах（目）: харах + ы → харахы → харағы → хараы → хараа

көнек（バケツ）: көнек + і → көнекі → көнегі → көнеі → көнее

軟音記号 ь で終わるロシア語の単語と１音節からなる軟音記号 ь で終わるロシア語の単語には，単語の最終音節の母音によって，すなわち硬音のときは ы がつき，軟音のときは і がつく．

例）часть（部隊）→ частьы ： пехота частьы（歩兵部隊）

лагерь（収容所）→ лагерьі ： істеніс лагерьінзер（労働収容所へ）

портфель（書類カバン）→ портфельі ：

Аның портфельінде 10 вафля полған.

（彼女のカバンの中に１０個ウェハースがありました.）

-ст で終わるロシア語の単語には，最後の ст を取って，最終単語の最終音節の母音によって，硬音のときは зы がつき，軟音のときは зі がつく．

例）автомобилист（ドライバー）→ автомобилизі

журналист（ジャーナリスト）→ журнализі

-ость と２音節以上からなる -сть で終わるロシア語の単語も同様に，最後の сть を取って，単語の最終音節の母音によって，硬音のときは зы がつき，軟音のときは зі がつく．

例）агропромышленность（工業型農業）→ агропромышленнозы
повесть（小説）→ повезі
Сірер В.А. Коряковтың « Айдо » повезін хығырғазар ба?
（あなたはコリャコフの「アイドー」という小説を読みましたか？）

名詞の前に人称代名詞の属格（誰々の）や名詞の属格（…の）がきた場合，修飾される名詞には所有接辞がつくことになる. 名詞属格は接辞のつかない主格と同形の場合もある.

例）минің чірім（私の土地），пістің чірібіс（私たちの土地），
хакас тілінің ӱгретчізі（ハカス語の教師）

ただ，代名詞 піс の属格 пістің（私たちの）と代名詞 сірер の属格 сірернің（あなたたちの）が名詞を修飾したとき，１人称複数所有接辞 -ыбыс（とその発音上のバリエーション），２人称複数所有接辞 -ыңар（とその発音上のバリエーション）をつけないこともよくある.

例）пістің чуртаста（私たちの生活において）

所有接辞がついた名詞も格変化する（格変化に関しては格変化の各項目を参照）.

例）«Компьютер» – англия тілінең алылған сӧс.
（「コンピューター」は英語からの借用語です.）

ただし，２人称単数所有接辞と３人称所有接辞がついた名詞に与格接辞をつけるとき，与格接辞は -ға，-ге ではなく，語末が子音のとき -ыңа，-іңе，-ына，-іне（ ы と і は所有接辞），語末が母音のときは -а，-е となる．３人称所有接辞がついた名詞に対格接辞がつくときは -ын，-ін（ ы と і は所有接辞）となり，位格と方向格とでは格接辞の前に -н- をいれる.

例）позыңа（君自身に；与格），арғыстарына（［彼の］友人たちに；与格），
іченің сӧзін（母の言葉を；対格）

名詞そのものは単数であるが，所有者が複数「彼らの，彼女らの」であるとき，所有者の複数性を反映して名詞を複数形にして，３人称複数所有接辞がつけることがある.

例）

Оолахтар чочып таа парғаннар. Хайбағынзалар, хости оларның ӱгретчілері Никанор Павлович турча.
Хығырчаң кинде 3 , Ағбан, Хакас книга издательствозы, 2013, 19
（少年たちはびっくりした．彼らが振り返ると，そばに彼らの先生，ニカノール・パーヴロヴィッチが立っている.）

Ким хазында ӱс харындас чуртаптыр. (...) Улуғ харындастары тіпче: ...
А. Медведовская «Алтын хыс», Хакасское книжное издательство, Абвкан, 1992, 74
（エニセイ川岸に３人兄弟がすんでいたそうです。（中略）［彼らの］長兄が言います：…）

４．４．述語接辞

名詞が述語となるときは，その名詞に主語の人称に合わせて人称をあらわす述語接辞をつける．述語接辞は以下の表の通りである．

述語接辞表①

数	人称	語幹の最後の音	単語の語末の音		
			母音，有声子音	無声子音	-м, -н, -ң
単数	１人称	硬母音	-бын	-пын	-мын
		軟母音	-бін	-пін	-мін
	２人称	硬母音	-зың	-сың	-зың
		軟母音	-зің	-сің	-зің
	３人称	硬母音	—		
		軟母音			
複数	１人称	硬母音	-(лар)быс	-пыс	-мыс
		軟母音	-(лер)біс	-піс	-міс
	２人称	硬母音	-зар	-сар	-зар
		軟母音	-зер	-сер	-зер
	３人称	硬母音	-лар	-тар	-нар
		軟母音	-лер	-тер	-нер

例）Мин тоғысчыбын.（私は労働者です.）
Син тоғысчызың.（君は労働者です.）
Ол тоғысчы.（彼は労働者です.）
Олар тоғысчылар.　（彼らは労働者です.）
Мин іҷе паарсазы чох öскен кізібін.（私は母の愛情を知らずに育った.）

名詞複数形では述語接辞の前に名詞複数形接辞がはいることもある．
例）Піс тоғысчыларбыс.（私たちは労働者です.）
Сірер тоғысчыларзар.（あなたがたは労働者です.）

否定 чох がついた名詞が述語になったときも述語接辞がつく．
例）Мин маймах-азах чохпын.（私は靴を履いていないです.）

所有接辞がついた名詞が述語になったときも述語接辞がつく．
例）Син ўгретчімзің.（君は私の先生です.）

格接辞がついた名詞が述語になったときも述語接辞がつく．
例）Ибдебін.（私は家にいます.：位格）
Ибдезің.（君は家にいます.：位格）
Ол ибде.（彼は家にいます.：位格）
Мин Асхыстаңмын.（私はアスフス出身です.：奪格）

形容詞が述語となるときも，その形容詞に述語接辞をつける．

例）– Мин синнеңөк хада ойнирға.

– Чох, син кічігзің, мында табырах чүгүр пілерге кирек.

（「[そりで一人遊んでいたが] ぼくは君と一緒に [ホッケーを] したい.」「だめだよ、君は [まだ] 小さいし，こっちはもっと速く滑ることができないといけないんだよ.）

Уғаа кіргін-түскіннігбіс.（私たちのところに多くのお客がやって来ている.）

Позың пыролығзың.（君自身が悪いんだよ.）

名詞や形容詞が否定された述語となるとき，否定をあらわす語 нимес に述語接辞をつける．

例）Мин пөзік нимеспін.（私は背が高くありません.）

Мин мындағы кізі нимеспін.（私はそのような人ではありません.）

副詞が述語となるときも，その副詞に述語接辞をつける．

例）Мин мындабын.（ぼくはここにいるよ.）

名詞と形容詞，副詞のほかに，助動詞的な意味をもつ語 кирек（～しなければならない）にも述語接辞をつける．

例）Пис чирібісті хайраллирға паза ағаа хынарға кирекпіс.

（私たちは自分の故郷を守り，愛さなければなりません.）

歴史的にはこの接辞の１人称と２人称は人称代名詞にさかのぼることができる．

述語接辞には短縮形（述語接辞②）がある．これは会話体、あるいはサガイ方言である．

述語接辞表②

<table>
<tr><td rowspan="2">数</td><td rowspan="2">人称</td><td></td><td colspan="3">単　語　の　語　末　の　音</td></tr>
<tr><td></td><td>母　　音</td><td>無　声　子　音
有　声　子　音</td><td>-м, -н, -ң</td></tr>
<tr><td rowspan="6">単数</td><td rowspan="2">１人称</td><td>硬母音</td><td rowspan="2">-м</td><td colspan="2">-ым</td></tr>
<tr><td>軟母音</td><td colspan="2">-ім</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２人称</td><td>硬母音</td><td rowspan="2">-ң</td><td colspan="2">-ың</td></tr>
<tr><td>軟母音</td><td colspan="2">-ің</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３人称</td><td>硬母音</td><td colspan="3" rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>軟母音</td></tr>
<tr><td rowspan="6">複数</td><td rowspan="2">１人称</td><td>硬母音</td><td>-быс</td><td colspan="2">-пыс</td></tr>
<tr><td>軟母音</td><td>-біс</td><td colspan="2">-піс</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２人称</td><td>硬母音</td><td>-ңар</td><td colspan="2">-ыңар</td></tr>
<tr><td>軟母音</td><td>-ңер</td><td colspan="2">-іңер</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３人称</td><td>硬母音</td><td>-лар</td><td>-тар</td><td>-нар</td></tr>
<tr><td>軟母音</td><td>-лер</td><td>-тер</td><td>-нер</td></tr>
</table>

また，述語が動詞のときも同様に人称をあらわす接辞（人称接辞）をつける．動詞の様々な形（現在形や習慣現在など）と人称接辞の結合に関する詳細は，８．５．１．人称接辞を参照。

「～がいない」や「～がない」というときは名詞や代名詞の後に чох をつける。ふつう чох が述語になるときは接辞 -ыл がついて чоғыл の形になる．

例）Класста кем чоғыл?（教室には誰がいませんか？）

４．５．格のカテゴリー

ハカス語には１０の格，すなわち主格，属格，与格，対格，位格，奪格，方向格，具格，因格，比較格がある．ただし，因格と比較格は，以前は後置詞的接辞として扱われてきたが，最近になって格として扱う研究者が増えてきている．本書では格として扱う．

ハカス語の格の意味は他のチュルク諸語のそれぞれに相当する格の意味とそれほど異ならない．

４．５．１．主格

主格は，Кем?（誰？ 誰が？），Кемнер?（誰ら？ 誰らが？），Ниме?（何？ 何が？），Нимелер?（何[複数]？ 何[複数]が？）の質問に答える形で，主格に接辞はなく，人や物，事柄の名称そのものであり，辞書に載っている見出し語となる．

例）кізі（人間；人間は），ат（ウマ；ウマは），кӧл（湖；湖は），
хорғыс（恐れ；恐れは）

主格は主語になり，また，「A は B である」という名詞述語文のときの B は主格を用いる．

主格は関係形容詞（～の）として用いることができる．それは自然界にある物質（木や太陽，湖）建物・施設（学校や大学など）や性別をあらわす言葉（女性やオスなど），民族名，職業名（猟師や教師など），生物名（犬や鴨など）などである．

例）ағас тура（木造家屋）

名詞対格を主格で用いる（対格接辞をつけない）こともある．

また，иир（晩），кӱн（日），ай（月），чыл（年）といった時をあらわす名詞は主格で状況語として副詞のように用いることができる．

例）пір иир（ある晩に），ол чыл（今年に）

４．５．２．属格

属格は，物の所有者や物や事柄の関係をあらわし，Кемнің?（誰の？），Кемнернің?（誰らの？），Нименің?（何の？），Нимелернің?（何[複数]の？）の質問に答える形である．

属格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-тың	-тің
有声子音 母音	-ның	-нің

例）тураның（家の），көлнің（湖の），ағастың（木の），көзенектің（窓の）

属格が修飾する名詞は所有接辞がつかなければならない．

例）харындазымның нанҷызы（私の兄の友人），күнниң сузы（日の光）

属格接辞はつかないこともある．属格接辞がつかない場合は，主として一般的な事柄や事象をあらわし，属格接辞がつく場合は具体的な人物の所有，具体的な物の関係をあらわす．

例）інек сүді（牛乳；属格接辞なし；一般的な名称として）
　　інектің сүді（［具体的などれか特有のウシの］牛乳；属格接辞がつく）

４．５．３．与格

与格は，Кемге?（誰に？），Кемнерге?（誰らに？），Нимее?（何に？），Нимелерге?（何[複数]に？），また，Ноға?（なぜ？ 何のために？）の質問に答える形である．

与格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-ха	-ке
有声子音（-ӈ, -ғ, -г 以外） 母音 -о, -ӧ 長母音	-ға	-ге
母音（-о, -ӧ を除く） -ӈ, -ғ, -г １人称所有接辞 -м	-а	-е
語末子音が無声化する -б, -в, -д, -г, -ж, -з で終わるロシア語借用語	-ха	-ке
-зы, -ы, -зі, -і, -ии （３人称所有接辞）	-на	-не

例）тураа（家へ），хараағa（夜中までに），чӱге（羽に），палыхха（魚に），пызоға（子ウシに），кӧзӧге（小枝に）

母音 -ы, -у で終わり -ыа と -уа となるときは -аа となり，-і, -ӱ で終わり -іе, -ӱе となるときは -ее となる．

例）хысхы（冬） + а → хысхыа → хысхаа
тӱлгӱ（キツネ） + е → тӱлгӱе → тӱлгее

３人称単数と複数の所有接辞の後では，与格接辞は -на か -не になる．
例）пабазына（彼のお父さんに），іҷезіне（彼のお母さんに）

語末にアクセントがある母音で終わるロシア語からの借用語は，接辞は -ға / -ге になる．
例）бюро́ға（案内所に），клише́ге（ステロ版に）

語末にアクセントがない母音で終わるロシア語からの借用語は，接辞は -а / -е になる．
例）маши́наа（車に），пра́ваа（権利に；пра́во + а → пра́воа → пра́ваа），Та́няа（ターニャに）

与格の意味

1）行為の宛先，名宛人をあらわす（～に）.

例）Пүүл пістің школаа наа парталар ағылғаннар.

（今年，私たちの学校に新しい学童机が運び込まれた.）

Мин іҷеме пічик ысхам.（私は母に手紙を送った.）

2）行為の行き先や方向，向かう相手をあらわす（～に［向かって］，～へ，～のところへ）.

例）Мин аалға чӧр килгем.（私は村に行って来た.）

3）行為が行われる時間の到達点をあらわす（～まで）.

例）Пабам иирге нанып килер.（私の父は夕方までに帰ってきます.）

4）行為の目的をあらわす（～を求めて，～を探しに）.

例）Олғаннар чистекке парчалар.（子供たちはベリー摘みに向かっている.）

5）行為にさらされる，あるいはその行為の原因（～に；～のために），

例）Наңмырға саңай суух пардым.

（雨に降られて，私はすっかり濡れてしまった.）

6）述語となる形容詞や副詞の意味上の主語をあらわす（～にとって）.

例）Пу юбка сағаа хысха.（このスカートは君には短すぎる.）

7）被動態動詞の行為主体をあらわす（～に［・・・される］）

例）Пабама кӧкседіп алдым.（私は父に怒られた.）

8）感情などをあらわす動詞の対象をあらわす（～に対して）．これらの動詞は与格を要求することが多い.

例）Син килгенге піс ӧрінчебіс.（あなたが来たことに私たちは喜んでいます.）

４．５．４．対格

対格は他動詞の目的語となり，Кемні?（誰を？），Кемнерні?（誰らを？），Нимені（何を？），Нимелерні?（何[複数]を？）の質問に答える形である.

対格接辞はつかないこともある.

しかし，対格接辞が必要なのは以下の場合である：

1）話者がその名詞を強調したいとき

2）話者が知っている特定の，具体的な人や物のとき

3）「この」などの指示代名詞や прай「すべての」，полған на「各々の」といった定代名詞がつくとき

4）形動詞が名詞を修飾するとき

5）形容詞が最上級のとき

6）対格となる目的語が他の文の成分によって述語と離れて位置しているとき

7）対格となる目的語が人名などの固有名詞のとき

8）形容詞や形動詞が名詞化したとき

対格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-ты	-ті
有声子音 母音	-ны	-ні
-зы, -ы, -зі, -і, -ии （３人称所有接辞）	-н	

例）тураны（家を），пичікті（手紙を）

例）Ол туған-чағыннарның иргі сомнарын ағыл пирген.
（彼は親戚たちの古い写真を持ってきてくれた.）
Полина чиңісті холына кир полбаан полза даа, жюри аның теелбегін пөзік паалаан.
（ポリーナは勝利を手にすることはできなかったが，審査員は彼女の踊りを高く評価した.）

４．５．５．位格

位格は，Кемде?（誰のところで？），Кемнерде?（誰らのところで？），Нимеде?（何のなかに？ 何に？ どこで？），Нимелерде?（何[複数]のなかに？ 何[複数]に？ どこで[複数]？），Хайда?（どこで？）の質問に答える形である.

位格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-та	-те
有声子音 母音	-да	-де
-зы, -ы, -зі, -і, -ии （３人称所有接辞）	-нда	-нде

例）тағда（家へ），кізіде（人のところに），ағаста（木に），
туразында（彼の家に）

名詞位格に接辞 -ғы / -гі をつけて形容詞を形成することができる.
例）тағдағы（山のなかにある），чазыдағы（ステップにある），
миндегі（私のところにある）

位格の意味

1）行為が行われる場所，存在する場所をあらわす（～で，～に）.

例）Піс Аағбанда чуртапчабыс.（私たちはアバカンに住んでいます.）

2）人の精神状態や行為の状態をあらわす（～の状態で）.

例）Олғаннар улуғ өріністе школаа чыылысчалар.
（男の子たちはとても嬉しそうに学校に集まってきている.）

3）行為が行われる時をあらわす.

例）Хысхыда улуғ соохтар полчалар.（冬は寒さが厳しい.）

形容詞に位格をつけて時をあらわすこともできる.

例）кічігде（小さい時に）

位格は形動詞とともに用いることができる.

位格が形動詞 -ған 形といっしょに用いられると，「～した時に」，「～した後で」の意味になる．この形動詞 -ған 形であらわされている従属節中の行為が先に終わっている.

形動詞 -ған 形に３人称所有接辞はつかないこともある.

接続詞 хаҷан（～したとき）がつくこともある.

例）Коридорға сых парғанда, Аннаны удурлап алған.
（彼は廊下に出たとき，アンナに会った.）

Пос тілінең учебниктер сыххлаанда, үгренҷілернең пір туста пічік пілбес улуғларны пічікке үгрет сыхханнар.
（母語の教科書が出版された後，生徒たちといっしょに文字を知らない大人たちに文字を教えることが始まった.）

位格が形動詞 -чатхан 形といっしょに用いられると，「～していた時に」の意味になり，継続していた行為をあらわす.

形動詞 -чатхан 形に３人称所有接辞はつかないこともある.

例）Пірсінде Чағбанай ибге нанчатханда, аны Сагалаков ооллары сахтап алған.
（あるときチャグバナイが家に帰っていたとき，サガラコフの息子たちが彼を待っていた.）

位格が形動詞 -ғалах 形といっしょに用いられると，「～しないうちは」の意味になる.

例）Аалда пір кізі дее турғалахта, піс чол сығыбысхабыс.
（村で誰も起きないうちに，私たちは出発した.）

Ирге парып үр дее чуртаалахта, чаа пастабысхан.
（嫁いでから幾ばくも経たないうちに，戦争が始まった.）

４．５．６．奪格

奪格は, Кемнең?（誰のところから？）, Кемнердең?（誰らのところから？）, Нимедең?（何から？），Нимелердең?（何[複数]から？），Хайдаң?（どこから？）の質問に答える形である.

奪格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-таң	-тең
有声子音（-м, -н, -ң 以外）母音	-даң	-дең
-м, -н, -ң 3人称所有接辞	-наң	-нең

例）аалдаң（村から），федеральнай бюджеттең（連邦予算から），
тоннаң（外套から）

アクセントはいつもこの接辞にある.

奪格の意味

1）奪格は行為が始まった場所，人がやってきた場所をあらわす（～から）.

例）Мин Хакасиядаң килгем.
（私はハカスから来ました.）
Мин Сергейдең книгалар алып алдым.
（私はセルゲイから本を何冊か借りた.）
Кізінің фамилиязы, ады паза пабазының ады улуғ буквадаң пасталча.
（人の姓や名前は大文字から始まります.）

2）行為が始まった時をあらわす（～から）.

例）Хакас тілінің урогы ирткен айдаң пасталды.
（ハカス語の授業は先月から始まった.）

3）主文の行為が始まる前の行為が終わったことをあらわす（～してから，～したとき，～するやいなや）.　この場合，形動詞 -ар 形に3人称所有接辞をつけた形で用いる.

例）Наңмыр тохтырынаң, олғаннар чул хазынзар парыбысханнар.
（雨が止んでから，男の子たちは川岸へと走っていった.）
Директор кірерінең ол тур килген.
（所長が入ってくると，彼は立ち上がった.）

4）何かが作られる材料をあらわす（～から［作る］）

例）Іҷем тонны теердең тіккен.
（母はヒツジの毛皮から服を縫製した.）

5）行為の原因をあらわす（～のために）.

例）Соохтаң от уйаң өсче.

（寒さのために草の成長が悪い.）

6）比較の対象「～より」をあらわす.

例）Пу ағас ол ағастаң пөзік.

（この木はあの木より背が高い.）

7）「恐れる」,「遠慮する」,「避ける」対象をあらわす．これらの動詞（感情をあらわす動詞が多い）は奪格を要求することが多い.

例）Адайлардаң хорыхчам.

（私は犬が恐い.）

8）「つかむ」,「叩く」などの行為が向けられる対象（身体の一部）.

例）Мин аны азаанаң хаап алғам.

（私は彼の足をつかんだ.）

４．５．７．方向格

方向格は，Кемзер?（誰のところへ？），Кемнерзер?（誰らのところへ？），Нимезер?（何のところへ？　どこへ？），Нимелерзер?（何[複数]のところへ？　どこへ[複数]？），Хайдар?（どこへ？）の質問に答える形である.

方向格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-сар	-сер
有声子音 母音	-зар	-зер
3 人称所有接辞	-нзар	-нзер

例）суғзар（川へ），ізіксер（ドアのほうへ）

カチン方言とサガイ方言の一部では以下の接辞になることがある.

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-са	-се
有声子音 母音	-за	-зе

例）аалза（村へ）

また，サガイ方言の一部では以下の接辞になることがある．

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-сары	-сері
有声子音 母音	-зары	-зері

例）туразары（家へ），иирзері（夜までに）

方向格の意味

1）方向格は行為の方向をあらわす（～へ，～のほうへ）．
与格と違い，主として「行く」などの運動をあらわす動詞とともに用いられる．

例）Сағдай дынзар пас килген.（サグダイは自分のウマのほうへ近づいた．）
Мағаа магазинзер пар килерге кирек.（私は店に行ってこないといけない．）

2）時間的意味で用いられる（～頃までに）。

例）Иирзер чил саарабысхан.（夕方までに風がやんだ．）

４．５．８．具格

具格は，Кемнең?（誰と？ 誰によって？），Кемнернең?（誰らと？ 誰らによって？），Нименең?（何といっしょに？ 何によって？），Нимелернең?（何[複数]といっしょに？何[複数]によって？）の質問に答える形である．

具格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音 有声子音 母音	-наң	-нең

例）нанчымнаң（私の友人と），кименең（ボートで）

この接辞にアクセントはこない．それが奪格との違いである．

具格の意味

1）その行為をするのに用いる道具や手段，交通手段をあらわす（～によって，～で）．

例）Ол аны күснең ағылған.（彼はその人を力で連れてきた．）

2）その行為を一緒に行う参加者をあらわす（～といっしょに）．

例）Сатикнең Касин（カシンはサチクとともに）

3）時とともに用いて「～後」をあらわす．

例）Мин ікі күннеңөк мында поларбын.
（私は２日後ここにいます．）

４．５．９．因格

因格は，主題（～について）や理由、原因（～のために）をあらわし，Кемнеңер?（誰について？），Кемнернең?（誰らについて？），Нимеденер?（何について？），Нимелерденең?（何[複数]について？）の質問に答える形である．

因格の接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
-р, -л, -й -ғ, -г 母音	-даңар	-деңер
-м, -н, -ң -зы, -зі, -ы, -і （３人称所有接辞形）	-наңар	-неңер
無声子音	-таңар	-теңер

例）тағдаңар（山について），ибдеңер（家について），
харындазымнаңар（私の兄弟について），киптеңер（服について），

因格の意味

１）主題、テーマをあらわす（～について）．

例）Мин тюрк тілліг чоннардаңар пазып аларға пögінгем.
（私はチュルク語を話す諸民族について記述することを決めた．）
Олар іköлең Ағбанда полғандох удур-тödір хада чуртирдаңар сöс пирген полғаннар.
（彼らは二人アバカンにいたときにお互いいっしょに住むことについて約束していたのだった．）

２）その行為の理由や原因をあらわす（～のために，～なので）．

例）Ирткен чылдағы экспедицияда чолда уғаа сидік паза хорғыстығ киректер учураан полғаннаңар, 1861 чылда В. В. Радлов ипчізін позынаң хада албаан.
（去年の調査のとき道中にたいへん困難で危険なことにたくさん遭遇したので，１８６１年V.V.ラドロフは自分の妻を［調査に］同行しなかった．）
Пүүн күн наңмырлығ полғаннаңар, піс суға сомарға парбаабыс.
（今日天気が雨だったので，私たちは川に泳ぎに行かなかった．）

４．５．１０．比較格

比較格は，概数（およそ～，～程度，～と同じ大きさの），沿行動（～に沿って），準拠（～に従って）をあらわし，Кемче?（誰と同じ大きさの？），Кемнерче?（誰らと同じ大きさの？），Нимече?（何に沿って？），Нимелерче?（何[複数]に沿って？），Хайча?（どの道を通って？）の質問に答える形である．

比較格接辞

名詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-ча	-че
有声子音 母音 （-зы, -зі, -ы, -і 以外）	-ча	-че
-зы, -зі, -ы, -і （３人称所有接辞形）	-нча	-нче

比較格の意味

１）その人や物の大きさや重さの概数をあらわす（～ぐらい，～程度）．

例）атча（ウマの大きさぐらいの）

турача（家の大きさぐらいの）

Сағылахтың сыны он сантиметрче.

（バーベル［コイ科の淡水魚］の体長は１０㎝ぐらいである．）

２）その場所に沿って行為を行う場所（～に沿って），また，目的までに通る道筋をあらわす（～の道を通って）．

例）садығ итчең чолча（交易路に沿って）

тағча（山に沿って）

Пулуттар тигірче улуғ салғахтар чіли тарапчатхан.

（雨雲は空に沿って，大波のように，四散していった．）

３）その行為の準拠や分野をあらわす（～［計画や綱領など］に従って，～に関する）．

例）Хакасия пазының чахиинча（ハカス政府首長の依頼に従って）

Хакасия правительствозындағы коронавирустаң тоғыр кўрезерінче оперативнай штаб（ハカス政府内コロナウイルス対策推進本部）

Н.Ф.Катанов тимнеен ағбан татарлары, урянхайлары паза карагастар фолькулорынча кинде 1907 чылда сыххан.

（N.F.カタノフが編纂したアバカン・タタール民族とウリャンハイ民族、カラガス民族のフォークロアに関する本が１９０７年出版された．）

Іле нимес, причастие паза деепричастие формалары сырайча хубулбинчалар.（［動詞の］不定形と形動詞、副動詞は人称で変化しない．）

4）通信手段をあらわす（～という通信手段を通して）.

例）Маға почтаҷа пічік ызыбызарға кирек.

（私は郵便で手紙を送らないといけない.）

Піс ол туста телевизорҷе Американың боевиктерін хорғыстығ киноларын көрҷеңміс.

（私たちは当時アメリカのアクション映画や面白い映画をテレビで見たものだった.）

４．５．１１．格変化表

いくつかの名詞で格変化表にまとめてみると以下のようになる.

主　格	хас （ガチョウ）	чир （土地）	сана （スキー）	аң （獣）	таг （山）
属　格	хастың	чирниң	сананың	аңның	тағның
与　格	хасха	чирге	санаа	аңа	таға / таа
対　格	хасты	чирні	сананы	аңны	тағны
位　格	хаста	чирде	санада	аңда	тағда
奪　格	хастаң	чирдең	санадаң	аңнаң	тағдаң
方 向 格	хассар	чирзер	саназар	аңзар	тағзар
具　格	хаснаң	чирнең	сананаң	аңнаң	тағнаң
因　格	хастаңар	чирдеңер	санадаңар	аңнаңар	тағдаңар
比較格	хасча	чирҷе	санаҷа	аңҷа	тағҷа

名詞に所有接辞がついたときの格接辞のつけ方もそれぞれの場合に準ずる．いくつかの名詞で格変化表にまとめると以下のようになる．

	１人称単数	２人称単数	３人称単数
主　格	адым （私の名前）	чирің （君の土地）	ады （彼の名前）
属　格	адымның	чиріңниң	адының
与　格	адыма	чиріңе	адына
対　格	адымны	чиріңні	адын
位　格	адымда	чиріңде	адында
奪　格	адымнаң	чиріңнең	адынаң
方 向 格	адымзар	чиріңзер	адынзар
具　格	адымнаң	чиріңнең	адынаң
因　格	адымнаңар	чиріңнаңар	адынаңар
比較格	адымча	чиріңче	адынча
	１人称複数	２人称複数	３人称複数
主　格	аңыбыс （我らの獣）	адыңар （あなたの名）	ады （彼らの名）
属　格	аңыбыстың	адыңарның	адының
与　格	аңыбысха	адыңарға	адына
対　格	аңыбысты	адыңарны	адын
位　格	аңыбыста	адыңарда	адында
奪　格	аңыбыстаң	адыңардаң	адындаң
方 向 格	аңыбыссар	адыңарзар	адынзар
具　格	аңыбыснаң	адыңарнаң	адынаң
因　格	аңыбыстаңар	адыңардаңар	адындаңар
比較格	аңыбысча	адыңарча	адынча

３人称単数と複数の所有接辞の後では，与格接辞は -на か -не になる．
３人称単数と複数の所有接辞の後では，対格接辞は -н になる．

３人称単数と複数の位格，方向格，因格，比較格では，所有接辞と格接辞のあいだに -н- がはいる．

４．６．外来語に接辞をつける際の注意点

ロシア語から借用された単語のなかで語末に有声子音がくる単語は，ロシア語の発音規則に従って，ハカス語でもその有声子音は無声化する．そのような単語に複数接辞や格接辞をつける場合，無声子音で始まる接辞をつける．

例）город（町）→　городтар（複数形），городтың（属格），городха（与格）

名詞の最後が -я、-ю、-ё で終わるロシア語からの借用語は，名詞最後の音 -я、-ю、-ё を硬母音とみなし，接辞は硬母音のバリエーションでつける．

例）знамя（旗）→　знамялар（複数形），знамяның（属格），знамяда（位格）
　　самолёт（飛行機）→　самолёттар（複数形），самолёттың（属格）

外来語は母音調和の法則に従わない．ただし，つけるべき接辞のバリエーションは名詞最後の音が硬母音か軟母音で決まる．

例）конгресс（会議）→　конгресстер（複数形），конгресстің（属格）

５．形容詞

形容詞は定語か，状況語あるいは述語（「～である」を意味する動詞 поларға，парарға とともに用いられる）となり，それ自身変化しない．

形容詞は定語として使う場合，修飾する語の前におく．このことは形容詞だけでなく，名詞や代名詞属格が定語になる場合もあてはまる．

例）чылыг чил（暖かい風）：定語

形容詞は，名詞から形容詞を形成する接辞 -лыг をつけて形成された形容詞（元の意味の名詞の部分）を修飾することができる．

例）узун азахтыг пызолар
（長い足をしている子ウシ：узун は азах を修飾している）

形容詞は，疑問詞 хайдаг?（どんな？），хайдагдыр?（どんなである？），хайдагы?（どこにある？），нимедегі?（何のなかにある？）に答える．

物をあらわす名詞は形容詞として用いられることが多い．

例）тас тура（石製の家）

形容詞は副詞として用いられることが多い．

例）Олганнар көгліг ырласча.（子供たちは楽しく歌っている.）

形容詞が名詞を修飾するとき，修飾される名詞に所有接辞はつかないが，名詞が形容詞としてではなく，名詞として名詞を修飾する場合，三人称所有接辞がつく．

例）пүүр палазы（オオカミの子；пүүр は名詞，пала に三人称所有接辞 зы がつく
кирі пүүр（年老いたオオカミ；кирі は形容詞、所有接辞はつかない）
тас тура（石製の家；тас は形容詞として用いられているので所有接辞はつかない）

形容詞は性質形容詞と関係形容詞にわかれる．

性質形容詞は，物の特徴や人の性質をあらわし，比較級を形成することができる．

また，副詞や抽象的な意味をあらわす名詞にもなることが多い．

例）ізіг　暑い：形容詞
暑く：副詞
暑さ，酷暑：名詞

関係形容詞は事物間の関係や場所，時間的関係をあらわす．主として，名詞から，まれに性質形容詞や副詞から形成される．

関係形容詞は比較級を形成しない．

例）аттыг　ウマの，ウマを所有している
иртенгі　朝の
чазыдагы　ステップにある

５．１．形容詞の形成

５．１．１．名詞から形成する形容詞

１）所有や含有をあらわす接辞

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音 （ а, ы, о, у, я, ё ）	軟母音 （ э (е), и, і, ö, ӱ ）
有声子音	-лыҕ	-ліг
無声子音	-тыҕ	-тіг
母音 -м, -н, -ӈ	-ныҕ	-ніг

例）маллыҕ（家畜を所有している；＜ мал：家畜），тастыҕ（石の多い；＜ тас：石），
кögліг（楽しい；＜ кög：楽しさ，陽気），ӱнніг（声量豊かな＜ ӱн：声）

語幹であらわされる名詞を所有していることや含有していること、その名詞が多いことをあらわす関係形容詞を形成する接辞である．

ときには，その名詞が指す特徴をあらわすこともある．

例）сӱттіг інек（よく乳をだすウシ）
cf. сӱттіг könek（乳が入っているバケツ）
тадылыҕ（おいしい；＜ тады：味）

物だけでなく，抽象名詞やロシア語の借用語からなど広範囲な名詞から形成される，現代ハカス語ではきわめて生産的な接辞である．

例）öріністіг（喜びをもたらす；＜ öрініс：喜び），
машиналыҕ（車を所有している；＜ машина：車－ロシア語）

接辞 -лыҕ は古代チュルク語の所有接辞 *-lyɣ* に起源がある．

２）名詞のあらわす意味に傾倒した、という意味をあらわす

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-чы	-чі
有声子音	-ҷы	-ҷі
母音 子音	-(а)ачы	-(е)ечі

例）уйғуҷы（眠そうな＜ уйғу：眠り），ырҷы（歌うのが好きな＜ ыр：歌），

3）時をあらわす形容詞を形成する

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-хы	-кі
有声子音	-ғы	-гі

例）хысхы（春の＜ хыс：春），пылтырғы（去年の＜ пылтыр：去年），
пүүлгі（歌うのが好きな＜ пүүл：今年），　иртенгі（朝の＜ иртен：朝）

名詞だけでなく副詞からも形成する．
例）пурунғы（昔の，古代の，以前の＜ пурун：以前に），
кичеегі（昨日の＜ кичее：昨日）

空間をあらわす意味を形成することもある．
例）ырахxы（遠くにある，遠い＜ ырах：遠い；遠くに）

4）場所「～にある」をあらわす

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-тағы	-тегі
a x 有声子音	-дағы	-дегі

例）тағдағы（山にある，山に生えている＜ тағ：山），
көлдегі（湖にある，湖に住んでいる＜ көл：湖）

この接辞は名詞の位格 -та（とその発音上のバリエーション）と形容詞形成接辞 -ғы（とその発音上のバリエーション）が結合した接辞である．

この接辞は代名詞や形容詞からも形成できる．
例）миндегі（私のところにある＜ мин：私；代名詞）

主として，場所「～にある」をあらわすが，時をあらわすこともある．その際，接辞 -хы（その発音上のバリエーション）で形成された形容詞や副詞にこの接辞がつくことが多い．
例）чайғыдағы（夏に行われる＜ чайғы：夏の）

この接辞をつける際に、名詞に所有接辞がついてもよい．接辞をつける名詞の前に名詞（あるいは代名詞）があり、所有接辞がつくためである．その際，名詞三人称所有接辞と形容詞形成接辞のあいだには -н- がはいる．
例）Пу палығас суғ түбіндегі хурт-хоостарнаң азыранча.
（この魚は川底に住む虫を餌としている．＜ түп：底；суғ түбі：川の底）

Позыңның клазындағы олғаннарның аттарын адап пир.
（あなたのクラスにいる男子たちの名前をあげなさい.
＜ класс：クラス；позыңның клазы：あなたのクラス）

5）所属「～に属している」や関係「～の」をあらわす

名詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音
無声子音	-ти
有声子音	-ни

例）колхозти（コルホーズに属している＜ колхоз：コルホーズ）

この接辞は名詞の属格 -тың（とその発音上のバリエーション）と形容詞形成接辞 -ғы（とその発音上のバリエーション）が結合した接辞である.

５．１．２．動詞から形成する形容詞

1）語幹となる動詞の行為を行った結果生じる様態をあらわす

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音 (а, ы, о, у, я, ё)	軟母音 (э (е), и, і, ö, ÿ)
子音	-ых	-ік
母音	-х	-к

例）ачых（開いた；＜ ас-(ач-)），чабых（覆われた；＜ чап-），
артых（残った；＜ арт-），чүгүрік（すばしこい；＜ чүгүр-），
изірік（酩酊した；＜ изір-），чарых（明るい，輝く；＜ чары-），
ірік（腐った；＜ ірі-）

2）語幹となる動詞の行為を行った結果生じる様態をあらわす　－　生産的

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ығ	-іг
母音	-ғ	-г

例）ачығ（酸っぱい；＜ ачы-），хуруғ（乾燥した；＜ хуру-），
артых（残った；＜ арт-），ізіг（暑い，熱い；＜ ізі-），пызығ（熟した；＜ пыс-），
хатығ（硬い；＜ хат-）

この接辞は歴史的には接辞１）の有声音のバリエーションと考えられている.

接辞１）と２）は名詞の形成接辞でもあるが、おそらく初めは形容詞として形成され、後に名詞化したものと考えられる.

例）харбах（ものをすくう手のひらの形），илгек（篩）

３）物や人の特徴や性質，性格をあらわす

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-аң	-ең
母音	-ң	

例）чырбыраң（滑りやすい，滑らかな；＜ чырбыра-），хуяң（臆病な；＜ хуй-），пораң（くすんだ；＜ пора-），

４）恒常的な特徴や性格をあらわす

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-чах -чых	-чек -чік
有声子音	-ҷах -ҷых	-ҷек -ҷік

例）ундутчах（忘れっぽい；＜ ундут-），тарынҷах（怒りっぽい；＜ тарын-），намзанҷах（愚痴っぽい；＜ намзан-），кірленҷік（汚れやすい；＜ кірлен-），толғалҷых（不安定な；＜ толғал-），талалҷых（折れやすい；＜ талал-）

この接辞は動詞再帰態と被動態語幹から形成される。

この接辞は古代チュルク語の形動詞接辞 *-čyq* に起源がある.

５）恒常的な特徴や性格をあらわす

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-хах	-кек
有声子音	-х	

例）таласхах（口やかましい；＜ талас-），киліскек（役に立つ；＜ киліс-），

6）恒常的な特徴や性格をあらわす

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-чы -чыл -чын	-чі -чіл -чін
有声子音	-ҷы -ҷыл	-ҷі -ҷіл
母音 子音	-аачы	-еечі

例）малғатчы, малғадаачы（わがままな；＜ малғат-），
түгенҷі, түгенеечі（最後の；＜ түген-），ізеечі（いつも飲んでばかりいる；＜ іс-），
нанаачы（家に帰りたがる；＜ нан-）

この接辞は名詞形成接辞（「～する人」を意味する）ともなる．もともと古代チュルク語の形動詞接辞 *-či / -čy* であったものが名詞化したためである．

7）

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-хын	-кін
有声子音	-ғын	-гін

例）чатхын（横になっている；＜ чат-），кіргін（中に入ってきた；＜ кір-），
тискін（隠れている，逃げている；＜ тис-）

8）

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ым	-ім
母音	-м	

例）алғым（広い；＜ алғы-），хызым（緊張した、狭い；＜ хыс-），

9）行為の結果をあらわす

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
子　　音	-ма	-ме

例）таллама（選ばれた；＜ талла-），чылтырама（輝く；＜ чылтыра-），намырама（十分にある；＜ намыра-）

１０）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
無声子音	-хыс	-кіс

例）хапхыс（ずるい；＜ хап-）

５．１．３．形容詞，副詞から形成される形容詞

1）

形容詞，副詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音 （ а, ы, о, у, я, ё ）	軟　母　音 （ э (е), и, і, ö, ÿ ）
有声子音	-лыҕ	-ліг
母　　音 -м, -н, -ҥ	-ныҕ	-ніг
無声子音	-тыҕ	-тіг

例）толҕайлыҕ（ジグザグの形のある，ジグザグしている；＜ толҕай：ジグザグの），

2）

形容詞，副詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
無声子音	-хы	-кі
有声子音	-ҕы	-гі

例）ыраххы（遠くにある；＜ ырах：遠い；遠くに）

形容詞は副詞もあらわすので，副詞から形成されるともいえる．

３）ロシア語の形容詞から形成する接辞

ロシア語の 形容詞語尾	語幹の 最終音節の母音
-ый 型 -ий 型	-ай
-óй 型	-ой

例）собственнай（固有の ＜ сóбственный ），
областной（州の ＜ областнóй ），
сибирскай（シベリアの＜ сибúрский ），
ロシア語の形容詞変化語尾（ -ый，-ая，-ое，-ые など）をとって上記接辞をつける．
母音調和はしなくてよい．
この接辞による形成は 1930 年代頃から始まったといわれている．
現在，この接辞から形成した形容詞の使用頻度は減少し、ハカス語の形容詞形成接辞を用いる傾向にあるが，新聞などでは依然として使用されている．
例）федеральнай закон（連邦の法律），пенсионнай фонд（年金基金），
экономическай кризис（経済危機）

ロシア語形容詞中性形は名詞化することがあるが，その場合，ハカス語では上記のロシア語形容詞から形成する接辞を使い，そのまま名詞となる．
人や職業をあらわす名詞化した形容詞も同様である．
例）

ロシア語（意味）	ハカス語
подлежащ<u>ее</u>（主語）	подлежащ<u>ай</u>
сказуем<u>ое</u>（述語）	сказуем<u>ай</u>
учён<u>ый</u>（学者）	учён<u>ай</u>，учён<u>ай</u>лар

５．１．４．その他の形容詞形成接辞

１）外観や感情、物の特徴や性質をあらわす

動詞語幹の 最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
子　　音	-хай	-кей
母　　音	-ғай	-гей

例）туранхай（［ウマが］よく疲れる），сылағай（すらりとした），
килтегей / кидей（無関心な），абахай（きれいな）

２）

動詞語幹の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
無声子音	-ха	-ке
有声子音	-ға	-ге

例）хысха（短い；＜ хызыр-），чорға（［ウマが］側対歩で走ることができる；＜ чорт-），

この接辞から形成された形容詞の多くはすでに語幹と分けられず一体化していることがふつうである．

３）否定語 чох を使う用法

名詞の後に否定 чох をつけて，「～ではない」という形容詞的な使い方をする．

例）хорғыс чох （安全な；＜ хорғыс：危険）

名詞には３人称所有接辞がつくことが多い．

例）ахчазы чох кізі （お金のない人；＜ ахча：お金）

саны чох чылтыстар （数えられないほど多くの星；＜ сан：数）

салаазы чох ағас （枝のない人；＜ салаа：枝）

名詞指小形接辞をつけて形成する形もあるようである．

例）ниигес（ちょっと軽い；＜ ниик：軽い ＋ес ）

ниигезек（ちょっと軽い；＜ ниик：軽い ＋ес＋ек ）

５．２．形容詞の強化

１）強勢をあらわす副詞をつける

уғаа（とても，きわめて）

тың（とても，きわめて）

иң（とても）

илееде（はるかに，十分に，かなり）

例）уғаа пӧзік（とても高い），уғаа ізік（非常に暑い），иң улуғ（とても大きい），

илееде улуғ（かなり大きい）

２）同じ形容詞をハイフンでつなぐ

例）улуғ-улуғ（とても大きい）

３）形容詞の一部の重複による合成形

２音節以上からなる形容詞は形容詞の第１音節最後の母音の後に -п をつけて元の形容詞とハイフンでつないで用いる．

例）хап-хара（とても黒い），уп-узун（とても長い），чоп-чоон（とても太い）

4）形容詞母音の長母音化

形容詞を強調するために，形容詞第１音節の母音を２つ並べて長く発音することもある．

例）Уулуг наңмыр килче.（すごい大雨が降っている；＜ улуг）

5）１音節からなる形容詞の強化

１音節からなる形容詞は第１音節の後を -п に変えて以下の接辞をつける方法もある．

形容詞の第１音節	接辞
硬音	-паг ас
軟音	-пегес

例）аппаг ас（とても白い，真っ白な ＜ ах ），

көппегес（とても青い，真っ青な ＜ көк ）

５．３．形容詞の弱化

1）弱化をあらわす接辞

①「～っぽい」，「少し～」

形容詞，副詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-сымах	-сімек
有声子音	-зымах	-зімек

例）

②「～っぽい」，「少し～」

形容詞，副詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
	-амдых	-емдік

例）аг амдых（白っぽい ＜ ах），харамдых（黒っぽい ＜ хара ）

③「～っぽい」，「少し～」

形容詞，副詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音
	軟音
	-ілбей

例）көгілбей（青っぽい ＜ көк ）

２）助詞や副詞を用いる方法
助詞 арах（～っぽい，少し）
形容詞の後ろにつける．
例）хызыл арах（赤っぽい）, улуғ арах（少し大きい）

арах は弱化の接辞がついた形容詞にもつけることができる．
例）харамдых арах（ちょっと黒っぽい）

５．４．比較級

２つの物の具体的な特質もしくは特徴の比較において形容詞は特別な変化をしない．比較する対象「～よりも」は奪格にしてあらわす．
例）Күн айдаң чарых.（太陽は月より明るい.）
Мин синнең табырах азыраныбызарбын.
（ぼくは君よりも早く食べ終えてしまうよ.）

この比較級の構文では形容詞の後に助詞 арах（～っぽい，少し）をつけると，「～より少し…だ」という意味になる．
例）Пүүр адайдаң улуғ арах.（オオカミは犬より少し大きい.）
Адай пүүрдең кічіг арах.（犬はオオカミより少し小さい.）

この比較級を強める副詞として илееде（はるかに，十分に）が用いられる．
例）Пүүр адайдаң илееде улуғ.（オオカミは犬よりはるかに大きい.）

対象を比喩的に用いてあらわす場合にも奪格にしてあらわす（５．５．最上級参照）．
例）хардаң ах（雪よりも白い，真っ白な）

５．５．最上級

１）иң（もっとも，一番～）をつける方法
形容詞の前に иң（もっとも，一番～）をつけてあらわす．
例）иң тадылығ（一番おいしい）

２）同じ形容詞を２つ重ねる（並べる）方法
二通りのつくり方がある．
①　同じ形容詞の一つを奪格（～より）にして「～の中で一番～の」の構文にしてあらわす．
例）тадылығдан тадылығ（おいしいものなかで一番おいしい）
сілігден сіліг（綺麗ななかで一番綺麗な）
同様に，名詞や副詞を重ねてあらわすこともできる．
例）удаадан удаа（より頻繁に）

②　同じ形容詞を２つ重ねる（並べる）方法
同じ形容詞を２つ重ねてあらわすが，その際に前者の名詞や形容詞は属格にして，後者の形容詞には三人称所有接辞をつける．
例）чахсының чахсызы（良いものなかで良い，一番良い）

хомайның хомайзы（悪いものなかで悪い，一番悪い）

同様に，名詞を重ねることでもあらわすことができる．その際，иң（もっとも，一番～）をつけるのがよい．

例）алыптардың иң алыбы（勇者のなかの勇者）

３）名詞と比較して，「(名詞）よりも～な」という構文

名詞奪格　＋　形容詞　であらわす．

例）хардаң ах（雪よりも白い，真っ白な），ханнаң хызыл（血よりも赤い）

５．６．形容詞の名詞化

５．６．１．形容詞に所有接辞をつける方法

形容詞に所有接辞をつけると形容詞は名詞化する．「～なもの」，「～なこと」という意味になる．ふつう名詞の属格や人称代名詞の属格とともに用いられる．

例）суғның узуну（川の長さ）

形容詞に名詞格接辞がつくことがある．その場合，形容詞は名詞的な意味として用いられている．

例）кічігдең（小さい頃から）

кічігде（小さい頃に）

５．６．２．形容詞に名詞の複数形接辞をつける方法

形容詞に名詞の複数形接辞をつけると，「～な人々」をあらわす．

例）кырганнар（お年寄りたち）

плендегілер（捕虜になった人たち）

кічіглер（小さい子たち，子供たち）

６．数詞

ハカス語において数詞のほとんどは共通チュルク語である．

６．１．個数詞

個数詞を以下に表にしてあげる．

一の位		十の位		百の位（ чӱс ）	
1	пір	１０	он	１００	пір чӱс
2	ікі	２０	чибіргі	２００	ікі чӱс
3	ӱс	３０	отыс	３００	ӱс чӱс
4	тӧрт	４０	хырых	４００	тӧрт чӱс
5	пис	５０	иліг	５００	пис чӱс
6	алты	６０	алтон	６００	алты чӱс
7	читі	７０	читон	７００	читі чӱс
8	сигіс	８０	сигізон	８００	сигіс чӱс
9	тоғыс	９０	тоғызон	９００	тоғыс чӱс

千の位（ муң ）		１００万の位（ миллион ）	
１，０００	пір муң	１，０００，０００	пір миллион
２，０００	ікі муң	１０，０００，０００	он миллион
３，０００	ӱс муң	１００，０００，０００	чӱс миллион
４，０００	тӧрт муң	１０億の位（ миллиард ）	
５，０００	пис муң	１０億	пір миллиард
６，０００	алты муң	１００億	он миллиард
７，０００	читі муң	１０００億	чӱс миллиард
８，０００	сигіс муң		
９，０００	тоғыс муң		
１０，０００	он муң		
１００，０００	чӱс муң		

１１や１２５，２５８７などの組み合わせは，それぞれの数詞を組み合わせて用いる．したがって，上記の数字はそれぞれ он пір（１１），чӱс чибірги пис（１２５），ікі муң пис чӱс сигіс читі（２５８７）となる．

個数詞は修飾する名詞の前におく．数詞の後の名詞はふつう単数形である．
例）алты ат（６頭のウマ），чибіргі читі інек（２７頭のウシ）

個数詞は疑問詞 нинче? に答える．

個数詞は格変化する．合成数詞の場合は，末尾の数詞だけが格変化する．また，格接辞だけでなく，複数形接辞や所有接辞もつけることができる．

格変化表

主　格	пір	он	хырых
属　格	пірнің	онның	хырыхтың
与　格	пірге	онға	хырыхха
対　格	пірні	онны	хырыхты
位　格	пірде	онда	хырыхта
奪　格	пірден	оннан	хырыхтан
方 向 格	пірзер	онзар	хырыхсар
具　格	пірнен	оннан	хырыхнан
因　格	пірдеңер	оннаңар	хырыхтаңар
比 較 格	пірче	онча	хырыхча

格変化表

主　格	чүс	муң	ікі чүс иліг төрт
属　格	чүстің	муңның	ікі чүс иліг төрттің
与　格	чүске	муңа	ікі чүс иліг төртке
対　格	чүсті	муңны	ікі чүс иліг төртті
位　格	чүсте	муңда	ікі чүс иліг төртте
奪　格	чүстең	муңнаң	ікі чүс иліг төрттең
方 向 格	чүссер	муңзар	ікі чүс иліг төртсер
具　格	чүснең	муңнаң	ікі чүс иліг төртнең
因　格	чүстеңер	муңнаңар	ікі чүс иліг төрттеңер
比 較 格	чүсче	муңча	ікі чүс иліг төртче

個数詞 пір の用法

пір は пірее という形でも用いられる.

1）個数詞として人や動物，物の数「１つ（の)」をあらわす.

例）пір ат（１頭のウマ）

2）１回だけの回数をあらわす.

例）Пір хати чойланзаң – прай чуртазыңда чой поларзың.

（１回嘘をついたなら、一生涯嘘つきのままだ.）

3）不定代名詞として用い，「ある」，「なんらかの」の意味をあらわす.

例）Пір кізі килген.（誰かが来た.）

Ол пір ниме чоохтапча.（彼は何かを言っている.）

Пірее чирде（どこでもよいからどこかへ）

4）пір дее という形とともに動詞を否定形にして用いて，「何も～（ない），「誰も（～ない）」，「どこへも（～ない）」の意味をあらわす．

例）Пір дее ниме пілбеен.（[彼は] 何も知らなかった.）
Ол сыынаӈ аны пір дее кізі ниме көрбеен.
（それ以来，誰も彼を見なかった.）
Сірер миннеӈ сурынмин пір дее чирге чөрбеӈер.
（あなたは私の許しなしでどこへも行ってはいけません.）

5）特定の格接辞と結びついて代名詞や副詞の役割を果たす．

例）пірее / пірееде / пірде（ときどき；位格）
Пірде ..., пірде ... .（あるときは…で，またあるときは….；位格）
пірге（いっしょに；与格）

6）пір を用いたいくつかの熟語

пір хати（かつて，あるとき）
пір чыл（過去において，かつて）
пір хыринча（首尾よく）
пір саӈай（一度に，卸で）

６．２．序数詞

序数詞は序数詞の意味をあらわす接辞が数詞について形成されている．以下に序数詞を形成する接辞とその結果形成された序数詞を挙げておく．序数詞のいくつかはこの接辞から形成されていない．

序数詞は疑問詞 нинченчі? に答える．

序数詞を形成する接辞

数詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-нчы	-нчі
有声子音 母音	-ынчы	-інчі

序数詞

1	пірінчі пастағы	１０	онынчы	１００	чүзінчі
2	ікінчі	２０	чибіргинчі	１０００	муӈынчы
3	үзінчі	３０	отызынчы	１００万	миллионынчы
4	төртінчі	４０	хырығынчы	１０億	миллиардынчы
5	пизінчі	５０	илігінчі		
6	алтынчы	６０	алтонынчы		
7	читінчі	７０	читонынчы		
8	сигізінчі	８０	сигізонынчы		
9	тоғызынчы	９０	тоғызонынчы		

個数詞末尾の無声子音は，母音のあいだに挟まれたとき，有声化するものもあるので，序数詞表で確認すること．
例）ўзінчі（３番目の），пизінчі（５番目の）

「１番目の」をあらわす序数詞は数字１に接辞をつけて形成した пірінчі は用いられず，動詞 паста- 「始める；先頭を行く；指導する」から形成された пастағы 「１番目の；最初の」を用いる．пірінчі は１１以上の合成数詞で用いる．
例）пастағы класс（１年生）
末尾が「０」でない１１以上の数字では末尾の数字だけが序数詞になればよい．
例）он ікінчі（１２番目の）

序数詞は所有接辞がついて名詞化して用いられることもある（「彼らうちの１人」など）．その際は複数形接辞や格接辞をつけることができる．
例）Төртінчізі килбеен.（彼らのうちの４人目の人は来なかった．）
Син ўзінчізізің.（君は３番目（の人）だ．）

序数詞に所有接辞がついた形の格変化の例を以下に挙げる．
格変化表

主　格	ікінчізі	онынчызы
属　格	ікінчізінің	онынчызының
与　格	ікінчізіне	онынчызына
対　格	ікінчізін	онынчызын
位　格	ікінчізінде	онынчызында
奪　格	ікінчізінең	онынчызынаң
方 向 格	ікінчізінзер	онынчызынзар
具　格	ікінчізінең	онынчызынаң
因　格	ікінчізінеңер	онынчызынаңар
比 較 格	ікінчізінче	онынчызынча

６．３．集合数詞

個数詞に以下の接辞がついて形成される．その際，個数詞の最後の母音は脱落する．

集合数詞を形成する接辞

数詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬　音	軟　音
子　音 母　音	-олаң	-өлең

個数詞最後の母音が ы か і で終わっているとき，これらの母音は脱落して集合数詞形成接辞がつく．また，個数詞最後の母音 с は有声化して з になる（以下の集合数詞参照）．
個数詞 пір の集合数詞は形成されない．

以下に集合数詞をあげる．

ікөлең	二つ；２人で	читөлең	七つ；７人で
үзөлең	三つ；３人で	сигізөлең	八つ；８人で
төртөлең	四つ；４人で	тоғызолаң	九つ；９人で
пизөлең	五つ；５人で	онолаң	十；１０人で
алтолаң	六つ；６人で		

合成数詞の場合は末尾の個数詞のみが集合数詞になればよい．

例）пір чүс ікөлең（１０２人で）

集合数詞は格変化をし，所有接辞と述語接辞をつけることができる．そして集合数詞は文中で主語や述語，補語，状況語となる．

格変化表

主　格	алтолаң	үзөлең
属　格	алтолаңның	үзөлеңнің
与　格	алтолаңа	үзөлеңе
対　格	алтолаңны	үзөлеңні
位　格	алтолаңда	үзөлеңде
奪　格	алтолаңнаң	үзөлеңнең
方 向 格	алтолаңзар	үзөлеңзер
具　格	алтолаңнаң	үзөлеңнең
因　格	алтолаңнаңар	үзөлеңнеңер
比 較 格	алтолаңча	үзөлеңче

例）Мағаа ікөлеңе номер кирек.（私はダブルの部屋が必要だ.）

「２人で」というように副詞的に用いるときには，分配をあらわす接辞のうち以下の接辞 -арлап，-ерлеп，-ларлап，-лерлеп（６．５．参照）をつけてあらわすこともできる．

例）Онарлап килдібіс.（私たちは１０人でやって来た.）

数詞 ікі は，三人称所有接辞がついた形で用いて、「両者」や「両方」の意味になる．その際はふつう олар とともに用いられ，格変化もする．

例）Олар ікізінең чахсы үгпенчелер. Аннаңар оларға ікізіне грамота сыйлааннар.
（彼らは二人とも成績が良い．そのため，彼ら二人に賞状が授与された.）

格変化表

主　格	(олар) ікізі
属　格	ікізінің
与　格	ікізіне
対　格	ікізін
位　格	ікізінде
奪　格	ікізіден
方 向 格	ікізінзер
具　格	ікізінең
因　格	ікізінеңер
比 較 格	ікізінче

分配接辞をつけた個数詞は集合数詞として用いられることもある（６．５．分配を参照）.

６．４．概数

概数をあらわすにはいくつかの方法がある.

１）接辞を個数詞につけて形成する方法
概数を形成する接辞

数詞の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
無　声　子　音	-ча	-че
有　声　子　音 母　　音	-ча	-че

例）писче（５個ぐらい），отысча（およそ３０個），муңча（約１０００）

合成数詞の場合は末尾の数字に概数接辞をつければよい.
例）ўс чўс ілігче（およそ３５０）
これは名詞の比較格の用法とも言える.

２）後置詞 чағын（～に近い；与格要求）を用いる方法
後置詞 чағын（～に近い；与格要求）を用いて概数をあらわす．ただしその数量に近いという意味でその数量を超えていない.
例）муңа чағын（およそ１０００；文字通りは「１０００に近い数量」），
ікі чўс процентке чағын（２００％に近い，２００未満）
概数をあらわす際、その数量より超える場合には，数詞主格あるいは数詞の奪格（～より）に артых（より多い）をつけてあらわす.
例）Чўстең артых хой тутча.（彼は１００頭以上のヒツジを飼育している.）

３）数詞の前に пірее（およそ）をつける方法

例）Піс анда пірее отыс күнге читіре тоғынған поларбыс.

（私たちはそこで約３０日間働いた.）

４）前後の数字を並べる方法

前後の数字をハイフンつないで並べる．その際，小さいほうの数字が先にくる．数詞に続く名詞は複数形の場合もある.

例）пір-ікі ағастар（１，２本の木）

Тоғысты тузында тоос саларға піске ікі-үс час ла читпин халған.

（仕事を期限内に終えるのに，私たちには２，３時間足らなかった.）

Анда прай аалның ипчілері ікі-үс күнде он муң хойны хырығыбысча.

（そこでは村の女性たちみんなで２，３日のあいだに１万頭のヒツジの毛を刈っている.）

５）数詞のあとに артиинаң（～以上）を用いる方法

例）Прайзы читі кізі артиинаң полған.（全員で７人以上の人がいた.）

６．５．分配

分配（～ずつ）をあらわすには個数詞に以下の接辞をつけて形成する.

分配をあらわす接辞

数詞の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音 有声子音	-ар -арлап	-ер -ерлеп
母音	-лар -ларлап	-лер -лерлеп

例）ікілер / ікілерлеп（２個ずつ），онар / онарлап（１０個ずつ），

合成数詞の場合は，末尾の個数詞に分配をあらわす接辞をつけて形成すればよい.

例）он төртер（１４個ずつ），үс чүс алтонар（３６０個ずつ）

１００の位あるいは１０００の位で分配をあらわす場合には，１００の位あるいは１０００の位の個数詞は奪格となり，１００の位あるいは１０００の位の数詞に先行する個数詞には分配をあらわす接辞 -ар，-ер をつける.

例）пір чүс отыс пиз**ер** муң**наң**（１３万５０００個ずつ）

пиз**ер**：分配をあらわす接辞

муң**наң**：奪格

個数詞に奪格接辞をつけて，あるいは分配をあらわす接辞を個数詞につけた後で奪格接辞をつけて分配をあらわすこともある.

個数詞 ＋ 奪格

個数詞 ＋ -ар / -ер ＋ 奪格

例）оннаң / онардаң（１０個ずつ），чүз**ерде**ң（１００個ずつ）

-арлап の接辞は，数詞に動詞形成接辞 -ла をつけて形成した動詞の副動詞 -ып 形である．

分配をあらわす接辞をつけた数字は概数として用いられることもある．
例）мун**ар** чыллар мының алнында （数千年前に）

概数＋分配の例もある．
例）Часхыда пір öörде ўзер-törтер киик парза, кўскўде сигіс-тоғыс киик айланча.
（春にひとつの群れに３、４頭ずつのノロジカがいたならば，秋にはノロジカは８、９頭になって帰ってくる．）

６．６．分数

分数の言い方は以下の通りである．
１）分母の数詞に属格接辞をつけてあらわし（～分の…）．それに続く分子の数詞に３人称所有接辞をつける．
例）алтынның пизі（５/６），törттің ўзі（３/４）

２）先に分子の数詞を主格であらわし，それに続く分母の数詞に所有をあらわす形容詞を形成する接辞（ -тыг とその発音上のバリエーション）をつけてあらわす．これはロシア語の影響である．
例）ўс törттіг（３/４），пір пістіг（１/５）

３）方言として，分母を個数詞奪格で，分子を個数詞主格であらわす言い方もある．
例）törттең пір （１/４）

帯分数をあらわすには，整数と分数のあいだに пўдін（整数の）を入れる．
例）ікі пўдін ўстің пірі（２と１/３），
ікі пўдін пір ўстіг（２と１/３）

分数は格変化する．
格変化表（例は「５/６」）

主　格	пис алтылыг
属　格	пис алтылығның
与　格	пис алтылыға
対　格	пис алтылығны
位　格	пис алтылыгда
奪　格	пис алтылыгдаң
方 向 格	пис алтылыгзар
具　格	пис алтылығнаң
因　格	пис алтылыгдаңар
比 較 格	пис алтылығча

６．７．小数

分数の言い方と同じ方法であり，０．□は онның（１０分の□）を用いる．
例）ўс пўдін онның төрті（３．４）

６．８．算数

６．８．１．加法

хозарға(хос-)　足す
Чит**ее** ўс<u>ти</u> хосса, он полар.
７に（**与格**）３を（<u>対格</u>）足すと，１０になる（７　＋　３　＝　１０）．

６．８．２．減法

аларға(ал-)　引く
Сигіс**тең** ўс<u>ти</u> алза, пис полар.
８から（**奪格**）３を（<u>対格</u>）引くと，５になる（８　－　３　＝　５）．

６．８．３．乗法

хатирға(хата-)　かける
Ікіні ўстке хатаза, алты полар.
２に（**与格**）３を（<u>対格</u>）かけると，６になる（２　×　３　＝　６）．

６．８．４．除法

ўлерға(ўл-)　割る
Алтыны ікее ўлезе, ўс полар.
６を（**対格**）２で（<u>与格</u>）割ると，３になる．
Алты**ны** ік<u>ее</u> ўлезе, уз**ер**<u>ден</u> килізер.
６を（**対格**）２で（<u>与格</u>）割ると，３（分配の接辞＋奪格）になる（６　÷　２　＝　３）．

６．９．助数詞

数を数えるための語句（助数詞）として次のものがある．
пас　：～頭（家畜の頭数をあらわす）
例）он ікі пас мал　１２頭の家畜
ниме　：～個（ものの数をあらわす）
例）ўс ниме　ものが３個
пар　：～組（対になっている物をあらわす）
例）ікі пар ух　２組の靴下
сарсых　：～の片割れ（対になっている物の１つをあらわす）
例）пір сарсых мелей　ミトン手袋の片方
тілім　：１切れ，１片
例）пір тілім халас　パン一切れ，ікі тілім хаас　ベルト一片

кизек　：区切られた一部分，断片，ひとかたまり
例）ўс кизек сахар　角砂糖３個

６．１０．数量をあらわす語句

数詞ではないが，関連語としてここに数量をあらわす語句のいくつかとその例を挙げておく．これらの数量をあらわす語句の後はふつう名詞は単数形である．

чарым　：半分
例）пір чарым　１、５，чырым кўн　半日
орты　：半分
例）орты чол　途中，чылның ортызы　１年の中盤
чалғыс　：１；唯一の；一人ぼっちの
例）чалғыс пала　１人っ子，唯一の子供，　一人ぼっちの女性
пастағы　：最初の
例）пастағы урок　第一課
халғанчы　：最後の；一番下の（弟や妹）
例）халғанчы урок　最後の課，最後の授業，халғанчы харындас　一番下の弟
халғанчызы　：最後の人やもの
例）Халғанчызы килді.　最後の人がやって来た.
артых　：余剰，余り，多量
例）ахчаның артии　剰余金
тўбен　：非常にたくさんの
例）тўбен чон　たくさんの人々
көп　：多量の，たくさんの；多量，非常にたくさんの量
例）көп ахча　非常にたくさんのお金
ас　：少量の，少ない
例）Ахча ас.　お金が少ない.
көмес　：少しの，少数の
例）көмес чон　少ない人々
харыс　：親指と人差し指を広げた長さ，１/４
例）пір харыс чир　わずかな土地
кизек　：多くない，少量の
例）кизек мал　少ない数の家畜
нинче-нинче　：いくつかの
例）нинче-нинче хати　数回

７．代名詞

７．１．人称代名詞

人称代名詞は以下の通りである．

	単　　数	複　　数
１　人　称	мин	піс
２　人　称	син	сіпер
３　人　称	ол	олар

２人称複数形 сіпер は丁寧に話すとき１人に対しても用いられる．古くは，他のチュルク諸語と同様に，丁寧，敬語の意味で１人に対して使用されることはなかった．ロシア語の影響と考えられる．

人称代名詞の格変化表

主　格	мин	син	ол	піс	сіпер	олар
属　格	минің	синің	аның	пістің	сіпернің	оларның
（物主）	мини	сини	ани	пісті	сіперни	оларни
与　格	маған	сағаа	ағаа	піске	сіперге	оларға
対　格	мині	сині	аны	пісті	сіперні	оларны
位　格	минде	синде	анда	пісте	сіперде	оларда
奪　格	миннең	синнең	аннаң	пістең	сіпердең	олардаң
方向格	минзер	синзер	аныңзар	піссер	сіперзер	оларзар
具　格	миннең	синнең	аннаң	піснең	сіпернең	оларнаң
因　格	миннеңер	синнеңер	аннаңар	пістеңер	сіпердеңер	олардаңар
比較格	минче	синче	анча	пісче	сіперче	оларча

人称代名詞属格が修飾する名詞には所有接辞をつける（４．３．所有のカテゴリーを参照）．

例）минің пабам（私の父）

与格は，サガイ方言では меге / мее（私に），сеге / сее（君に），аа（彼に，彼女に，それに）を用いることがある．

奪格で，минінең，синінең を用いる地域もある．

「～にある」という意味をなす形容詞を形成する接辞 -дағы / -дегі をつけることもできる．

例）миндегі（私のところにある）

７．２．指示代名詞

пу　　この（話者からみてその物や人が触れたり，手に取ったりできる近い距離）
тігі　　この，その（話者からみて少し離れた場所，視界内にある距離にある物や人）
ол　　その，あの（話者からみてより離れた場所にある物や人，その物や人はそこになくてもかまわない）

格変化表

主　格	пу	тігі	ол
属　格	мының	тігінің	аның
与　格	пуға(а)	тігее	ағаа
対　格	мыны	тігіні	аны
位　格	мында	тігіде	анда
奪　格	мыннаң	тігідең	аннаң
方向格	пузар (/ мынзынзар)	тігізер (/ тігізінзер)	аныңзар (/ оларзар)
具　格	мынынаң	тігінең	аннаң (/ анынаң)
因　格	мыннаңар	тігінеңер	аннаңар
比較格	мынча	тігче	анча

三人称所有接辞をつけた格変化表

主　格	мынзы	тігізі
属　格	мынзының	тігізінің
与　格	мынзына	тігізіне
対　格	мынзын	тігізін
位　格	мынзында	тігізінде
奪　格	мынзынаң	тігізінең
方向格	мынзынзар	тігізінзер
具　格	мынзынаң	тігізінең
因　格	мынзынаңар	тігізінеңер
比較格	мынзынча	тігізінче

指示代名詞複数形の格変化表

主　格	пулар	тігілері	олар
属　格	пуларның	тігілернің	оларның
与　格	пуларға	тігілерге	оларға
対　格	пуларны	тігілерні	оларны
位　格	пуларда	тігілерде	оларда
奪　格	пулардан	тігілерден	олардан
方向格	пуларзар	тігілерзер	оларзар
具　格	пуларнан	тігілернен	оларнан
因　格	пулардаңар	тігілернеңер	олардаңар
比較格	пуларча	тігілерче	оларча

指示代名詞 пу や ол が修飾する名詞は単数のときも複数のときもある.

例）пу чаҗын（この紙；単数），пу чаҗыннар（これらの紙；複数），
ол аңҗы（あの猟師；単数），ол аңҗылар（あれらの猟師たち；複数）

пу の格変化の基となる形 мын と ол の格変化の基となる形 ан ，тігі の基となる形 тіг に様々な語形成接辞がついて様々な単語を形成する.

例）мына（ほらこれが），мындаг（このような），мындағы（ここにある），
ана（ほらあれが），андаг（そのような），андағы（あそこにある），
тігдег（それのような）

次に指示代名詞を挙げる.

мындаг　　このような
андаг　　そのような
тігдег　　ほらそのような

格変化表

主　格	мындаг	тігдег	андаг
属　格	мындагның	тігдегнің	андагның
与　格	мындага	тігдеге	андага
対　格	мындагны	тігдегні	андагны
位　格	мындагда	тігдегде	андагда
奪　格	мындагдан	тігдегден	андагдан
方向格	мындагзар	тігдегзер	андагзар
具　格	мындагнан	тігдегнен	андагнан
因　格	мындагданар	тігдегденер	андагданар
比較格	мындагча	тігдегче	андагча

指示代名詞複数形の格変化表

主　格	мындағлар	тігдеглер	андағлар
属　格	мындағларның	тігдеглернің	андағларның
与　格	мындағларға	тігдеглерге	андағларға
対　格	мындағларны	тігдеглерні	андағларны
位　格	мындағларда	тігдеглерде	андағларда
奪　格	мындағлардаң	тігдеглердең	андағлардаң
方向格	мындағларзар	тігдеглерзер	андағларзар
具　格	мындағларнаң	тігдеглернең	андағларнаң
因　格	мындағлардаңар	тігдеглернеңер	андағлардаңар
比較格	мындағларҷа	тігдеглерҷе	андағларҷа

例）мындағ тылаас（このような知らせ），андағ тоғыс（あのような仕事），

７．３．物主代名詞

物主代名詞は「～の物」をあらわす形である．

もともとは人称代名詞属格に「～の」をあらわす接辞 -хы / -кі，-ғы / -гі がついて形成された形である（以下の表中のカッコ内にその元の形を示す）．

	単　　数	複　　数
１人称	мини　(< миніңгі)	пісти　(< пістіңгі)
２人称	сини　(< синіңгі)	сіреrни　(< сіреrніңгі)
３人称	ани　(< аныңғы)	оларни　(< оларныңғы)

例）Пу хойлар пісти.（このヒツジたちは私たちの所有のものです.）

物主代名詞の格変化

	１人称	２人称	３人称
	単　　数		
主　格	мини	сини	ани
属　格	мининің	синиінің	аниның
与　格	минине	синине	анина
対　格	минин	синин	анин
位　格	мининде	сининде	анинда
奪　格	мининең	сининең	анинаң
方向格	минин зер	синин зер	анинзар
具　格	мининең	сининең	анинаң
因　格	мининдеңер	сининдеңер	анинденер
比較格	мининче	сининче	анинче
	１人称	２人称	３人称
	複　　数		
主　格	пісти	сіреrни	оларни
属　格	пістинің	сіреrнинің	оларниның
与　格	пістине	сіреrнине	оларнина
対　格	пістин	сіреrнин	оларнин
位　格	пістинде	сіреrнинде	оларнинда
奪　格	пістинең	сіреrнинең	оларнинаң
方向格	пістинзер	сіреrнинзер	оларнинзар
具　格	пістинең	сіреrнинең	оларнинаң
因　格	пістинденер	сіреrниндеңер	оларниндаңар
比較格	пістинче	сіреrнинче	оларнинча

７．４．定代名詞

定代名詞として，прай（すべての）と полған на（各々の，あらゆる～）がある．

	私たちみんな	あなたたちみんな	彼らみんな
主　格	прайзыбыс	прайзыңар	прайлары
属　格	прайзыбыстың	прайзыңарның	прайларының
与　格	прайзыбысха	прайзыңарға	прайларына
対　格	прайзыбысты	прайзыңарны	прайларын
位　格	прайзыбыста	прайзыңарда	прайларында
奪　格	прайзыбыстаң	прайзыңардаң	прайларынаң
方向格	прайзыбыссар	прайзыңарзар	прайларынзар
具　格	прайзыбыснаң	прайзыңарнаң	прайларынаң
因　格	прайзыбыстаңар	прайзыңардаңар	прайларынаңар
比較格	прайзыбысча	прайзыңарча	прайларынча

例）Ол ыр пастапча, прайзы ырласчалар.
（彼女が歌い始め，それに合わせてみんなが歌っている.）

７．５．不定代名詞

疑問詞に助詞 -да / -де などをつけて形成する．また副詞（「どこかで」や「いつか」など）も形成する．疑問代名詞は格接辞をつけて格変化もする．その組み合わせのいくつかを以下に挙げる．

１）-да / -де
この形は「ある特定の～」を意味する．
кем-де（誰か）
ниме-де（何か）
хайзы-да（なんらかの）
хайдаг-да（なんらかの）

хайда-да（どこかで）
хайдаң-да（どこからか）
хачан-да（いつか）
ноға-да（なぜか）

２）-ла / -ле, -не
ниме-ле（それが何であろうと，何か）
кем-не（それが誰であろうと，誰か）

３）пір

пір（ある～）
пір(пірее) ниме（あるもの，何か）
пір кізі（ある人）
хай пірее（ある～）
хай піреезі / хай пірсі（それらのうちのある～）
пір дее（一つの～も［…しない］，一人の～も［…しない］）

同じ疑問詞を２つハイフンでつないでも不定代名詞になる．疑問文では疑問の強調になる．

кем-кем（誰か）
ноо-ноо кізі（誰か）
хайдаг-хайдаг кізі（誰か）
ниме-ниме（何か）
ноо-ноо ниме（何か）

хайда-хайда（どこか）
хачан-хачан（いつか）

また，単語を強調する助詞 даа / дее を疑問詞とともに用いると，「いかなる～」のニュアンスとなる．

кем дее（それが誰であろうと，あらゆる人が）
кем дее полза（それが誰であろうと，あらゆる人が）
ниме дее полза（それが何であろうと，あらゆるものが）
хайдаг даа（なんでも，あらゆる～，どんな～でも）

хайда даа（どこであろうと，いたるところで）
хачан даа（いつであろうと，いつも）
нинче дее（どれだけの数や量を～しても）

７．６．再帰代名詞

再帰代名詞は「自分の」という意味で，文中で人称代名詞の代わりとして用いることができる．

主語あるいは補語として用いられるときは，「～（自分）自身，～個人所有の」の意味となる．

再帰代名詞格変化表

主　格	пос
属　格	постың
与　格	посха
対　格	посты
位　格	поста
奪　格	постаң
方向格	поссар
具　格	поснаң
因　格	постаңар
比較格	посча

所有接辞をつけた際の再帰代名詞の格変化表

	１人称	２人称	３人称
	単　　数		
主　格	позым	позың	позы
属　格	позым(ның)	позыңның	позының
与　格	позыма	позыңа	позына
対　格	позымны	позыңны	позын
位　格	позымда	позыңда	позында
奪　格	позымнаң	позыңнаң	позынаң
方向格	позымзар	позыңзар	позынзар
具　格	позымнаң	позыңнаң	позынаң
因　格	позымнаңар	позыңнаңар	позынаңар
比較格	позымча	позыңча	позынча
	１人称	２人称	３人称
	複　　数		
主　格	позыбыс	позыңар	постары
属　格	позыбыстың	позыңарның	постарының
与　格	позыбысха	позыңарға	постарына
対　格	позыбысты	позыңарны	постарын
位　格	позыбыста	позыңарда	постарында
奪　格	позыбыстаң	позыңардаң	постарынаң
方向格	позыбыссар	позыңарзар	постарынзар
具　格	позыбыснаң	позыңарнаң	постарынаң
因　格	позыбыстаңар	позыңардаңар	постарындаңар
比較格	позыбысча	позыңарча	постарынча

例）Позыбыстың адыбыс（私たち所有のウマ）

７．７．疑問代名詞

以下に主な疑問代名詞を挙げる．

Кем?	だれが？
Ниме?	何が？
Хайзы?	どの？
Хайдағ?	どんな？
Хайдағы?	どこにいる？ どこにいたところから？ どこにいるところへ（誰のところへ）［嫁いだのか］？
Нинче?	いくつ？
Ноо?	いったい何？：ноо はよく ниме の前において用いられる． 例）Ноо ниме? （いったい何？）

「いつ？」,「どこで？」などの疑問副詞は９．４．疑問副詞を参照．

疑問代名詞は格変化をし，所有接辞をつけることができる．

疑問詞 хайзы はもともと хай に３人称所有接辞 -зы がついた形であってもう分けられないが，それに他の所有接辞をつけることができる．

例）хайзыбыс（私たちのうちの誰か）

疑問詞 нинче はふつう数量を問う疑問文を形成するが，３人称所有接辞 -зі をつけた нинчезі の形で「それらのうちのいくつ？」をあらわすこともできる．

例）Нинчезін аларзың?（それらのなかのいくつを君は持っていくのか？）

疑問代名詞の格変化表

	単　　数		
主　格	кем	ниме	хайзы
属　格	кемнің	нименің	хайзының
与　格	кемге	нимее	хайзына
対　格	кемні	нимені	хайзын
位　格	кемде	нимеде	хайзында
奪　格	кемнең	нимедең	хайзынаң
方向格	кемзер	нимезер	хайзынзар
具　格	кемнең	нименең	хайзынаң
因　格	кемнеңер	нимедеңер	хайзынаңар
比較格	кемче	нимече	хайзынча
	複　　数		
主　格	кемнер	нимелер	хайзылары
属　格	кемнернің	нимелернің	хайзыларының
与　格	кемнерге	нимелерге	хайзыларына
対　格	кемнерні	нимелерні	хайзыларын
位　格	кемнерде	нимелерде	хайзыларында
奪　格	кемнердең	нимелердең	хайзыларынаң
方向格	кемнерзер	нимелерзер	хайзыларынзар
具　格	кемнернең	нимелернең	хайзыларынаң
因　格	кемнернеңер	нимелердеңер	хайзыларындаңар
比較格	кемнерче	нимелерче	хайзыларынча

	単　　数	
主　格	хайдаг	нинчە
属　格	хайдагның	нинчәнің
与　格	хайдага	нинчәе (нинчәге)
対　格	хайдагны	нинчәні
位　格	хайдагда	нинчәдә
奪　格	хайдагдан	нинчәдән
方向格	хайдагзар	нинчәзәр
具　格	хайдагнан	нинчәнән
因　格	хайдагданар	нинчәдәнәр
比較格	хайдагча	нинчәчә
	複　　数	
主　格	хайдаглар	нинчәләр
属　格	хайдаглар ның	нинчәләрнің
与　格	хайдаглар ға	нинчәләрә
対　格	хайдаглар ны	нинчәләрні
位　格	хайдаглар да	нинчәләрдә
奪　格	хайдаглардан	нинчәләрдән
方向格	хайдаглар зар	нинчәләрзәр
具　格	хайдаглар нан	нинчәләрнән
因　格	хайдаглардан ар	нинчәләрдәнәр
比較格	хайдаглар ча	нинчәләрчә

疑問詞が述語になるとき、疑問詞に接辞 -дыр / -дір / -тыр / -тір をつける.

例）Адыңар кемдір?（あなたの名前は何と言いますか？）
Школа директоры кемдір?（校長先生の名前は何と言いますか？）
Хазииңар хайдағдыр?（あなたの健康はどうですか？）
Кӫөніңер хайдағдыр?（あなたの気分はどうですか？）

例）Оларны кемнер удурлаан?（彼らを誰が迎えましたか？）
Син хайдаг класста ү̈гренчезің?（君は何年生ですか？）
Сірернің класста нинчә ү̈гренчі?
（あなたのクラスの生徒には何人いますか？）

８．動詞

８．１．動詞語幹と不定形

動詞語幹は命令法の２人称単数と同じ形である．本書では動詞語幹を，хығыр-（読む）のようにあらわす．

動詞の不定形は，行為のみをあらわし時制や人称，数はあらわしていない．また，辞書の見出し語となる．

不定形の形は語尾が，-арға / -ерге，-рға / -рге であり，これは形動詞未来形に与格接辞 -ға / -ге がついた形である．

例）сағынарға（思う），пирерге（あげる）

動詞不定形を形成する際，すなわち動詞語幹に形動詞未来形接辞 -ар / -ер をつける際，語幹最後の子音が形動詞未来形接辞の最初の母音 а あるいは е と語幹最後の子音直前の母音との２つの母音に挟まれた場合，その子音は有声化する．

例）харас-（～を達成しようと努力する）　＋　-ар　→　харасар
→　харазар　＋　-ға　→　харазарға

動詞不定形を形成する際，語幹最後に母音がある場合，語幹最後の母音は形動詞未来形接辞の最初の母音 а あるいは е と隣り合うことになり、その２つの母音は融合し１つの母音 и になる．この場合，母音調和の法則の例外となる．

例）аңна-（狩る）　＋　-ар　→　аңнаар　→　аңнир　＋　-ға　→　аңнирға
узу-（眠る）　＋　-ар　→　узуар　→　узир　＋　-ға　→　узирға
имне-（治す）　＋　-ер　→　имнеер　→　имнир　＋　-ге　→　имнирге

否定の不定形は，形動詞未来形否定形接辞 -бас（とその発音上のバリエーション）に与格接辞がついた形となる．表にあらわすと以下のようになる．

動詞語幹の最後の音	動　詞　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　　音 -г, -ғ, -л, -р	-басха	-беске
無　声　子　音	-пасха	-песке
-м, -н, -ң	-масха	-меске

例）узубасха（眠らない），кирбеске（入らない），сатпасха（売らない），
киспеске（切らない），соммасха（泳がない），инмеске（下に下りない）

不定形の用法

１）意思や願望などをあらわす動詞とともに用いられ，「～すること」をあらわす．以下に不定形とともによく用いられる動詞をいくつか挙げる．

харазарға/харас-/（～を達成しようと努力する）

例）Үгренҷилер пастағы орын аларға харасчалар.
（生徒たちは１番をとろうと努力している.）

күстенерге/күстен-/（～するよう努力する）
例）Мин үгренерге күстенчем.
（私は勉学に励んでいる.）
хынарға/хын-/（～することが好きである）
例）Мин книга хығырарға хынчам.
（私は本を読むことが好きです.）
килізерге/киліс-/（～することになる）
例）Маға арғызымнаң хада тоғызарға киліспеді.
（私は友人に会うことができなかった.）
тимненерге/тимнен-/（～することを準備する）
例）Мин азыранарға тимнен салгам.
（私は食事の準備をした.）
тыхтанарға/тыхтан-/（～する支度をする）
例）Японияза парарға тыхтан сыххабыс.
（私たちは日本へ行く準備をした.）
сағынарға/сағын-/（思う）
例）Мин институтха кирерге сағынғам.
（私は大学に入学しようと思った.）
айирға/айа-/（惜しむ）
例）

２）必要，義務や許可，禁止をあらわす語とともに用いられ，「～すること」をあらわす．ただし，以下に挙げる語のうち кирек（～する必要がある）は，動詞の不定形だけでなく，形動詞未来形 -ар を用いることができる．
кирек（～する必要がある）
例）Сагаа үгренерге кирек.
（君は勉強しなければならない.）
кирек は否定の不定形を用いると，「～する必要はない」の意味になる．
例）Көрбес кирек.
（見る必要なない.）
чарир（～してもよい）
例）Кірерге чарир ба?
（なかに入ってもいいですか？）
чарабас（～してはいけない）
例）Тоғысха орайладарға чарабас.
（仕事に遅れてはいけません.）

３）主語「～することは…」になる
例）Тыхтанарға үр бе анаң?
（準備にそんなに時間がかかるのかい？）

８．２．動詞の形成

動詞は，語根やこれ以上他の要素に分けられない語幹から成る根元（非派生）動詞と語根や語幹に動詞形成接辞をつけて形成した派生動詞とがある．

８．２．１．接辞を用いた動詞形成

１）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 有　声　子　音 （-м, -н, -ӈ を除く）	-ла	-ле
子　音	-та	-те
-м, -н, -ӈ	-на	-не

例）ыр（歌）→　ырла-（歌う），улуғ（大きい）→　улуғла-（大きくする），
тас（石）→　таста-（投げる），пик（丈夫な）→　пикте-（閉める；強固にする），
тиин（リス）→　тиинне-（リス狩りをする）

この接辞は、名詞や間投詞，擬音・擬態語，動詞語幹から形成される．
この接辞の主な意味は以下の通りである．
①名詞の意味する道具の使用
例）пычах（ナイフ）→　пычахта-（ナイフを使う，ナイフで切る），
хамҕы（鞭）→　хамҕыла-（鞭で打つ）

②名詞の意味する獣や鳥などの動物や鳥の狩猟や漁労，植物や果実の採集
例）аӈ　（獣）→　аӈна-（獣を狩猟する），
аба（クマ）→　абала-（クマを狩猟する），
палых（魚）→　палыхта-（魚を捕る）

③名詞の意味する行為を行うこと
例）алғыс　（感謝）→　алғыста-（感謝する），
алҕаас（間違い）→　алҕааста-（間違いをする），
кибір（伝統）→　кибірле-（伝統に従って行う）

④形容詞の意味する特徴を付与すること，形容詞の意味する特徴になること（形容詞から形成）
例）ниик　（軽い）→　ниикте-（軽くする），
арыг（きれいな，汚れていない）→　арыгла-（きれいにする），
ірік（腐った）→　ірікте-（腐る）

⑤名詞の意味する物に何かの作用を及ぼすこと（名詞から形成）
例）ізік （ドア）→ ізікте-（ドアをノックする，ドアをあける），
töс（胸）→ töсте-（胸をたたく，胸をつかむ）

⑥名詞の意味する場所に行くこと，場所を通って行くこと，名詞の意味する時や季節を過ごすこと（名詞から形成）
例）тайға （タイガ）→ тайғала-（タイガを行く），
аал（客）→ аалла-（客に行く），
чай（夏）→ чайла-（夏を過ごす）

⑦名詞の意味する物を供給する，取り付ける，入れること（名詞から形成）
例）тус （塩）→ туста-（塩を入れる），
ух（弾）→ ухта-（弾を込める），
сыр（塗料）→ сырла-（塗料を塗る）

⑧間投詞や擬音・擬態語の意味をあらわす（間投詞や擬音・擬態をあらわす語から形成）
例）аахта-（叫ぶ），кўўле-（轟音を立てる），кісте-（［ウマが］いななく）

⑨動詞語幹や数詞，副詞から形成（ロシア語からの借用語も含める）
例）час- （動詞「敷く」）→ часта-（何かを頭の下に置く），
удур （副詞「こちらに向かって」）→ удурла-（会う），
ікінчі （数詞「２番目の」）→ ікінчіле-（疑う），
кўлет（< ロシア語動詞 гулять「散歩する」）→ кўлетте-（散歩する）

２）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 -г, -ғ, -й, -л, -р,	-лан	-лен
無　声　子　音	-тан	-тен
-м, -н, -ң	-нан	-нен

例）саблығ（有名な）→ саблан-（有名になる），
кўр（人に難癖をつけたがる）→ кўрлен-（言いがかりをつける），

歴史的には動詞形成接辞 -ла と再帰態接辞 -н から形成された接辞である．
この接辞の主な意味は以下の通りである．
①名詞の意味する物の状態を獲得すること，その名詞の意味する状態になること
例）порчо（花）→ порчолан-（花が咲く），
пўр（葉）→ пўрлен-（葉をだす，葉が開く），

②形容詞の意味する特徴になること，形容詞の意味する特徴をあらわすこと
例）арғаас（怠惰な）→ арғаастан-（怠惰になる），
сай（わがままな）→ сайлан-（わがままになる），

③形容詞の意味する様々な感情をあらわす
例）көө（気分）→　көөлен-（好きになる，惚れる），
хыҹа（羨み）→　хыҹалан-（うらやむ），
接辞 -ла（とその発音上のバリエーション）は，上記２）の再帰態接辞がついて動詞が形成されたのと同様に，接辞 -ла に相互態接辞や使役態接辞がついても動詞が形成される．
例）марыг（試合）→　марыглас-（試合をする；-с は相互態接辞），
орай（遅い）→　орайлат-（遅れる；-т は使役態接辞）

３）

名詞，形容詞，擬音・擬態語の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-а	-е

例）сан（数）→　сана-（数える），ат（名前）→　ада-（名づける），

接辞をつけたとき，語幹最後の母音と接辞に挟まれた無声子音は有声化する．
例）ат（名前）→　ата-　→　ада-（名づける）
түс（夢）→　түсе-　→　түзе（夢を見る）

名詞語幹最後の音節に ы あるいは і がある場合，この接辞をつけると，ы と і は脱落する．
例）ойын（遊び，ゲーム）→　ойына-　→　ойна-（遊ぶ）
табыс（声）→　табыса-　→　табса-　→　тапса-（音を出す）

この接辞は名詞と形容詞，擬音・擬態をあらわす語から形成される．

この接辞の主な意味は以下の通りである．
①名詞の意味する行為を行うこと，その名詞の意味する物を作ること
例）сарын（歌）→　сарна-（歌う），
үт（穴）→　үте-（穴をあける，穴を作る）

②形容詞の意味する特徴になること
例）амыр（静かな，安心した）→　амыра-（落ち着く，安心する），
тоғыр（横の）→　тоғыра-（切る，切断する）

③自然現象における音や声を意味する擬音・擬態をあらわす言葉から形成
例）тыҹырас（はぜる音や割れる音）→　тыҹыра-（はぜる，割れる）

4）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
子　音	-ар	-ер
母　音	-р	

例）хызыл（赤い）→　хызар-（赤くなる），көк（青い）→　көгер-（青くなる）

接辞をつけたとき，語幹最後の母音と接辞に挟まれた無声子音は有声化する．
例）ах（白い）→　ахар-　→　ағар-（白くなる）

この接辞の主な意味は以下の通りである．
①形容詞の意味する色になること
例）көк（青い）→　көгер-（青くなる）

②名詞の意味する行為を行うこと
例）хатхы（笑い）→　хатхыр-（笑う），хысхы（叫び声）→　хысхыр-（叫ぶ）

5）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
子　音	-ал	-ел
母　音	-л	

例）сарығ（黄色い）→　сарғал-（黄色くなる）

接辞の主な意味は以下の通りである．
①形容詞の意味する色になること
例）сарығ（黄色い）→　сарғал-（黄色くなる）

②名詞の意味する行為を行うこと
例）

6）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音
	-ы

例）чыс（におい）→　чызы-（腐る）

この接辞からの動詞形成は多くない．

この接辞の主な意味は以下の通りである．
①名詞の意味する物の状態を獲得すること，その名詞の意味する状態になること
例）пос（からの，暇な）→　позы-（解放される，自由になる），

②形容詞が意味する特徴になること
例）пай（豊かな）→　пайы-（裕福になる）

７）

名詞，形容詞，擬音・擬態語の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音	-ра	-ре

例）тымо（鼻かぜ）→　тымора-（鼻かぜになる，鼻かぜに苦しんでいる）

この接辞は名詞と形容詞，擬音・擬態をあらわす語から形成され，この接辞から形成される動詞は多くない.

この接辞の主な意味は以下の通りである.
①名詞の意味する状態になること
例）тымо（鼻かぜ）→　тымора-（鼻かぜになる，鼻かぜに苦しんでいる）

②形容詞が意味する特徴になること
例）узун / узах（長い）→　узара-（長くする），
хысха（短い）→　хысхара-（短くする）

③擬音・擬態をあらわす音を発すること
例）мүү（ウシの鳴き声「モー」）→　мүүре-（［ウシが］モーと鳴く）

８）

動詞，数詞の最後の音	動詞，数詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-ых	-ік

例）хын-（好きである）→　хыных-（慣れさせる），
пір（［数字の］１）→　пірік-（１つにする）

この接辞は動詞や数詞があらわす状態にすることを意味する.
この接辞から形成した動詞はあまり多くはない.

９）

名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最後の音	名詞，形容詞，数詞，代名詞，間投詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 有　声　子　音 （-м, -н, -ӈ を除く）	-рха	-рке
子　音	-ырха	-ірке
-м, -н, -ӈ	-арха	-ерке
	-орха	-ӧрке

例）

９）

名詞，擬音・擬態語の最後の音	名詞，擬音・擬態語の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-са	-се

例）паар（肝臓）→　паарса-（可愛がる），
суг（水）→　сухса-（水が飲みたい，のどが渇く）

この接辞は名詞や擬音・擬態語から形成される．

１０）

名詞の最後の音	名　詞　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-хар	-кер

例）от（草）→　отхар-（［家畜を］牧草地に連れて行く，干草を与える）

１１）

名詞，形容詞の最後の音	名詞，形容詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
無　声　子　音	-сы(н)	-сі(н)
有　声　子　音 母　音	-зы(н)	-зі(н)

例）пыро（罪）→　пыросын-（罪を感じる，謝る），
хом（悔しさ）→　хомзын-（残念に思う，悔やむ），
сидік（むずかしい）→　сидіксін-（困難になる）

この接辞は名詞や形容詞から形成され，その名詞や形容詞があらわすことを感じる，経験する，必要とすることを意味する．

１２）

名詞，形容詞の最後の音	名詞，形容詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
無　声　子　音	-сыра	-сіре
有　声　子　音	-зыра	-зіре

例）сағыс（考え，思うこと）→　сағыссыра-（心配する），
улуғ（大きい）→　улуғзыра-（横柄な態度をとる），
көп（多い）→　көпсіре-（余分であるとみなす）

この接辞は名詞や形容詞から形成され，その名詞や形容詞があらわす感情をあらわすことを意味する．

１３）

名詞，形容詞の最後の音	名詞，形容詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-хын	-кін

例）пос（自由な）→　посхын-（[動物が縄を解かれたりして] 自由になる），
аас（口）→　аасхын-（約束する）

この接辞は名詞や形容詞から形成される．

１４）

名詞，形容詞の最後の音	名詞，形容詞の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-да(с) -да(н)	-де(с)

例）чаг（自由な）→　чагда-（[動物が縄を解かれたりして] 自由になる），
ӱн（声）→　ӱндес-（応答する），
чухул（悪い）→　чухулдан-（気分が悪いと感じる）

この接辞は名詞や形容詞から形成される．

８．２．２．ロシア語動詞との組み合わせによる動詞形成

ハカス語の動詞形成では，ロシア語の動詞不定形にハカス語動詞 поларға [語幹 пол-] をつけて動詞を形成することがある．ロシア語動詞の行為を行うことを意味する（「～する」）．

例）аккомпанировать поларға（伴奏する），
дирижировать поларға（[合唱や楽団を] 指揮する）
капитулировать поларға（降伏する）

また，動詞 поларға の使役態 полдыртарға［語幹 полдырт-］の形にして「～させる」という意味にもなる．

例）капитулировать полдыртарға（降伏させる）

８．２．３．ロシア語名詞とハカス語動詞 идерге との組み合わせ

ロシア語の名詞にハカス語動詞 идерге［語幹 ит-］（する）をつけて形成する方法もある．

例）анализ идерге（分析する），дезинфекция идерге（消毒する），
грех идерге（罪を犯す）

同様の形成法で，гарантия пирерге（保証する，保証を与える），спичка тартарға（マッチを擦る）などがある．

８．２．４．子音交替による動詞語幹の形成

ハカス語の動詞形成として，名詞や形容詞などの最後の子音が別の子音に交替して動詞語幹となったものがある．

以下に，N.A.バスカコフが著書『ハカス語文法』で挙げている例を表の形にして挙げる．

末尾の子音交替	例
с → н	сағыс（考え）→ сағы<u>н</u>-（考える，思う）， тоғыс（仕事）→ тоғы<u>н</u>-（働く）
ғ / г → н	алығ（愚か者；愚かな）→ алы<u>н</u>-（気が狂う）， тиріг（武器）→ тирі<u>н</u>-（武装する）
х → н	таях（杖）→ тая<u>н</u>-（もたれる）， тоғылах（丸い）→ тоғыла<u>н</u>-（回転する）
х → т	табырах（速い；速く）→ табыра<u>т</u>-（速める，急がす）
ғ / г → л	чобағ（苦しみ，悲しみ）→ чоба<u>л</u>-（苦しむ，悲しむ）， тіріг（生きている）→ тірі<u>л</u>-（生き返る）
н → т	узун（長い）→ уза<u>т</u>-（長くする）
ң → р	ултуң（靴底）→ ултур-（靴底をつける）
с → х	алҷаас（過ち）→ алҷаах-（熱中する；馬鹿になる）， пиртік（肉体的損傷，怪我）→ пирті<u>н</u>-（不具になる）
к → н	чалбах（広い）→ чалба<u>й</u>-（広くなる；扁平になる）
х / к → й	чазыт（隠された，秘密の）→ чазы<u>р</u>-（隠す，秘密にする）
т → р	чамас（従順な，静かな）→ чама<u>ра</u>-（従順になる，おとなしくなる［サガイ方言］）
с → р	

８．３．否定形

動詞語幹に以下の接辞をつけてあらわす.

-ча 形現在で用いる接辞（副動詞 -бин 形）

語幹の最後の音	
母　　音	-бин
子　　音	-пин
-м, -н, -ӊ	-мин

この否定接辞は，主に現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）とともに用い，動詞語幹と現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）のあいだに否定形接辞 -бин（とその発音上のバリエーション）をつけてあらわす.

他の用法など詳しくは副動詞否定（８．７．３．副動詞 -бин 形）と現在形（８．９．１．１．１．-ча 形現在）を参照.

例）Піс дее кізее чабал ниме итпинбіс.
（私たちは誰一人にも悪意あることはしていません.）

-ча 形現在以外の形で用いる接辞

語幹の最後の音	硬　母　音	軟　母　音
母　　音	-ба	-бе
子　　音	-па	-пе
-м, -н, -ӊ	-ма	-ме

未来形で用いる接辞

語幹の最後の音	硬　母　音	軟　母　音
母　　音	-бас	-бес
子　　音	-пас	-пес
-м, -н, -ӊ	-мас	-мес

具体的な形や例文は過去形や未来形を参照.

８．３．態

８．３．１．基本態

基本態は態を形成する接辞をもっていない形で，他動詞と自動詞に分かれる．

８．３．２．再帰態

再帰態は動詞語幹に以下の接辞をつけて形成する．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ын	-і̇н
母音	-н	

例）хыр-（剃る）→　хырын-（自分でひげなどを剃る），
　　кӧр-（見る）→　кӧрін-（自分の姿を眺める），
　　тимне-（準備する）→　тимнен-（準備する，用意を整える）

動詞語幹の最後の子音が ғ，г，н のとき、再帰態接辞をつけてその子音がその前後の母音に挟まれた場合，子音 ғ，г，н は脱落し，１つの長母音になる．
例）чуғ-（洗う）＋　-ын　→　чуғын-　→　чуын-　→　чуун-
（洗顔する，体を洗う）

語幹最後の子音が р のとき，子音交替が起きて語幹最後の子音が н に替わり，それだけで再帰態になることがある．８．２．４．子音交替による動詞語幹の形成に近い．

例）чазыр-（隠す）　→　чазы<u>н</u>-（隠れる），
　　усхур-（起床させる）→　усху<u>н</u>-（目覚める）

動詞のなかにはすでに再帰態接辞が動詞語幹と一体化して，これ以上分けることができない１つの動詞語幹が形成されている動詞もある．ただし，再帰態の意味は失っていない．
例）ӧрі<u>н</u>-喜ぶ），айла<u>н</u>-（帰る），ӱгре<u>н</u>-（学ぶ）

再帰態は他動詞から形成される．

被動態がときには再帰態の意味をもつことがある．

再帰態は以下の意味をあらわす．
１）その行為が自分自身を対象として行われる行為をあらわす．
　例）чуун-（洗顔する，体を洗う）

２）その動作主の内面から湧き上がる行為をあらわす．
　例）кӱстен-（努力する），ӧрін-（喜ぶ）

３）行為が自分自身のために，自分の利益のために，自分の興味のためになされることをあらわす．直接あるいは間接目的語をともなう．
　例）ахча чыын-（お金を貯める），порчонаӈ чаза-（花で飾る）

８．３．３．相互態

相互態は動詞語幹に以下の接辞をつけて形成する．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ыс	-іс
母音	-с	

例）пас-（書く）→　пазыс-（文通する），
　　пöг-（解く）→　пöгіс-（誰かといっしょに解く，解くのを手伝う），
　　чоохта-（話す）→　чоохтас-（おしゃべりする，会話する）

相互態の接辞がつくことで相互態本来の意味が変わる動詞もある．
例）пол-（ある，存在する）→　полыс-（手伝う），
　　тут-（つかんでいる，持っている）→　тудыс-（喧嘩する，殴り合う）

動詞語幹の最後の子音が無声子音のとき、相互態接辞がついてその子音がその前後の母音に挟まれた場合，無声子音は有声化する．
例）пас-（書く）＋　-ыс　→　пасыс-　→　пазыс-（文通する）
　　тут-（つかんでいる，持っている）→　тудыс-（喧嘩する，殴り合う）

相互態は他動詞からも自動詞からも形成される．

相互態は以下の意味をあらわす．
1）他動詞から形成された場合、その行為を２人あるいは２人以上の人々で同時に，あるいは交互に行うことをあらわす（「～し合う」）．
　例）охсаныс-（キスし合う），изеннес-（挨拶し合う），аныс-（お互い訪問し合う）
　例文）
　　Аныӊ соонда удур-тöдір пічік алыс сыххабыс.
　　（その後，たちはお互い文通し合うようになった．）

2）他動詞から形成された場合、その行為を一緒に行う、あるいはその行為を手伝うことをあらわす（「一緒に～する」，「～するのを手伝う」）．その際，対象となる行為は対格であらわされる．
　例）сан пöгіс-（数学の問題を解くのを手伝う），
　　оймах хазыс-（穴を掘るのを手伝う），
　　яблах чулус-（じゃがいもを掘るのを手伝う）

3）自動詞から形成された場合は、行為を何人かで一緒に行うことだけをあらわす（「[何人かの人たちが] 一緒に～する」）．
　例）чӱдӱріс-（多くの人が一緒に走る），маӊзырас-（多くの人が一緒に急ぐ）
　　Амды олар аал арали ӱзöлеӊ пазысчатханнар.
　　（今では彼らは２人でいっしょに村を歩きまわるようになった．）

８．３．４．被動態

被動態は動詞語幹に以下の接辞をつけて形成する．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ыл	-іл
母音	-л	

例）пас-（書く）→　пазыл-（書かれる），
　　ит-（する，作る）→　иділ-（される，作られる），
　　сана-（数える）→　санал-（数えられる）

動詞語幹最後の子音が無声子音（с，т，п，к，х）のとき、被動態接辞がついてその子音がその前後の母音に挟まれた場合，無声子音は有声化（з，д，б，г，ғ）する．
例）ит-（する，作る）＋　-іл　→　иділ-（される，作られる）

動詞語幹の最後の子音が ғ，г，ӊ のとき、再帰態接辞をつけてその子音がその前後の母音に挟まれた場合，子音 ғ，г，ӊ は脱落し，１つの長母音になる．
例）сағ-（搾乳する）＋　-ыл　→　сағыл-　→　саыл-　→　саал-（搾乳される）
　　чығ-（集める）＋　-ыл　→　чығыл-　→　чыыл-　（集まる）

被動態は主として他動詞から形成される．

被動態は以下の意味をあらわす．
１）受身の意味になる（「～される」）．動作主は具格「～によって」あるいは与格「～に対して」であらわされる．
例文）
Ағастар чилге чайхалчалар.
（木々が風に揺れている．）
Аның холынаӊ тыхталған тракторлар хаҷан даа ӱр тоғынадырлар.
（彼の手によって修理されたトラクターはいつも長期間動いた．）
Нымзах паза хатығ танығлар хакас тілінде орыс тілінеӊ кірген сӧстерде пазылчалар.
（軟音記号と硬音記号はハカス語ではロシア語から借用された単語中で書かれる．）

２）他動詞に被動態接辞がついたとき，再帰の意味で用いられることもある．
例）тоозыл-　（終わる，尽きる），истіл-（聞こえる）
例文）
Одыӊ тоозыл парған.
（薪がなくなった．）

８．３．５．使役態

使役態は動詞語幹に以下の接辞をつけて形成する．

１）

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
無声子音	-тыр	-тір
有声子音	-дыр	-дір
母音	-т	

例）пас-（書く）→　пастыр-（書かせる），
кис-（切る）→　кистір-（切らせる），
чар-（ちくちく刺す）→　чардыр-（ちくちく刺させる），
күл-（笑う）→　күлдір-（笑わせる），
сөле-（話す）→　сөлет-（話させる）

２）

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
-р（語幹が２音節）	-т	

-р で終わる２音節の動詞語幹には，接辞 -т がつくことがある．
例）хығыр-（呼ぶ）→　хығырт-（呼び出す，召集する），
кимір-（齧る）→　кимірт-（齧らせる）

３）

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
-с	-ыр	-ір
	-рт	

-с で終わる同音意義語には，動詞語幹に１）の接辞と３）の接辞がつくことで意味が区別される．

例）кис-（川を渡る，道を渡る）→　кизір-（渡河させる，道を渡らせる）
кис-（着せる）→　кизірт-（着させる）
Cf. кис-（切る）→　кистір-（切らせる），
ас-（山などを越える）→　азыр-（山などを越えせる）
Cf. ас-（開ける）→　астыр-（開けさせる）

また，接辞 -ыр（とその発音上のバリエーション）を用うると，使役する人（命令者）も積極的にその行為に参加し，接辞 -тыр（とその発音上のバリエーション）がつくと，使役する人（命令者）は行為に直接参加しない．

例）köc-（遊牧する）→　kөзір-（誰かを別の場所に引越させる）
ічемни городсар көзірерге
（自分の母を［自分も手伝って］町に引越させる）
→　көстір-（誰かを移動させる）

4）

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
-р -л（稀）	-гыс	-гіс

例）пар-（行く）→　паргыс-（行かせる），
чөр-（行く）→　чөргіс-（行く），
хал-（残る）→　халгыс-（残す）

5）

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
-с （語幹が１音節）	-хыр	-кір

例）хас-（脱走する）→　хасхыр-（脱走させる）
Cf. хас-（掘る）→　хастыр-（掘らせる），
тис-（逃げる）→　тискір-（逃げさせる），
өс-（成長する）→　өскір-（育てる）

動詞語幹 көр-（見る）から使役態は，次の３つの接辞から形成されている．
接辞 -іт：көр-（見る）→　көзіт-（見せる，示す）
接辞 -тіс：көр-（見る）→　көртіс-（見せる）
接辞 -дір：көр-（見る）→　көрдір-（監督させる，赤ん坊の面倒などを見させる）

動詞語幹の最後の子音が無声子音のとき、使役態接辞がついてその子音がその前後の母音に挟まれた場合，無声子音は有声化する．
例）кис-（川を渡る，道を渡る）＋　-ір　→　кизір-（渡河させる，道を渡らせる）
ас-（山などを越える）＋　-ыр　→　азыр-（山などを越えせる）

使役態は他動詞だけでなく自動詞からも形成される．

使役態は以下の意味をあらわす.

1）自動詞に使役態接辞がつくと他動詞になり，使役行為をあらわす（「～させる」）.

例）турғыс-　（立たせる），узут-（眠らせる），пүдір-（建設する），
тоңдыр- // тоорт-（凍えさせる）

2）他動詞に使役態接辞がつくと，人に対して強制や命令，懇請，許可のニュアンスを含んだ使役行為をあらわす（「[人に] ～させる」，「～してもらう」）.

例）иттір-　（やらせる，するのを許す），тайнат-（食ませる，噛むのを許す），
алдыр-（取らせる，持って行かせる），оғырлат-（盗ませる）
сохтыр-　（叩かせる，自分を叩くのを許す）

８．３．６．態の組み合わせ

動詞語幹に，上記の態接辞がいくつか組み合わさって動詞が形成されることもある．ここではよく使われる態の組み合わせを挙げる.

発音上のバリエーションは上記の態接辞を参照.

1）動詞語幹に２つの使役態接辞

第三者を通して誰かに行為をさせることをあらわす.

動詞語幹　＋　-тыр　＋　-т

動詞語幹　＋　-т　＋　-тыр

動詞語幹　＋　-ғыс　＋　-тыр

例）палға-（結ぶ）→　палғаттыр-（第三者を通して結ばせる）
тоғын-（する）→　тоғындырт-（第三者を通してさせる）

2）動詞語幹に３つの使役態接辞

二人を通して第四者に行為をさせることをあらわす.

動詞語幹　＋　-т　＋　-тыр　＋　-т

動詞語幹　＋　-ғыс　＋　-тыр　＋　-т

例）сыйла-（プレゼントする）→　сыйлаттырт-
（二人を通して誰かにプレゼントさせる）
чӧр-（行く）→　чӧрғістірт-（二人を通して誰かに行かせる）

3）動詞語幹に相互態接辞と使役態接辞

動詞語幹　＋　-ыс　＋　-тыр

例）пас-（書く）→　пазыстыр-（文通させる）

4）動詞語幹に再帰態接辞と使役態接辞

動詞語幹　＋　-ын　＋　-дыр

例）пас-（書く）→　пазындыр-（新聞など購読を予約させる）
тара-（髪を梳く）→　тарандыр-（自分で髪を梳かせる）

5）動詞語幹に被動態接辞と相互態接辞，使役態接辞

動詞語幹 ＋ -ыл ＋ -ыс ＋ -тыр

例）чар-（分ける）→ чарылыстыр-（別れさせる）

6）動詞語幹に被動態接辞と相互態接辞

動詞語幹 ＋ -ыл ＋ -ыс

例）чар-（分ける）→ чарылыс-（お互い離れる，別れる）

7）動詞語幹に再帰態接辞と相互態接辞

動詞語幹 ＋ -ын ＋ -ыс

例）хуҷахта-（抱きしめる）→ хуҷахтаныс-（抱き合う）

８．４．体（アスペクト）

８．４．１．不完了体

不完了体は，行為の開始や中止，終了を示さずに長期間に渡る行為や繰り返し行われる行為をあらわす.

ハカス語の動詞語幹はそれ自体では行為が完了したかどうかはあらわしていない.

不完了体は，動詞の副動詞形に助動詞 одыр-（座る）や тур-（立っている）をつけた構文（「(今）～している」,「～していた」,「(繰り返し）～している」,「(繰り返し）～していた」）で表わされるのがふつうである.

助動詞 тур-(立っている)は完了体をあらわす動詞や完了行為の習慣をあらわす構文(助動詞 сал- や ал- など）といっしょにも用いることもできる.

例）пас сал тур-（[毎回］書き終える）

Cf. пас сал-（書き終える）

сурып ал тур-（[毎回］質問する）

Cf. сурып ал-（質問する）

助動詞 пар-（行く）の現在形 -ир(парир) は動詞の副動詞 -ып 形とともに用いて，未完だが終わりに近づいている行為をあらわす.

例）Сооп парир.（冷めつつある.）

Апсахтар тӱгенҷи чылларын чуртап парирлар.

（老人たちは晩年を生きている.）

８．４．２．完了体

結果をともなう行為をあらわす完了体は，動詞の副動詞 -ып 形や副動詞 -а 形に助動詞 ыс-（送る）や сал-（置く），пар-（行く），кил-（来る），ал-（取る），пир-（あげる），хал-（残る），тӱс-（下りる），таста-（投げる），хон-（座る）をつけた構文で表わされる（カッコ内は動詞本来の意味).

助動詞 ыс-（送る）には発音上のバリエーション（ -ыс，-ис，-ыз，-из ）があったが，現在では副動詞 -ып 形と一体化して，本動詞語幹につける接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）に変わってしまった.

否定形は，副動詞 -ып 形のかわりに副動詞 -бин 形（副動詞否定形）をつけて，この接辞をつけて形成する．
この接辞はほとんどの動詞と結合することができる．

接辞 -быс

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ыбыс	-ібіс
母音	-быс	-біс

例）сана-（数える）→ санабыс-（数えてしまう，数え終わる）
сап-（叩く）→ саапыбыс- → саабыс-（叩く）
例文）
Түрче полза Иркеҗек килібізер.（まもなくイルケジェクが到着する.）
Тигір айыхпиныбысты.（空は晴れなかった.）

副動詞 -ып 形の最後の音 п や無声子音で終わる語幹最後の無声子音は有声化する．

助動詞 ыс-（送る）以外の完了をあらわす助動詞の用法やニュアンスは以下のようである（８．１１．助動詞参照）．

完了体を形成する助動詞（動詞語幹）	本動詞の形態	用法・ニュアンスや例
саларға (сал-)	副動詞 -ып 形（語幹が子音で終わる場合、語幹のみの短縮形）副動詞 -бин 形（否定形）	・接辞 -быс とほとんど同じ（だが，意味が少し弱いこともある）． ・完了の意味で最もよく用いられる助動詞である ・量や時間に関して言うときには，接辞 -быс の代わりに用いられる．
	例	ит сал-（し終える） хас сал-（掘り終える） Маға ол илееде письмо ыс салды. （私に彼はすでにたくさんの手紙を送った.） Заводта ікі чыл тоғын салған. （工場で２年間働いた.）
	副動詞 -а 形	・運動をあらわす動詞（「出かける」,「来る」,「外に出る」など）とともに用いられる． ・突然，あるいは予期せぬ行為の完了をあらわす．
	例	чиде сал-（[突然] 現れる） тура сал-（[突然] 起き上がる） сыға сал-（[突然] 外に出る） кіре сал-（[突然] 中に入る）

парарға (пар-)	副動詞 -ып 形 （語幹が子音で終わる場合、語幹のみの短縮形） 副動詞 -бин 形	・主に自動詞から形成される. ・他動詞の場合は、その他動詞の被動態から形成される.
	例	сын пар-（折れる） хырғап пар-（乾く） иділ пар-（される） өрін пар-（喜ぶ）
килерге (кил-) -	副動詞 -ып 形 （語幹が子音で終わる場合、語幹のみの短縮形）	・それほど多くは使われない. ・ときには，過去から現在まで続いている行為をあらわす（～してくる，～してきた）.
	例	усхун кил-（目が覚める） пар кил-（行ってくる） өс кил-（育ってくる，成長する）
аларға (ал-)	副動詞 -ып 形 副動詞 -бин 形	自分自身（主語）のために行う行為の完了をあらわす（自分のために～する）.
	例	иділ ал-（し終える） сағынып ал-（考える）
пирерге (пир-)	副動詞 -ып 形	主語の人が第三者のために行う行為の完了をあらわす（～してあげる）.
	例	ырлап пир-（歌ってあげる） пас пир-（書いてあげる）
халарға (хал-)	副動詞 -а 形	行為の完了をあらわす.
	例	чүгүре хал-（走り去る）
	副動詞 -ып 形 副動詞 -бин 形	ある限定した期間に完了された行為をあらわす. 「間に合う」,「～できる」と訳すとよい
	例	көр хал-（見ることができる） Мин пілбин халғам. （私は［その時間内で］理解できなかった.）
түзерге (түс-)	副動詞 -а 形	・突然の行為，あるいは１回きりの行為の完了をあらわす. ・音や明るさを
	例	одыра түс（［突然］座る） күзүри түс-（激しい音がする）
тастирға (таста-)	副動詞 -ып 形	集中的に行われる行為をあらわす.
	例	пас таста-（［速く］書いてしまう） тоос таста-（［迅速に］終える）
тастирға (хон-)	副動詞 -а 形	突然，あるいは予期せぬ，１回きりの行為の完了をあらわす.
	例	сығара хон-（［突然］飛び起きる）

完了をあらわす上記の接辞や助動詞を使わなくても行為の完了や終了をあらわすことができる．それは，１）動詞本来の意味のなかに行為の完了を含んでいるとき，２）運動をあらわす動詞（「出かける」,「来る」,「外に出る」など）のとき，３）言語活動をあらわす動詞（「言う」,「質問する」,「答える」）のとき（直接話法や間接話法でも用いられる），である．

例）Ол Ағбанда <u>төреен</u>.

（彼はアバカンで生まれた．; 動詞 төрирге「生まれる」には完了の意味が含まれている）

Тоғыс пастир тус <u>читті</u>.

（仕事をする時間が来た．; 動詞 чидерге「達する」には完了の意味が含まれている）

Пірсінде ол суғ хазынзар хармахтап <u>парған</u>.

（あるとき彼は川辺に釣りに行った．; 動詞 парарға「行く」は運動をあらわす動詞）

Мин аны іҷемнең <u>сурғам</u>.

（私はそのことについて母に訊ねた．; 動詞 сурарға「質問する」は言語活動をあらわす動詞）

«Чох! », – <u>нандырған</u> чиит оол.

（「いいえ！」と若者は答えた．; 動詞 нандырарға「答える」は言語活動をあらわす動詞）

完了体が現在形で用いられると「終えた」という１回の完了の意味はなくなり，完了される繰り返しの行為をあらわす（「毎回最後まで～します」）．

例）Ол хығырыбысча. / Ол хығыр салча.

（彼は<u>毎回</u>読書するときは<u>最後まで読みます</u>.）

Cf. Ол хығырча.（彼は読書しています．/ [ふだん]彼は読書します.）

８．４．３．開始体

開始体は行為の開始をあらわす．

開始体は，本動詞の副動詞 -п 形に助動詞 сых-（本動詞の意味は「外に出る」），あるいは助動詞 паста-（本動詞の意味は「始める」）を組み合わせることによってあらわす．助動詞 паста- は過去形にも現在形にも用いられ，助動詞 сых- よりも，開始される行為がゆっくりと進んでいるニュアンスがある．

例）тоғын сых-　（働き始める），ырлап сых-（歌い始める）

Алҷывай туразын тыхтап сыххан.（アルジバイが自分の家を修理し始めた.）

Яблоко ағазы нимістеніп пастапча.（リンゴの木が実をつけ始めている.）

８．４．４．多回体

多回体は行為の反復や同じ行為を多くの主体によって行われることをあらわす.
この接辞は上記の他の体とともに使うことができる.

多回体をあらわす接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-хла	-кле
母音	-ғла	-гле

例）турғысхла-（[何度も］立てる），турғысхлабыс-（[何度も］立ててしまう），
турғысхлап сыххан（[多くの人が］立て始めた）
Олғаннар тасхар ойнағлапчалар. （[多くの］子供たちが外で遊んでいる.）
Часхы чуртағлапчазар ба?
（家族の人たちは［みな］つつがなく暮らしていますか？）
Ол мында чуртапчатхан кізілердең оларның тілін сурастырғлаан.
（彼はここに住んでいる人々から彼らの言語について何度も質問した.）
Ағын хустар көөлҷе-көөлҷе хыстаҷаң чирлерзер парғлапчалар.
（[多くの］渡り鳥たちがゆっくりと越冬地へ向かっている.）
Часхы туста харачхайлар, учуххлап киліп, пайның ибінде уйа итклееннер.
（春にツバメが［多く］飛来して，裕福な人の木造家屋に巣を［多く］作った.）
Поконың хармах тикпезі суғ салғағына хыймырағлапча.
（ポコーの釣り竿の浮きが川の波に［何度も］揺れている.）

８．５．人称接辞

動詞の時制や条件法などをあらわす接辞の後に人称をあらわす接辞をつける．

人称接辞は歴史的に人称代名詞に起源をもとめることができる．

人称接辞の型は３つあり，どの型をつけるかは動詞の条件法や形動詞，時制などの接辞によって決まっているので，それぞれの項目を参照すること．

人称接辞第１型

数	人称	接辞の最後の音	最終音節の母音	
			硬母音	軟母音
単数	1	母音 有声子音	-бын	-бін
		無声子音	-пын	-пін
		-м, -н, -ң	-мын	-мін
	2	母音 有声子音	-зың	-зің
		無声子音	-сың	-сің
	3		—	
		いくつかの接辞の後につくことがあった	-дыр	-дір
複数	1	母音 有声子音	-быс	-біс
		無声子音	-пыс	-піс
		-м, -н, -ң	-мыс	-міс
	2	母音 有声子音	-зар 昔は -зыңар	-зер 昔は -зіңер
		無声子音	-сар 昔は -сыңар	-сер 昔は -сіңер
	3	母音 -г, -ғ, -й, -л, -р	-лар	-лер
		無声子音	-тар	-тер
		-м, -н, -ң	-нар	-нер

１人称単数の人称接辞 -бын（とその発音上のバリエーション）は，人称接辞の前が子音で終わる場合はその最後の子音を取って，接辞 -м（第２型）をつけるようになってきている．

3人称単数の人称接辞はふつう何もつけないが，ときにはいくつかの接辞（接辞 -ған 形や接辞 -чаң 形など）の後に接辞 -дыр（-дір）をつけることもあった．

例）Хабарчы, айна, хайдаң учурап парғандыр!
（いったいどこからこの悪魔のような牧夫が現れたのだろう！）
Хайди ырлабин-сарнабин парчаңдыр кізі мындағда?
（このようなときにいったいどうして歌を歌わずに去ることができるのだろう？）

第2型

数	人称	接辞の最後の音	最終音節の母音	
			硬母音	軟母音
単数	1	母音 子音 （最後の子音が落ちて -м がつく）	-м	
	2	母音 有声子音	-зың	-зің
		無声子音	-сың	-сің
	3		—	
複数	1	母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-быс	-біс
		無声子音	-пыс	-піс
		-м, -н, -ң	-мыс	-міс
	2	母音 有声子音	-зар	-зер
		無声子音	-сар	-сер
	3	母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-лар	-лер
		無声子音	-тар	-тер
		-м, -н, -ң	-нар	-нер

1人称単数の人称接辞 -м は，人称接辞の前が子音で終わる場合はその最後の子音を取って，接辞 -м をつける．

第３型

数	人称	接辞の最後の音	最終音節の母音	
			硬母音	軟母音
単数	1	母音 子音 （最後の子音が落ちて-м がつく）	-м	
	2	母音 子音 （最後の子音が落ちて-ң がつく）	-ң	
	3		—	
複数	1	母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-быс	-біс
		無声子音	-пыс	-піс
		-м, -н, -ң	-мыс	-міс
	2	母音	-ңар	-ңер
		子音	-ыңар	-іңер
	3	母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-лар	-лер
		子音	-тар	-тер
		-м, -н, -ң	-нар	-нер

１人称単数の人称接辞 -м と２人称単数 -ң は，人称接辞の前が子音で終わる場合（形動詞 -ған，-чаң，-ар 形など）はその最後の子音を取って，接辞 -м，接辞 -ң をつける．

１人称複数形には複数形接辞 -тар / -тер がつくこともある．その際は、意味は強められて「私たちもあなたがたも」とのニュアンスとなる．一方，「私たち」の人称接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）だけのときは「わたしたち」だけである．

例）Тоғынчабыс.（私たちは働いている.）

Тоғынчабыстар.（私たちもあなたがたも働いている.）

８．６．形動詞

形動詞は文中で定語あるいは述語となる．形動詞は，１）定語と述語の両方の機能を有する形動詞，２）述語にしかならない形動詞との２つに分かれる．

形動詞が定語になるときは，形容詞と同様に修飾する語の前に置く．

いくつかの形動詞の形は，後置詞とともに，あるいは名詞化して格接辞とともに用いて，従属節や時や理由をあらわす構文を形成する（詳細は形動詞や格それぞれの項目を参照）．

例）Узир алнында пала талыхтанча.（寝る前に子供がぐずっている．）

形動詞を形成する動詞が基本態の動詞（再帰態や使役態などの態接辞がつかない動詞）のとき，意味が受け身の意味になることがある．

例）атхан ух（放たれた弾），төлер ахча（支払われるお金）

８．６．１．形動詞現在 -чатхан 形

形動詞現在 -чатхан 形は，接辞 -чатхан（とその発音上のバリエーション）を副動詞 -ып 形につけてつくる．

否定形は副動詞否定 -бин 形に接辞 -чатхан（とその発音上のバリエーション）をつけてつくる．

肯　　定　　形		
副動詞 -ып 形の最後の形	副動詞 -ып 形もしくは語幹の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
副動詞 -ып 形 副動詞 -іп 形 副動詞 -п 形 動詞語幹子音	-чатхан	-четкен
例	ойнапчатхан（遊んでいる）， хасчатхан（掘っている）	синепчеткен（計測している）， өрінчеткен（喜んでいる）
否　　定　　形		
副動詞否定 -бин 形	-чатхан	-четкен
例	ойнабинчатхан （遊んでいない）， сомминчатхан （泳いでいない）	көрбинчеткен （見ていない）

形動詞現在 -чатхан 形の意味と使用法

１）定語として名詞を修飾して進行中の行為をあらわす（～している…）．動作主は属格で示される．

例）Минің хынчатхан ойнаағам пар.（私には好きなぬいぐるみがあります．）

しかし，過去のある一定の期間に行われた行為をあらわすこともある．

例） аалдағы школада үгренчеткен тус（村の学校で学んでいた時期）

２）述語で用いて，過去のある一定の期間に行われた行為をあらわす（そのとき…していた）.

人称接辞は第１型（１人称単数は第２型でもよい）が用いられる.

過去形についての詳細は８．９．１．２．４．-чатхан 形過去を参照.

例）Ағаа чол даа көрінминчеткен.

（彼女には［そのとき］道さえも見えなかった.）

Ол ылғап ала парчатхан.

（彼女は［そのとき，一定のあいだ］泣いていた.）

３）形動詞現在 -чатхан 形に所有接辞をつけると名詞化する.

例）Учёнайлар інектер музыкаа хынчатханнарын піліп алған.

（ウシが音楽を好むことを学者たちは発見した.）

位格接辞をつけると，主文の行為に付随・関連した行為をあらわす構文となる（～したときに）．所有接辞をつけずに位格接辞だけをつけることもある.

例）Чидіп, ўгре урчатханымда, аяғым сала ла тўзірібіспеем.

（到着して，私がスープを注いだときに，自分のスープ皿をあやうく落としそうになった.）

Чоохтасчатханда, мин автобустың парыбысханын көрбин халғам.

（会話していたときに，私はバスが行ってしまったことに気づかなかった.）

４）形動詞現在 -чатхан 形に名詞複数形接辞をつけて名詞化し，「～している人々」という意味をあらわす.

例）ойнапчатханнар（遊んでいる人たち）

８．６．２．形動詞現在 -иған 形

形動詞現在 -иған 形は，動詞 пар-（行く） と動詞 кел-（来る）につけて形成され，接辞を動詞語幹につけてつくる.

硬　母　音	軟　母　音
-иған	-иген
пар-	кел-
париған	келиген

例）париған кізі（［あっちへ］去っている人）

келиген аалчылар（［こっちへ］向かって歩いているお客たち）

形動詞現在 -иған 形と形動詞現在 -чатхан 形の意味の主な違いは，形動詞現在 -иған 形は肯定形のみでしか用いられず，行われている行為が話者の目前で進行していることが強調される.

例）парчатхан поезд（［一般的に］走っている列車）

париған поезд（［話者の目の前で］走っている列車）

動詞 пар-（行く）の形動詞現在 -иған 形 である париған が完了体を形成する助動詞として他の動詞とともに用いられるときは，本動詞（副動詞 -ып 形）であらわされる行為が「今まさに終わろう（完了しよう）としている」ことをあらわす．

例）үзіл парған арғамҷы（切れてしまったロープ）
үзіл париған арғамҷы（いまにも切れてしまいそうなロープ）

８．６．３．形動詞現在 -дырған 形

形動詞現在 -дырған 形は，接辞 -дырған（とその発音上のバリエーション）を副動詞 -а 形につけてつくる．

副動詞 -а 形の最後の母音	
-а	-е
-дырған	-дірген

例）тоңадырған көл（ふだん凍る湖），
ырлидырған сарыннар（ふだん歌う歌）
кизедірген тон（ふだん着る服）

形動詞現在 -дырған 形は通常の，繰り返される行為をあらわす．
形動詞現在 -дырған 形は肯定形でしか用いられない．

８．６．４．形動詞過去 -ған 形

形動詞過去 -ған 形の接辞は以下の通りである．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
有声子音（-ғ, -г, -ң を除く）母音	-ған	-ген
無声子音	-хан	-кен
-ғ, -г, -ң	-ан	-ен

２つの母音に挟まれた ғ と г は脱落して，隣同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- / -ее- になる．

例）сыйла-（贈る） ＋ -ған → сыйлаған → сыйлаан
изерле-（鞍をつける） ＋ -ген → изерлеген → изерлеен
сағы-（待つ） ＋ -ған → сағыған → сағыан → сығаан

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけてから形動詞過去 -ған 形接辞をつける．否定形接辞は母音 а で終わるので接辞は -ған か -ген になるが，接辞中の ғ と г は２つの母音に挟まれることになるので，否定形の接辞は最

終的な形として -баан / -беен，-паан / -пеен，-маан / -меен になる．

例）сыйла-（贈る） ＋ -ба ＋ -ған → сыйлабаған → сыйлабаан

изерле-（鞍をつける） ＋ -бе ＋ -ген → изерлебеген → изерлеен

пас-（書く） ＋ -па ＋ -ған → паспаған → паспаан

тоң-（凍える）＋ -ма ＋ -ған → тоңмаған → тоңмаан

形動詞過去 -ған 形の意味と使用法

1）定語として名詞を修飾して過去に起きた行為をあらわす（～していた…，～した…）．動作主は属格で示される．

例）Пирілген сöспекті хайди сизіндің?

（[資料として] 与えられた諺を君はどのように理解しましたか？）

Чайғыда, ибде айран парда, кірген кізее иң пурнада айран сус пирчелер.

（夏には，もし家にアイラン［発酵乳］があるときは，やって来た人に，まず最初にアイランを出してあげます．）

動詞本来の意味で現在形としてそのまま単独で用いることができる動詞 чадарға（横になっている，置いてある，ある），одырарға（座る，座っている），турарға（立つ，立っている），чöрерге（行く） の語幹 чат-，одыр-，тур-，чöр-．に形動詞過去 -ған 形をつけた際の意味は，過去でも現在でも可能である．

例）хости турған трактор

（そばに置いてあるトラクター［現在］/ そばに置いてあったトラクター［過去］）

Ағаста одырған хустар

（木に止まっている鳥［現在］/ 木に止まっていた鳥［過去］）

ただし，否定形のとき，意味は過去形のみである．

例）Ағаста одырбаан хустар

（木に止まっていなかった鳥［過去］）

2）述語で用いて，過去に行われた行為をあらわす．

人称接辞は第２型が用いられる．

助動詞語幹や完了体接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）の後にもつく．

過去形についての詳細は８．９．１．２．２．-ған 形過去を参照．

例）Мин Москвадағы литературнай институтты 1992 чылда тоосхам.

（私はモスクワ文学大学を１９９２年に卒業した．）

Артас іңезіне чоохтаан.

（アルタスは［自分の］おかあさんに言った．）

Педе Полит апсахта көп ниме идерге үгреніп алған.

（ペデはポリトおじいさんのところで多くのことをすることを学んだ．）

Ол, ағырып, тоғысха сыхпаан.

（彼は病気になったので，仕事に出勤しなかった．）

3）文中で主たる行為の動詞に付随する状況語（副動詞と同様な意味で）として用いられる（～して…，～しながら…）．

4）形動詞現在 -ған 形に所有接辞をつけると名詞化し，格変化もする．また，後置詞と組み合わせて用いることができる．

位格接辞をつけると，主文の行為に付随・関連した行為をあらわす（～したときに）．所有接辞をつけずに位格接辞だけをつけることもある．

例）Аалзар айланғанда, Андрей пос күзінең тура пүдіріп алған.
（［戦争後］村に帰ってから，アンドレイは自分の力で家を建てた.）

5）形動詞現在 -ған 形に名詞複数形接辞をつけると名詞化し，「～した人々」の意味になる．さらに所有接辞をつけて格変化もさせられる．

８．６．５．形動詞過去 -ғалах 形

形動詞過去 -ғалах 形の接辞は以下の通りである．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-ғ, -г, -ң を除く）	-ғалах	-гелек
無声子音	-халах	-келек
-ғ, -г, -ң	-алах	-елек

例）сомғалах（今まさに泳ごうとしている，まだ泳いでいない），
килгелек（［来るはずだが］まだ来ていない），
пасхалах（まだ書いていない）
үгреткелек（まだ学んでいない）
тоңалах（まだ凍っていない）

２つの母音に挟まれた ғ と г は脱落して，隣同士並んだ２つの母音は１つの長母音 -aa- / -ee- になる．

例）ойна-（贈る） ＋ -ғалах → ойнағалах → ойнаалах
изенне-（鞍をつける） ＋ -гелек → изеннегелек → изеннеелек

例外
тың -(< тыырға) （強化される，強くなる） ＋ -ғалах → тыығалах

形動詞過去 -ғалах 形は，まだ行われていないが，その行為が話者の発話時点で予期されている行為をあらわす（まだ～していない，まさに～しようとしている）．
定語でも述語でも用いられる．

例）хайылғалах хар（まだ解けていない雪）
тоңалах суғ（まだ凍っていない川）
сыххалах күн（まだ昇っていない太陽）
Ағырығ соонаң тыығалах.（病後，彼はまだ完全に元の体調に戻っていない．）
Одың кизілгелек.（薪が［割られてあるはずだが］まだ準備できていない．）
Сырайдағы көк ирткелек.
（顔にできた打ち身のあざは［もうひくはずだが］まだ治っていない．）

Паланың кіні чүглеелек.（赤ん坊のへその緒はまだ取れていない．）

形動詞過去 -ғалах 形に名詞位格接辞をつけて時をあらわす.

例）Суға кіргелекте, ödік суурба, таға сыххалахта, тайах тайанма.
（諺水に入ってもいないのに靴を脱ぐな，［同様に，］山に入ってもないのに杖をつくな．）

形動詞過去 -ғалах 形は否定形を形成しない.

８．６．６．形動詞現在＝未来 -чаң 形

形動詞現在＝未来 -чаң 形は動詞語幹に以下の接辞をつけて形成する.

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-ҷаң	-ҷең
無声子音	-чаң	-чең

例）хығырҷаң（いつも読む），пасчаң（いつも書く），түсчең（よく落ちる）

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけてから形動詞現在＝未来形の接辞 -ҷаң（否定接辞が硬母音で終わるとき），あるいは -ҷең（否定接辞が軟母音で終わるとき）をつけて形成する.

例）садылбаҷаң товарлар（非売品）

形動詞現在＝未来 -чаң 形の意味と使用法

1）定語として名詞を修飾して，その名詞がふだん行う行為や状態，その名詞の恒常的な特徴や保有している性質をあらわす（いつも～する…，いつも～である…）．ある用途に使用する物や施設の用語として使われることが多い.

例）тоғынҷаң аттар（労働で使用するウマ，使役馬）
садылбаҷаң товарлар（非売品）
ісчең суғ（飲用水）
іпек итчең завод（パン製造工場）
хығырҷаң кинде（読本）
хоостаҷаң урок（図画の授業）
köс тартчаң （火掻き棒）

2）述語で用いて，過去に規則的に，いつも，あるいは頻繁に行われた習慣的な行為をあらわす（よく～したものだ）.

人称接辞は第１型あるいは第２型（１人称および２人称単数の場合は接辞最後の ң が脱落して人称接辞がつく）が用いられる.

過去形についての詳細は８．９．１．２．３．-чаң 形過去を参照.

例）Мының алнында син удаа килҷеҥзің(килҷезің).
（以前君はよくやって来たものだ.）

3）諺や俚諺，一般的なことを言う際に述語として用いられることが多く，その際はこの接辞特有の過去という特定の意味をもつのではなく，時制に関係ない普遍的な意味合いをもつ．動詞 пол-（～である）のこの形 полҷаҥ はこの意味で会話（口語体）のなかでよく用いられる．

例）Маҥзыраан сеек сүтке түсчеҥ.（諺急いだハエは牛乳に落ちる.）
Тайғада тілнеҥ аҥнабаҷаҥ.（諺タイガでは口先だけで狩りはできない.）

4）疑問代名詞 хайди（どうして）や ноға（なぜ）とともに用いられて反語をあらわす．その際，人称接辞は省略される．

例） Хаҥыртыснаҥ хайди чуртаҷаҥ?
（偽りとともにどうして生きることができようか？）
Хазых кізі курортха ноға чөрҷеҥ?
（健康な人がなぜ療養所に行くのか？）

5）まれに未来の意味で用いられる．

例）Анаҥ олар тоғынҷаҥ чирзер пағаннар.
（その後，彼らは赴任地に行った.）

6）形動詞現在＝未来 -чаҥ 形に所有接辞をつけると名詞化し，格変化もする．また，後置詞と組み合わせて用いることができる．

形動詞現在＝未来 -чаҥ 形に３人称所有接辞を，その後に対格接辞をつけた後に，その同じ動詞を副動詞 -ып にして続けると，何も顧みずにひたすら行っている行為をあらわす（ひたすら～し続けている）．

例）Кочегар пестің түбі чох харнынзар хара тасты <u>силҷеен</u> не <u>силче</u>.
（釜たきは底の見えない炉のなかへ石炭をひたすらくべ続けている.）

7）所有接辞をつけた名詞化した形で用いて，その行為を行う可能性や希望をあらわす．чох の述語形 чоғыл とともに用いられる．

例）Минің синнеҥ <u>тиҥнесчеем</u> чоғыл.
（私は君に匹敵することはできない.）
<u>Азыранчаам</u> чоғыл.（私は食べたくない.）

8）形動詞現在＝未来 -чаҥ 形に名詞複数形接辞をつけると名詞化し，「～した人々」の意味になる．さらに所有接辞をつけて格変化もさせられる．

例）інек сағҷаҥнар（搾乳婦たち）

８．６．７．形動詞未来 -ар 形・未来否定 -бас 形

形動詞未来 -ар 形の接辞は以下の通りである．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ар	-ер
母音	-ир （下記の発音上の変化を参照）	

例）хыгырар（読みます），өрінер（喜ぶだろう）

動詞語幹が，母音 ＋ 子音 п，к，х，с で終わっているとき，これらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化し，それぞれ子音 б，г，ғ，з になる．

例）маах-（ずぶ濡れになる） ＋ -ар → маахар → маағар
пас-（書く） ＋ -ар → пасар → пазар
пөк-（[問題を] 解く） ＋ -ер → пөкер → пөгер

動詞語幹が子音 т で終わっているときは，語幹直前に母音があるときのみに有声化して д になる．

例）сат-（売る） ＋ -ар → сатар → садар
しかし，өскірт-（育てる） ＋ -ер → өскіртер
（直前が子音のときは有声化しない）

動詞語幹が母音で終わっているときは，動詞語幹の最後の母音と形動詞接辞最初の母音はひとつの母音 и になる．

例）аңна-（狩りをする） ＋ -ар → аңнаар → аңнир
сағы-（待つ） ＋ -ар → сағыар → сағир
ікінчіле-（疑う） ＋ -ер → ікінчілеер → ікінчілир
икі-（頷く） ＋ -ер → икіер → икир

否定形は以下の接辞を動詞語幹につける．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-бас	-бес
無声子音	-пас	-пес
-м, -н, -ң	-мас	-мес

例）парбас（行かない），үрбес（[風が] 吹かない），хайнатпас（沸かさない），
тоңмас（凍らない），өрінмес（喜ばない）

形動詞未来 -ар 形の意味と使用法

1）定語として名詞を修飾して，未来に行われる行為や状態をあらわす（～する予定の…，～になる…）．

例） узир палалар（これから寝ようとする子供たち）
узубас палалар（寝ようとしない子供たち）

しかし，否定形ではよく現在の意味で用いられる．

例）тыс пілбес ипчі（せかせかして落着きのない女性）

2）述語で用いて，その形動詞の行為を未来の時点で行う，未来に起こることをあらわす（[未来の時点で] ～します）．否定形は形動詞の行為を未来の時点で行わない，その行為が起きないことをあらわす．

人称接辞は第１型あるいは第２型（１人称および２人称単数の場合は接辞最後の子音が脱落して人称接辞がつく）が用いられる．

未来形についての詳細は８．９．１．３．現在＝未来形を参照．

例）Мин университетте тоғынам.
（私は大学で働く予定です.）

3）形動詞未来 -ар 形に所有接辞をつけると名詞化し，格変化もする．また，後置詞と組み合わせて用いることができる．3 人称所有接辞をつけた形は，時制に関係なく，何よりもその行為そのもの（～すること）をあらわすことが多く，本の中でテーマや項目，表題としてよく用いられる．

例）орта пазарының оңдайлары（正書法，正しい書き方）
кӱн сығар алнында（日の出前に）
мал öскірері（家畜の飼育）
тура пӱдірері（家の建設）
соғласнайларны орта адиры паза пазары
（子音の正しい発音と正しく書くこと）

形動詞未来 -ар 形に所有接辞をつけた後に奪格接辞をつけると従属節を形成し，主文のあらわす行為の直前に起きた行為をあらわす（～するやいなや…）．その際，形動詞未来形は未来をあらわすのではなく，時制は主文の動詞の時制に従う．

例）Кізілер чӧріп пастирынаң, чолда істер харалғлап сыхханҷых.
（人々が歩き始めるやいなや，道の足跡は黒くなった.）

形動詞未来 -ар 形に所有接辞をつけずに奪格接辞をつけても従属節を形成するが，「～だとしても」，「～だけれども」，「～に対して」の意味になる．

例）Хазаа-хахпах халардаң, тура даа ун-талған иділген.
（母屋以外の屋敷内の建物はそのまま残ったけれども，母屋は小麦粉に変わった.）

８．６．８．形動詞未来 -ғадағ 形

形動詞未来 -ғадағ 形の接辞は以下の通りである．

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
有声子音（-ғ, -ӊ を除く）	-ғадағ	-гедег
無声子音	-хадағ	-кедег
母音 -ғ, -ӊ	-адағ	-едег

例）халғадағ（残るだろう），чағадағ（降るだろう）

語幹が母音で終わっている場合，本来は有声子音につける -ғадағ / -гедег がつくのだが，接辞最初の子音 ғ あるいは г は２つの母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音，-аа- / -ее- となる．動詞語幹が母音 а あるいは е はで終わるときは，そのまま語幹に -адағ / -едег をつければよく，動詞語幹がそれ以外の母音であれば１つの長母音，-аа- / -ее- となる．

例）ырла-（歌う） ＋ -ғадағ → ырлағадағ → ырлаадағ
тимне-（準備する） ＋ -гедег → тимнегедег → тимнеедег
аңды-（歌う） ＋ -ғадағ → аңдығадағ → аңдыадағ
→ аңдаадағ

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけた後に形動詞未来 -ғадағ 形をつけてあらわす．

例）ырла-（歌う） ＋ -ба ＋ -адағ → ырлабаадағ
кис-（着る） ＋ -пе ＋ -едеғ → киспедеедеғ

形動詞未来 -ғадағ 形の接辞は話者の推測によって未来の時点で起きるだろう，あるいは起こらないだろうという行為をあらわす（おそらく～だろう，おそらく～しないだろう）．
人称接辞は第１型がつく．

例）халғадағ кізілер（［話者が思うに］残るだろう人々）
Мин паза пар полбаадағбын.（私もおそらく行くことはできないだろう．）

この接辞はハカス語のほかにウイグル語やトゥバ語，アルタイ語，ショル語に見られ，古代チュルク語の形動詞未来形 -гы / -гу に動詞 тег-（触れる）がついた形と考えられる（動詞 те- / -ті- ；言う がついた形と考えるチュルク学者もいる）．

８．６．９．形動詞の名詞化

形動詞は所有接辞をつけること（「～なこと」の意味になる），複数形接辞をつけること（「～な人たち」の意味になる）で名詞化する．名詞化した形動詞は格変化する．上記それぞれの形動詞の項目でも説明や例を掲載してあるのでそれを参照.

例） Чоохтасчатханда, мин автобустың парыбысханың көрбин халғам.
（会話していたときに，私はバスが行ってしまったことに気づかなかった.）
Тоғынчатханнар тынанарлар. （労働者たちは休息する予定だ.）

８．７．副動詞

副動詞は６つの形、１）副動詞 -ып 形，２）副動詞 -а 形，３）副動詞 -бин 形，４）副動詞 -ғанча 形，５）副動詞 -ғали 形，６）副動詞 -абас 形がある.

８．７．１．副動詞 -ып 形

副動詞 -ып 形は，接辞 -ып（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてつくる.

副動詞 -ып 形の接辞

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ып	-іп
母音	-п	

例）туруп（立って），чиділ（達する），аңнап（狩猟して），тимнеп（準備する）

動詞語幹が，母音 ＋ т で終わるとき，語幹最後の т は有声化して д になる.
例）чит-（達する） ＋ -іп → читіп → чиділ

動詞語幹が，母音 ＋ с で終わるとき，語幹最後の с は有声化して з になる.
例）кіс-（切る） ＋ -іп → кісіп → кізіп

動詞語幹の最後が п，х，ғ，г，ң で終わるとき，語幹最後の子音は脱落し，その結果２つ並んだ母音は１つの長母音になる．その際，語幹の母音が長母音化する.
例）хап-（見つける） ＋ -ып → хапып → хаып → хаап
теп-（蹴る） ＋ -іп → тепіп → теіп → тееп
чығ-（集める） ＋ -ып → чығып → чыып
тоң-（凍える） ＋ -іп → тоңіп → тоіп → тооп
сиг-（浸み込む） ＋ -іп → сигіп → сиіп → сиип

語幹が子音で終わる動詞は，動詞語幹を副動詞 -ып 形として用いることがよくある.
例）Тигірде хартыға учух чөрче.（空にタカが飛んでいる.）
その際，副動詞 -ып 形に他の接辞をつけるときも語幹に接辞がつく.
例）Ол тимір песте от тамысча.（彼はペチカに火をつけた.；-ча は現在形接辞）

しかし，副動詞 -ып 形の後に，母音で始まる動詞や助動詞が続くとき，またコンマで文章が続くときは，副動詞 -ып 形は完全な形でないといけない.

例）тоғынып аларға（働く；助動詞が母音で始まる）

Пу суғны чоғар хастап, чолда улуғ сидіктерні тобырып, олар Мрас суғның пазына сых килгеннер.

（この川を上流に沿って進み，道中大きな困難を克服して，彼らはムラス川の源流部に出た.；文中コンマで切って続く）

副動詞 -ып 形の意味と使用法

1）他の行為に先行する行為をあらわす（～してから，～したあとで）．また，主たる行為の原因をあらわす（～したので，～した原因のために）.

例）Пайның чуртына чидіп, ізік азып, изеннесче, иркін алтап, минділесче.

（領主様の邸宅に着いて後，扉を開け，「こんにちは」と言い，挨拶を交わす.）

Ол, ағырып, тоғысха сыхпаан.

（彼は病気になったので，出勤しなかった.）

2）主たる行為と同時あるいは並行的に行われる行為（～しながら）をあらわす．また，主たる行為をどのようして行っているかという状況をあらわす.

例）Чолда хайдыг-да кізілер тамкы тартып турчалар.

（道で誰か人々が，挨拶を交わしている.）

Аны чӱрексіп сағыпчам.（私は彼をドキドキしながら待っている.）

この意味で用いられるときには、副動詞 -ып 形の後に ала / еле が入ることや，現在形接辞 -чат / -чет あるいは現在形接辞 -ир が動詞語幹と接辞 -ып 形のあいだに入れることがよくある.

例）Тӱрче одырып, индіркі аарзар көріп ала, ибзер кире касхан.

（少し座ったあと，村を見渡しながら家に入った.）

... ізіксер иртіп парирып пабазына сӧлеен Оля.

（…ドアに向かって行きながら，オーリャはお父さんに言った.）

3）主たる行為の目的をあらわす（～する目的のために）.

例）Прайзы, мині ӱдезіп, тасхар сыхханнар.

（みんなは私を見送るために外に出た.）

4）同じ動詞の副動詞 -ып 形をハイフンでつなげて用いると，その行為が長期間行われていること，繰り返し行われていることをあらわす.

例）Санап-санап, тооспадым.

（私は何度も何度も数えたが，数えきることができなかった.）

5）副動詞 -ып 形は現在形（ -ча 形現在と -чатхан 形現在，接辞をもたない тур 形などの現在）や過去形（ -тыр 形過去）を構成する一部となる．また，助動詞とともに用いられる．詳細はそれぞれの項目（８．９．１．１．現在形と８．９．１．２．過去形，８．１１．助動詞）を参照．

例）Олганнар часхызын хусхаҷахтарны азырапчалар.
（子供たちは春に小鳥を育てている.）
Сағамғы туста көп кізі пічікті интернет пастыра ысча.
（現在では多くの人がインターネットで手紙を送っている.）
Хараазын хыро тӱс парған паза хай пірее өзімнер тооп парған.
（夜中に霜が降りて，植物のいくつかは凍えてしまった.）

８．７．２．副動詞 -a 形

副動詞 -a 形は, 接辞 -a（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてつくる.

副動詞 -a 形の接辞

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-a	-e
母音	-и	

例）одыра（座りながら），көре（見ながら）

動詞語幹の最後が，母音の後に к，п，с，т，х が続くとき，語幹最後のこれらの子音は有声化して，それぞれ г，б，з，д，ғ になる.

例）сап-（打つ） ＋ -a → сапа → саба
пас-（書く） ＋ -a → паса → паза
чат-（横になる） ＋ -a → чата → чада
чит-（到達する） ＋ -e → чите → чиде
сых-（外に出る） ＋ -a → сыха → сыға

動詞語幹が母音で終わっているときは，動詞語幹の最後の母音と形動詞接辞最初の母音はひとつの母音 и になる.

例）ойна-（遊ぶ） ＋ -a → ойнаа → ойни
тӧзе-（敷く） ＋ -e → тӧзее → тӧзи

副動詞 -a 形の意味と使用法

1）主たる行為と同時に行われる行為（～しながら）をあらわす．副動詞 -ып 形よりも主たる行為との関係が密接である．副動詞 -ып 形よりも使用頻度は低い.

例）Сах андох, мылтығын тудына, сиден тастынзар ойлаан.
（[彼は] すぐに銃を手に取り塀の向こうへと走り去った.）

２）同じ動詞の副動詞 -а 形をハイフンでつなげて用いると，副動詞 -ып 形と同様に，その行為が長期間行われていることをあらわす.

例）Пара-пара килгенде, Улуғ Кимге читкеннер.
（[彼らは] どんどん進んでいき，ウルグ・キム（エニセイ）川に達した.）

３）副動詞 -а 形の後に ла / ле をつけると「～やいなや」の意味になる.

例）Чада ла, узубысхам.（私は横になるとすぐに眠りについた.）
Отряд командирін көре ле, сис салдым: чабал ниме пол парды.
（私は隊長を見るとすぐに悪いことが起きたのだと理解した.）

４）副動詞 -а 形は現在形（ -дыр 形現在）を構成する一部となる．また，いくつかの動詞とともに用いられる．詳細はそれぞれの項目（８．９．１．１．現在形と８．１１．助動詞）を参照.

例）

副動詞 -а 形はすでに副詞化，後置詞化してしまっている語が多くある.

例）хазыра（[ドアや窓が] 開け放たれて；副詞），
талдыра（意識を失うまで；副詞），кізіре（～を越えて；後置詞），
читіре（～まで；後置詞）

８．７．３．副動詞 -бин 形

副動詞 -бин 形は以下の接辞を動詞語幹につける.

動詞語幹の最後の音	
母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-бин
無声子音	-пин
-м, -н, -ң	-мин

例）парбин（行っていない），ўрбин（[風が] 吹いていない），
хайнатпин（沸いていない），тоңмин（凍っていない），
өрінмин（喜んでいない）

この副動詞 -бин 形は，歴史的には２つの接辞，否定接辞 -ба と古代チュルク語の副動詞 -ыйн 形（～しながら）とが融合した形である．ハカス語にはこの古代チュルク語の副動詞形はそのままの形で保持されなかったが，トゥバ語ではこの副動詞は -байын / -бейн，-пайн / -пейн，-майн / -мейн 形として保持されている.

副動詞 -бин 形の意味と使用法

1）副動詞 -ып 形の否定の意味をもつ（～しないで，～せずに）.

例）Тоғынарға хынмин, ибзер наныбысхан.
（[彼は] 仕事がしたくなくて，家に帰ってしまった.）
Ипчілер, ниме итпин, сохпайызып одырлар.
（女性たちは何もせずに座っている.）

2）副動詞否定 -бин 形に奪格接辞をつけると、「～するかしないかうちに，～するいなや」という意味になる．その際，奪格接辞最初の н はつけずに -аң か -ең をつける.

例）көрбинең（見るか見ないうちに）
Натка, ізік аспинаң, ах састығ палаҷахты көрче.
（ナトカはドアを開けるとすぐに，金髪の赤ちゃんを見た.）

8．7．4．副動詞 -ғанҷа 形

副動詞 -ғанҷа 形の接辞は以下の通りである.

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
有声子音（-ғ, -ң を除く）（母音）	-ғанҷа	-генҷе
無声子音	-ханҷа	-кенҷе
母音 -ғ, -ң	-анҷа	-енҷе

例）турғанҷа（起き上がるまで，起き上がらないうちは），
чыылысханҷа（集まるまで，集まらないうちは），
тоңанҷа（凍えないうちは）

語幹が母音で終わっている場合，本来は有声子音につける -ғанҷа / -генҷе がつくのだが，接辞最初の子音 ғ あるいは г は２つの母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音，-аа- / -ее- となる．動詞語幹が母音 а あるいは е はで終わるときは，そのまま語幹に -анҷа / -енче をつければよく，動詞語幹がそれ以外の母音であれば１つの長母音 -аа- / -ее- となる.

例）узу-（眠る） ＋ -ғанҷа → узуғанҷа → узуанҷа → узуааанҷа

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけた後に副動詞 -ғанҷа 形をつけてあらわす．その際，副動詞 -ғанҷа 形の最初の文字 ғ / г は２つの母音に挟まれることになり，脱落して１つの長母音 -аа- / -ее- となる.

例）тоос-（終える） ＋ -па ＋ -ғанҷа → тооспағанҷа → тооспааанҷа

副動詞 -ғанҷа 形の意味と使用法

1）副動詞 -ғанҷа 形の接辞は「～するまでは」,「～しないうちは」という意味をあらわす.

例）Квартал тоозылғанҷа парыҷар, анаҷ сол саринзар тартыбызарзар.
（街区の端まで行ってください，その後で左に曲がってください.）
Тосханҷа чі – майыхханҷа тоғын.
（俚諺満腹になるまで食べよ，へとへとになるまで働け.）
Пу тоғысты ол чуртазы тоозылғанҷа апарған.
（この活動を彼は，人生が終わるまで，行った.）

2）（主文の）主たる行為と対置される行為をあらわす（～する代わりに…，～するよりもむしろ…）.

例）Улуғ пайға пазырғанҷа, аҷнап таа мин азыранам.
（大領主に跪いて暮らすよりも，狩猟して暮らすほうを私は選ぶ.）

この接辞は形動詞 -ған 形と名詞比較格 -ҷа 形が一つになった形であり，動作主を示すために副動詞 -ғанҷа 形の接辞中の -ған に人称接辞をつけることもある.

例）пеер чіткенімҷе（私がここに来るまでに）
Інектеріҷ мин дее саам айланғаныҷҷа.
（君が帰ってくるまで，私は君の乳牛を搾乳しよう.）

８．７．５．副動詞 -ғали 形

副動詞 -ғали 形の接辞は以下の通りである.

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
有声子音（-ғ, -ҷ を除く）（母音）	-ғали	-гели
無声子音	-хали	-кели
母音 -ғ, -ҷ	-али	-ели

例）турғали（起き上がってから），чыылысхали（集まってから）

語幹が母音で終わっている場合，本来は有声子音につける -ғали / -гели がつくのだが，接辞最初の子音 ғ あるいは г は２つの母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音，-аа- / -ее- となる．動詞語幹が母音 а あるいは е はで終わるときは，そのまま語幹に -али / -ели をつければよく，動詞語幹がそれ以外の母音であれば１つの長母音，-аа- / -ее- となる.

例）узу-（眠る） ＋ -ғали → узуғали → узуали → узааали
тимне-（準備する） ＋ -гели → тимнегели → тимнеели
аңды-（注意深く見る） ＋ -ғали → аңдығали → аңдыали
→ аңдааали

副動詞 -ғали 形の接辞はこの接辞をつけた動詞の行為を終えてから主文の行為が始まることをあらわす（～してから）.

例）Город төстелгели нинче чыл? （町ができてから何年経ちますか？）

８．７．６．副動詞 -абас 形

副動詞 -абас 形は，接辞 -абас（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてつくる.

副動詞 -абас 形の接辞

動詞語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-абас	-ебес
母音	-ибас	-ибес

例）салабас（置きながら），көребес（見ながら）

動詞語幹の最後が，母音の後に к，п，с，т，х が続くとき，語幹最後のこれらの子音は有声化して，それぞれ г，б，з，д，ғ になる.

例）сап-（打つ） ＋ -абас → сапабас → сабабас
пас-（書く） ＋ -абас → пасабас → пазабас
чат-（横になる） ＋ -абас → чатабас → чадабас
чит-（到達する） ＋ -ебес → читебес → чидебес
сых-（外に出る） ＋ -абас → сыхабас → сығабас

動詞語幹が母音で終わっているときは，動詞語幹の最後の母音と形動詞接辞最初の母音はひとつの母音 и になる.

例）ойна-（遊ぶ） ＋ -абас → ойнаабас → ойнибас
төзе-（敷く） ＋ -ебес → төзеебес → төзибес

副動詞 -абас 形は否定形を形成しない.

副動詞 -абас 形はカチン方言で，意味は副動詞 -ып 形と同じである.

例）Іді сағынабас, сүрееліг өрінче.
（そのように考えて，彼はとても喜んでいる.）

８．８．法と時制
８．８．１．直説法
８．８．１．１．現在形

現在時制は次の５つ、１）-ча 形現在，２）-чадыр 形現在，３）-чаттыр 形現在，４）-ир 形現在，５）動詞 одыр-，тур-，чӧр- を用いる現在形，に分かれる．

８．８．１．１．１．-ча 形現在

-ча 形現在は，動詞の副動詞 -ып 形，あるいは副動詞 -ып 形の短縮形（動詞語幹であらわす）にこの現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）をつけ，さらに人称接辞第２型をつけることであらわす．（副動詞 -ып 形については８．７．１．副動詞 -ып 形参照）．

注意することは，人称接辞の３人称単数はゼロ語尾であること，１人称単数形では第２型 -м がつくことである（第１型 -бын は今では稀である）．（８．５．１．人称接辞参照）．

また，１人称複数形人称接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）の後に複数形接辞 -тар / -тер がつくことがあるが，その際は「私たちとあなたたち」のニュアンスが加わる．

この接辞は，歴史的には чат-（横になる）> -ча / -че へと変化したものである．

動詞語幹が副動詞 -ып 形の短縮形になるのは，２つの子音に挟まれた副動詞 -ып 形の母音 ы あるいは і が母音の弱化で脱落し，その結果３つの子音が並ぶことになり，ハカス語ではふつう子音３つの連続が並び立たないことから，２つの子音が１つになった変化である．それは結局，動詞語幹最後の子音に変わって現在形接辞 -ча / -че に続くことになった．

例）пазыпча > пазпча > пасча

肯定形

副動詞 -ып 形 ＋ 現在形接辞 -ча ＋ 人称接辞（第２型）

現在形接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
	-ча	-че

動詞語幹が母音で終わっている場合は，副動詞 -ып 形は短縮型にはならず（省略されず）-п がつき，現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）がつく．

例）ойна-（遊ぶ） ＋ -п ＋ -ча → ойнапча（[彼が] 遊んでいる）
сӧле-（言う） ＋ -п ＋ -че → сӧлепче（[彼が] 言っている）

動詞語幹が子音で終わっている場合は，副動詞 -ып 形は短縮型，すなわち語幹の形になり，それに現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）がつく．

例）пар-（行く）　＋　-ча　→　парча（[彼が] 向かっている）
　　кил-（来る）　＋　-че　→　килче（[彼が] こっちに向かっている）

ただし，動詞語幹が -ғ，-г，-ң で終わる場合は，短縮型，すなわち語幹の形にはならないで接辞 -ып をつけて形成するが，その際これらの子音 -ғ，-г，-ң は脱落して語幹の母音を並べた一つの長母音になる．

例）сағ-（搾乳する）＋　-ып　＋　-ча →　сағып ча　→　саып ча　→　саап ча
　　чыг-（集まる）＋　-ып　＋　-ча →　чыгып ча　→　чыып ча
　　сиг-（線を引く）＋　-іп　＋　-че →　сигіп че →　сиіп че　→　сиип че
　　тоң-（線を引く）＋　-ып　＋　-ча →　тоңып ча →　тоып ча　→　тоап ча

カチン方言では語幹が子音で終わっても副動詞 -ып 形を短縮しないで（語幹の形にしないで）完全な形で言う人たちもいる．

副動詞 -ып 形について付言しておけば，動詞語幹が子音で終わっていると，副動詞 -ып 形は短縮型，すなわち語幹の形になると上述したが，正確にいうと，それは次に続く助動詞の最初の文字が子音で始まっているときである．

例）Пас көрчем.（私は書いてみている.）
　　Кибелісті хобыр пир.（詩を写してあげなさい.）

次に続く助動詞の最初の文字が母音のときは副動詞 -ып 形は完全型になる（語幹だけではあらわせない）．

例）пазып одыр（[彼は] 座って書いている.）
　　Кибелісті хобырып ал.（詩を［自分のために］写しなさい.）

ハカス人のハカス語学者カルポフによると，この副動詞 -ып 形が語幹の形になることは，最近の現象であるようである．19 世紀に記録されたフォークロアなどをみてみると，次に続く助動詞の最初の文字が子音で始まっていても副動詞 -ып 形が完全型になっていることが多い．

いくつかの動詞で人称接辞との組み合わせを表にしてあげておく．

肯定形
ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	ойнапчам	ойнапчабыс
2 人称	ойнапчазың	ойнапчазар
3 人称	ойнапча	ойнапчалар

сегір-（跳躍する，ジャンプする）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	сегірчем	сегірчебіс
2 人称	сегірчезің	сегірпчезер
3 人称	сегірче	сегірчелер

否定形は，動詞語幹と現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）のあいだに否定形接辞 -бин（とその発音上のバリエーション）をつけてあらわす.

否定形接辞

語幹最後の音	
母　音 有　声　子　音	-бин
無　声　子　音	-пин
-м, -н, -ң	-мин

否定形

副動詞 -ып 形 ＋ 否定形接辞 -бин 形 ＋ 現在形接辞 -ча ＋ 人称接辞
第２型

否定形 ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	ойнабинчам	ойнабинчабыс
2 人称	ойнабинчазың	ойнабинчазар
3 人称	ойнабинча	ойнабинчалар

否定形 сине-（計測する）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	синебинчем	синебинчебіс
2 人称	синебинчезің	синебинчезер
3 人称	синебинче	синебинчелер

-ча 形現在の意味

１）そのときに行っている行為やそのとき起きている状況をあらわす（現在進行形）.

例）Мин чуунып аларға сағынчам.

（私はお風呂に入ろうと思っています.）

２）いつも行っている行為や途切れずに行われる行為，恒常的な状況，その主語があらわす単語の恒常的な特徴をあらわす（日常の習慣，恒常的な性格や特徴）.

例）Чайғызын пүкте, арығда, садта көп аймах хурт-хоостар чуртапча.

（夏には，野原や森，庭にはたくさんの種類の虫が住んでいます.）

Мин хығыр полбинчам.

（私は［文字を］読むことができません.）

３）過去に行われた行為.

-ча 形現在は，昔話などのフォークロアのなかでは，過去のことだが叙述を生き生きと伝えたい場合にこの現在形が使われることがよくみられる.

４）未来の行為.

-ча 形現在は，まれに未来の意味で用いられることもあるが，それは確実に行われ、しかも、現在時点から極めて近い未来のときに限られる.

-ча 形現在に完了をあらわす接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）をつけることや，完了をあらわす動詞と組み合わせて用いることができる．その際は，繰り返される行為をあらわし，しかもその行為が毎回最後まで終えられる，完遂していることをあらわしている（８．４．２．完了体参照）.

例）Арғамҷыны тартсох, ўзіл парча.（綱を引っ張るといつも切れてしまう.）

-ча 形現在に多回体接辞 -хла（とその発音上のバリエーション）をつけることができる．1 人の主体によって何度も行われる行為，あるいは多人数で同時に行われている行為をあらわす（８．４．４．多回体参照）.

現在形でよく用いられる助詞は以下の助詞である.

１）助詞 нооза

助詞 нооза（～だから，～じゃないか）は -ча 形現在の後につけて用いるが，-ча 形現在につく人称接辞は，-ча 形の後につけても，нооза の ноо- の後につけてもどちらでもよい.

例）Тоғынчазын нооза.（だって，君は働いているじゃないか.）

Тоғынча нооӈза.（だって，君は働いているじゃないか.）

２）助詞 даа

意味を強めるために助詞 даа（とその発音上のバリエーション；даа，дее，таа，тее；～も，～さえも）がよく用いられる．その際は，接辞のように副動詞 -ып 形の後，現在形接 -ча の前に入る.

副動詞 -ып 形の最後の音	語　幹　の　最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
有　声　子　音（語幹省略形）	-даа	-дее
-п 無　声　子　音（語幹省略形）	-таа	-тее

例）Олар пастаачалар, хоостаптаачалар.
（彼らは書いてもいるし，描いてもいる.）

否定形ではこの助詞は副動詞否定 -бин 形の後，現在形接辞 -ча の前に入る.
例）Аның колхозында полып, пір чылға чіт парир, пістеңер, тізең, сағынминдаача.
（彼女がコルホーズにいるようになって１年が過ぎるが，［彼女は］私たちについて思い出してくれてさえない.）

助詞 даа は現在形のなかに接辞のように入れてもよいし，離して用いてもよい.
例）Ол пастаача, хығырдаача.（彼は書いたりも，読んだりもしている.）
Пістің кізілер тоғынчалар даа, ўгренчелер дее.
（私たちの人々は働いたりも勉強したりもしている.）

３）助詞 ла
意味を強める助詞 ла / ле（～だけ，ただ～）は，接辞のように副動詞 -ып 形の後に入れて用いる.
例）Ўзігі чох паслачазың ма?（君はずっと休まずに書き続けているのですか？）

４）助詞 -ох / -ök（～だけ）
確認の意味を強める助詞 -ох / -ök（～だよ，～も）は，接辞のように副動詞 -ып 形の後に入れて用いる.
動詞語幹が子音で終わっているとき，副動詞 -ып 形は短縮型（語幹のみ）にはならないで，完全型（ -ып 形にする ）になる.
否定形では副動詞 -бин 形の後に入れる.
例）Аннаңар областьта пілібökчелер.
（そのことについて州でも知られていることだ.）
Ол парбинохча.（彼も歩いていない.）

動詞語幹が鼻音子音で終わっているとき，副動詞 -ып 形の п は м に交替し，他の子音は б に交替する.
副動詞 -ып 形の ы は子音のあいだに挟まれたとき脱落する.
例）пас + ып + ох + ча → пасыпохча → пазыпохча → пазыбохча
кöр + іп + ök + че → кöріпökче → кöрібökче
тоғын + ып + ох + ча → тоғынып охча → тоғынымохча
→ тоғынмохча（ -ып の ы も脱落）

８．８．１．１．２．-чадыр 形現在

-чадыр 形現在はカチン方言で，現代のハカス標準語ではそれほど用いられるわけではない．

-чадыр 形現在は，動詞の副動詞 -ып 形，あるいは副動詞 -ып 形の短縮形（動詞語幹であらわす）にこの現在形接辞 -чадыр（とその発音上のバリエーション）をつけ，さらに人称接辞第１型をつけることであらわす．

動詞語幹が母音で終わっている場合は，副動詞 -ып 形は短縮されず（省略されず） -п がついて，現在形接辞 -чадыр（とその発音上のバリエーション）がつく．

例）ойна-（遊ぶ）　＋　-п　＋　-чадыр　→　ойнапчадыр
（[彼が] 今遊んでいる）
сöле-（言う）　＋　-п　＋　-чедір　→　сöлепчедір（[彼が] 今話している）

動詞語幹が子音で終わっている場合は，副動詞 -ып 形は短縮型，すなわち語幹の形で，そこに現在形接辞 -чадыр（とその発音上のバリエーション）がつく．

例）пар-（行く）　＋　-чадыр　→　парчадыр（[彼が] 今向かっている）
кил-（来る）　＋　-чедір　→　килчедір（[彼が] 今こっちに向かっている）

副動詞 -ып 形　＋　現在形接辞 -чадыр　＋　人称接辞
第１型（完全型）

接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
	-чадыр	-чедір

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	ойнапчадырбын	ойнапчадырбыс
2 人称	ойнапчадырзың	ойнапчадырзар
3 人称	ойнапчадыр	ойнапчадырлар

сегір-（跳躍する，ジャンプする）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	сегірчедірбін	сегірчедірбіс
2 人称	сегірчедірзің	сегірчедірзер
3 人称	сегірчедір	сегірчедірлер

否定形は，動詞語幹と現在形接辞 -ча（とその発音上のバリエーション）のあいだに否定形接辞 -бин（とその発音上のバリエーション）をつけてあらわす.

否定形

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	ойнабинчадырбын	ойнабинчадырбыс
2 人称	ойнабинчадырзың	ойнабинчадырзар
3 人称	ойнабинчадыр	ойнабинчадырлар

сегір-（跳躍する，ジャンプする）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	сегірбинчедірбін	сегірбинчедірбіс
2 人称	сегірбинчедірзің	сегірбинчедірзер
3 人称	сегірбинчедір	сегірбинчедірлер

-чадыр 形現在の意味

話者が話している時点での行為や状態をあらわす（現在進行形）.

例）Мин пасчадырбын.（私は今書いている.）

Мин паспинчадырбын.（私は今書いていない.）

-чадыр 形現在も，-ча 形現在と同様に，昔話などのフォークロアのなかでは，叙述を生き生きと伝えたい場合に過去の意味で使われることがある.

８．８．１．１．３．推量現在 -чаттыр 形（「どうやら～しているようだ」）

-чаттыр 形現在は，動詞の副動詞 -ып 形，あるいは副動詞 -ып 形の短縮形（動詞語幹であらわす）にこの現在形接辞 -чаттыр（とその発音上のバリエーション）をつけ，さらに人称接辞第１型をつけることであらわす（８．５．１．人称接辞参照）.

動詞語幹が母音で終わっている場合は，副動詞 -ып 形は短縮されず（省略されず） -п がついて，現在形接辞 -чаттыр（とその発音上のバリエーション）がつく.

例）аңна-（狩りをする）　＋　-п　＋　-чаттыр　→　аңначаттыр

（[彼は] どうやら今狩りをしているようだ）

кӧр-（見る）　＋　-четтір　→　кӧрчеттір

（[彼が] どうやら今見ているようだ）

副動詞 -ып 形　＋　現在形接辞 -чаттыр　＋　人称接辞

第１型（完全型）がつく

接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
	-чаттыр	-четтір

いくつかの動詞で人称と数における変化の例を以下に挙げておく.

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	ойнапчаттырбын	ойнапчаттырбыс
2 人称	ойнапчаттырзың	ойнапчаттырзар
3 人称	ойнапчаттыр	ойнапчадырлар

сегір-（跳躍する，ジャンプする）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	сегірчеттірбін	сегірчеттірбіс
2 人称	сегірчеттірзің	сегірчеттірзер
3 人称	сегірчеттір	сегірчеттірлер

-чаттыр 形現在の意味

本人の目の前で起きていない行為を推察すること，状況から推察すると判明したこと，話者が今まで知らなかったが今判明したことをあらわす（「どうやら～しているようだ」，「～していることが判明した」）.

例）Религиянаң сірер чахсы тузаланчаттырзар.
（どうやら、あなたは宗教をしっかりと利用しているようだ.）
А, син мында одырчаттырзың, мин, тізең сині анда кілеп чөрчем.
（どうやら、君はここで座っていたんだね, ぼくはあそこを探していたんだけど.）

-чаттыр 形現在は，過去や未来をあらわす状況を伴えば（複文や副詞など），過去形や未来形で用いられることもある．主として昔話か会話で用いられる.

例）Хароол туразар <u>кір киргенде</u>, Миша пічік пазып <u>одырчаттыр</u>.
（ハロールが家に入ってきたとき，ミーシャは手紙を書いていた.）
Олар оол <u>таңда</u> <u>парчаттырлыр</u>.
（彼らは，どうやら，明日出発するようだ.）

８．８．１．１．４．習慣現在 -дыр 形

この接辞は助動詞 тур（立っている）に起源をさかのぼることができる．

-дыр 形現在は，動詞の副動詞 -а 形に接辞 -дыр（とその発音上のバリエーション）をつけ，さらに人称接辞第１型をつけることであらわす．

例）пар-（行く）　＋　-а　＋　-дыр　→　парадыр（[彼は] 通常行きます）
　　кил-（来る）　＋　-е　＋　-дір　→　киледір（[彼は] 通常来ます）
　　харалт-（黒くなる）　＋　-а　＋　-дыр　→　харалтадыр
　　（[それは] 通常黒くなる）

動詞語幹が母音で終わっている場合は，語幹最後の母音と副動詞 -а 形の接辞 -а あるいは -е は融合して１つの母音 и になり，そのうえで現在形接辞 -дыр（とその発音上のバリエーション）がつく．

例）ойна-（遊ぶ）　＋　-а　＋　-дыр　→　ойнидыр（[彼は] 通常遊んでいる）
　　сöле-（言う）　＋　-е　＋　-дір　→　сöлидір（[彼は] 通常言っている）

動詞語幹が無声子音で終わっている場合，２つの母音に挟まれた子音は有声化する．

例）сат-（売る；不定形 садарға）　＋　-а　＋　-дыр　→　сатадыр
　　→　сададыр（[彼は] 通常売っている）
　　кис-（着る；不定形 кезерге）　＋　-е　＋　-дір　→　киседір
　　→　кизедір（[彼は] 通常着ている）

ただし，語幹末が有声子音と無声子音が並ぶ語幹のときは有声化しない．

例）тарт-（引きずる；不定形 тартарға）　＋　-а　＋　-дыр
　　→　тартадыр（[彼は] 通常引きずっている）
　　сирт-（ぱちっと鳴らす；不定形 сиртерге）　＋　-е　＋　-дір
　　→　сиртедір（[彼は] 通常ぱちっと鳴らす　）

例外として，有声化しない動詞は ат-（射る）と хат-（硬くなる）である．

　　ат-（射る；不定形 атарға）　＋　-а　＋　-дыр
　　→　атадыр（[彼は] 通常射ます）
　　хат-（硬くなる；不定形 хатарға）　＋　-а　＋　-дыр
　　→　хатадыр（[それは] 通常硬くなる）

現在形

副動詞 -а 形　＋　現在形接辞 -дыр / -дір　＋　人称接辞
第１型（完全型）がつく

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-дыр	-дір
無声子音	-тыр	-тір

いくつかの動詞で人称と数における変化の例を以下に挙げておく.

одыр-（座っている）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	одырадырбын	одырадырбыс
2 人称	одырадырзың	одырадырзар
3 人称	одырадыр	одырадырлар

ит-（する）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	идедірбін	идедірбіс
2 人称	идедірзің	идедірзер
3 人称	идедір	идедірлер

否定形は，副動詞 -a 形の後に，離して否定形 чоғыл をつけ，чоғыл に人称接辞第 1 型をつけてあらわす.

副動詞 -a / -e 形　　чоғыл　＋　人称接辞
第 1 型

одыр-（座っている）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	одыра чоғылбын	одыра чоғылбыс
2 人称	одыра чоғылзың	одыра чоғылзар
3 人称	одыра чоғыл	одыра чоғыллар

例）［Адайах］кізі чіли чоохтан на пола чоғыл.
（［犬は］人間のように［通常］話すことはできない.）

否定形では，副動詞 -a 形を用いずに，形動詞 -ар 形を用いることもある.
例）полар чоғыл（［彼は］通常ここには来ない）
тозылар чоғыл（［それは］通常終わらない）

習慣現在形 -дыр / -дір の意味

1）通常，定期的に繰り返される習慣的な行為をあらわす（通常～している，通常～します，通常～しない，ふつう～するものだ）．ときに，恒常的な行為や状態もあらわす．その場合はプロセス的意味をあらわす動詞が多い．

例）Ол машинаны учуххан ниме чіли ойладыр.
（彼は［通常］車を飛ぶ鳥のように運転する．）
Ӱр турза, араға наныс парадыр.
（長く時間が経つと，アラガ［乳酒］は味や匂いが抜けるものだ．）
Нанызын ат табырах киледір.
（ウマは帰り道家に速く帰るものだ．）

動詞現在形 -ча / -че との違いは，この動詞現在形習慣 -дыр / -тыр は恒常的に行われる行為が必ずしもずっと行われていなければならないわけではなく，断続的であっても構わないことである（多くの場合～する）．

ただし，хачан даа（いつも，どんなときも）とともに用いられる場合，その違いはない．

例）Мин киноға иирде чӧредірбін.
（私はたいてい晩に映画を見に行く．）
【ふつうは晩に見に行くが，ときにはそれ以外の時間帯のときもある】
Cf. Мин киноға иирде чӧрчем.
（私はいつも夜に映画を見に行く．）【例外はない】
Ол пісте хонадыр.
（彼はたいてい私たちのところに泊まる．）【大体の場合において】
Cf. Ол пісте хонча.
（彼はいつも私たちのところに泊まる．）【例外はない】
Аның холынаң тыхталған тракторлар хачан даа ӱр тоғынадырлар.
（彼の手によって修理されるトラクターはいつも長期に渡ってちゃんと動く．）
Ол странадаңар мин амды тың сағынадырбын.
（私はこの国について今多くのことをいつも考えています．）
【プロセスをあらわす動詞】

恒常的な意味をあらわすときには、サガイ方言では動詞現在形 -ча / -че，カチン方言では動詞現在形習慣 -дыр / -тыр を用いる傾向がある．

ただし，回数をあらわすような動詞では意味が異なる．

例）Мин пасчам.（私は書くことができる．）
Мин пазадырбын.（私はいつも［ときどき］書く．）

現在形接辞 -дыр / -дір の前に別の現在形接辞 -чат / -чет が入ることもある．その際は -чададыр / -чедедір となる．この現在形 -чададыр / -чедедір はフォークロアでよく用いられる．

例）От отахтың тӱбіне кіріп, чадыпчададыр хыс пала.
（アシ草でできた小屋の奥へ入り，横になっている少女．）

２）諺や俚諺でよく用いられる．

例）Чобал чох кізі чурти чоғыл.

（心配事のない人はいない．）

他の時制での使用や体との組み合わせ

動詞現在形 -дыр / -дір は現在形以外で用いられることは稀で、主として口承文学で用いられるが，過去形では動詞 ті-（言う，話す）のみで，セリフを「言った」と言うときである．

例）Ата: Пілбінчем. Пазым ағырыбысты, тидір.

（アタは「知らない．頭が痛くなった」と言った．）

口承文学では、ときどき現在進行形の意味で用いられることがある．

例）Аттың ахсын тохтада тартып, архы сарин харап турадыр.

（止めるためにウマの手綱を引っ張り［ウマを止め］，山々を見ながら立っている．）

しかし，現在ではこの接辞 -дыр / -дір は，カチン方言でよく使われているようだが，動詞現在形接辞 -чададыр / -чедедір と同様, 他の地域では現在進行形の意味ではあまり用いられなくなっている．とくにサガイ方言ではほとんど用いられていない．

接辞 -дыр / -дір は，それ自身恒常的な習慣、多回の意味をもっているが，多回体接辞 -хла（その発音上のバリエーション）とともに用いられることもある（８．４．４．多回体参照）．

その際，多回体接辞 -хла / -кле / -ғла / -гле の最後の母音 а / е は，接辞 -дыр / -дір につくとき， и に交替する．

例）пас- ＋ -хла ＋ -дыр → пасхлидыр（いつも，何回も書いている）

接辞 -дыр / -дір は，完了体接辞 -ыбыс（とその発音上のバリエーション）とともに用いられることもある（８．４．２．完了体参照）．

例）ис- ＋ -ібіс ＋ е（副動詞 -а 形） ＋ -дір → исібіседір

→ изібізедір（いつも［飲み物があるときには］飲み干す）

行為の完了をあらわす助動詞とともに用いられることもある．

例）чип сал- ＋ а（副動詞 -а 形） ＋ -дыр

→ чип саладыр（いつも食べきる）

様々な助詞との組み合わせ

助詞 нооза（～だから）と用いられることがあるが，その際，人称接辞は нооза につく．

例）Мин андар чöредірöк ноомза.

（というのも，私もいつもそこへ通っているから．）

否定形の際、否定を強調する助詞 даа / дее は чоғыл の前におく．

例）Киле дее чоғыл.

（［彼は］通常やって来さえしない．）

限定をあらわす助詞 ла / ле（～だけ）は接辞 -дыр / -дір の後に離しておく．

例）Ол андар парза, аңнидыр ла. （彼はそこへ行くときは，通常狩猟だけをする．）

助詞 -ох / -өк は，接辞 -дыр / -дір の後に直接つけて、その後に人称接辞が続く.

例）Мин андар чөредірөк ноомза.

（というのも，私もいつもそこへ通っているから.）

Че аны хатығлап піледірөкпін, хаҷан ол нымахтағы Хара Нинҷі чіли полчатса.

（しかし，彼が昔話の登場人物のハラ・ニンジのように振舞うのなら，私は彼に対し厳しく接します.）

８．８．１．１．５．-ир 形現在

-ир 形現在は，動詞の語幹に接辞 -ир をつけ，さらに人称接辞第１型をつけることであらわす. 接辞 -ир の р はつけてもつけなくてもどちらでもよい. 接辞 -ир の р をつけないとき，１人称単数では人称接辞は第２型の -м 形になる. この -ир 形現在は，３つの動詞の語幹 пар-（[話者側から] 行く），кил-（[話者側へ] 来る），нан-（家へ帰る）からしか形成されない.

この -ир 形現在は否定形を形成しない.

例）Ол парир.（ほら今彼があっちへ歩いているよ.）

Ол килир.（ほら今彼がこっちへ歩いてくるよ.）

Ол нанир.（ほら今彼が家に向かって帰っているよ.）

Інек кізінең хости ӱр чуртап парир.（ウシは人ともに長く生きる.）

Мына олар ибзер парирлар.（ほら彼らが家に向かって歩いているよ.）

Көрік айы тоозыл таа парир.（３月が終わろうとしている.）

нан-（家へ帰る）はサガイ方言とベリティル方言でのみ見られ，ふつう３人称で用いられる.

サガイ方言で見られる接辞最後の р の脱落は，この -ир 形現在の接辞だけでなく、動詞不定形や未来形接辞 -ар / -ер でも見られる.

例）Мин парам.　（標準語：парарбын）

（私は出かけます.）

Сірер тоғыназар.　（標準語：тоғынарзар）

（あなたは働く予定です.）

この接辞の起源は，古代共通チュルク語の現在・未来形接辞 -ар / -ер であると考えられている.

пар-（行く，去る）

数 / 人称	単　数	複　数
１人称	Мин парирбын / парим	Піс парирбыс/ парибыс
２人称	Син паризрың / паризың	Сірер паризар / паризар
３人称	Ол парир / пари	Олар парирлар / парилар

кил-（来る）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	Мин килирбін / килим	Піс килирбіс / килибіс
2 人称	Син килирзің / килизің	Сірер килирзер / килизер
3 人称	Ол килир / кили	Олар килирлер / килилер

-ир 形現在の意味

現時点で行われている行為（遠くへ行っている，こちらへ向かっている，家に向かっている）をあらわす．その際，移動の出発点も終点もあらわさず，移動している状態をあらわす．

例）Минзер хыс туңмам кили.（今，私のところへ妹が向かっている．）
Сірер паririзар ба?（あなたはもう去ろうとしているのか？）
Аңнап парим.（今，私は狩りに向かっている．）

動詞 пар-（[話者側から] 行く），кил-（[話者側へ] 来る）は，副動詞 -ып 形とともに用いて，具体的には以下の意味をあらわす．

1）移動の方法（「這う: сойла-」，「飛ぶ: учух-」，「泳ぐ: чӱс-」，「走る: чӱгӱр-」などの動詞とともに）

例）Сойлап пари.（[彼は] 這って [あっちへ] 進んでいる．）
Чӱс кили.（[彼は] 泳いで [こっちに] 向かっている．）
Самолёт öделеп парир.（飛行機は上昇している．）

2）移動しながら同時に行う行為（「歌う: кögле-」，「叫ぶ: хысхыр-」，「草を食む: отта-」などの動詞とともに）

例）Көглеп пари.（[彼は] 歌いながら [どこかへ向かって] 歩いている．）
Хысхыр кили.（[彼は] 叫びながら [こっちに] 向かっている．）

3）目的（～するために）

例）Аңнап парилар.（[彼らは] 狩猟するため向かっている．）
Ааллап парим.（私はお客に行くため向かっている．）

4）運動の方向（「外へ出る，上がる: сых-」，「下りる: тӱс-」，「中に入る: кір-」，「帰る: нан-」，「渡る: кис-」，「通る: ирт-」の動詞とともに）

例）Хайдар сых паризың?（君はどこへ上っているの？）

5）動詞 айлан-（帰る，戻る）や動詞 ал-（持つ）との組み合わせ

例）Айлан пари.（[彼は] 帰ってから，[あちらへ] 向かっている．）
Айлан кили.（[彼は] 帰ってから，[こちらへ] 向かっている．）
Апари.（< ал пари）（[彼は] 持って向かっている．）
Акили.（< ал кили）（[彼は] 持ってこっちへ向かっている．）

6）動詞 пар- はその他様々な動詞とともに用いて，動詞本来の「向かっている」という意味を失って助動詞的になり，現時点におこなれている行為の継続性（～し続けている），あるいは，行為が終わりに近づいていることをあらわす（～が終わろうとしている）．

例）Арғалығ сыннаң үстүне сығара хонза, алыптар амдаа күрес парилар.
（山脈の頂に向かって進んでいくと，勇士たちが今もなお相撲をとり続けている［のを目にした］.）

Чоох пу сöстернең не пасталып, читі күнге чит парир.
（会話はこの言葉から始まって，７日目に達しようとしている.）

Ахчабыс тоозыл пари.
（私たちのお金は底を尽きつつある.）

Иртеннең наңмыр чічірет парир.
（朝からしとしと雨が降り続いている.）

Иб хыринда одыртхан хузух ағазы кööлҷе öделеп парир.
（家のそばに植えたセイヨウスギがゆっくりと成長している.）

7）過去形で用いられることもある．とくに昔話で用いられて臨場感を与える効果がある．

8）未来形で用いられることもある．その場合は，主語がまだ動きを始めていないが，今まさに動き出そうとしているニュアンスを加える．

例）Мин парим.　（じゃあ，私は出かけます！）

もし，行動がすぐにではなく，明日や明後日のときには，現在形 -ча 形で近い未来をあらわす．

例）Ол таңда тайғазар парча.
（彼は明日タイガに出発します.）

８．８．１．１．６．動詞 одыр-，тур-，чöр- を用いる現在形

動詞 одырарға（座る，座っている），турарға（立つ，立っている），чöрерге（行く）の語幹 ，одыр-，тур-，чöр- はその動詞の意味の現在形としてそのまま単独で用いることができる．

тур-（立っている）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	Мин турбын.	Піс турбыс
2 人称	Син турзың.	Сіреp турзар
3 人称	Ол тур.	Олар турлар

чӧр-（行く）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	Мин чӧрбін.	Піс чӧрбіс
2 人称	Син чӧрзің.	Сірер чӧрзер
3 人称	Ол чӧр.	Олар чӧрлер

動詞 одырарға（одыр-），турарға（тур-），чӧрерге（чӧр-） は本来の動詞の意味を失い，副動詞 -ып 形とともに助動詞として用いられる．

助動詞 одырарға（одыр-）は，行為が現時点でまだ継続していることをあらわす．行為が発展していくニュアンスを加える．

助動詞 турарға（тур-）は，常時または定期的に行われている，あるいは話者が話している時点で，ある一定の期間継続して行われている行為をあらわす．

助動詞 чӧрерге（чӧр-）は，長期間，常時行われる行為をあらわす．また，動詞不定形とともに用いて，その行為の意図（～しようとしている）をあらわすこともある．

例）Хайзы чирде чахсы öллелче, хайзы чирлер хуруг халып одырча.
（ある場所ではしっかりと灌漑されているが，ある場所では乾いたままになっている．）
Чыл сай араласчылар саны өзіп одырча.
（毎年，参加者数は増えている．）
Наңмыр чаап тур.
（雨が降り続いている．）
Чон ибдең удур-суурух сых турған.
（人々がたえず家から出ていた．）
Ол хачан даа ырлап ла чӧрче.
（彼はいつも歌を歌っている．）

また，одыр には文章の最後に挿入語の役割として用いて，「どうやら～のようだ」という意味を加える用法がある．

例）«Полызар кізі пар, одыр» – теен Таня, изеннескен соонда.
（「助けてくれる人はいるようだわ」と，挨拶した後ターニャは言った．）
Мыклай: «Андада син мині сӱрче, одырзың?»
（ムクライ：「それじゃあ君は僕を追い出そうとしているようだね？」）

８．８．１．１．７．現在形の疑問文について

疑問詞が入らない疑問文は時制を問わず，疑問をあらわす助詞 ма / ме, ба / бе, па / пе（～か）を動詞の後に用いてあらわす.

疑問助詞は動詞あるいは動詞ににつく人称接辞，形容詞などの最後の文字（音）によって以下の表のようになる.

動詞，人称接辞，形容詞最後の音	硬　母　音	軟　母　音
母　　音 有　声　子　音 （３人称複数， ２人称複数の後）	ба	бе
無　声　子　音 （1 人称複数の後）	па	пе
-м, -н, -ң （1 人称単数， ２人称単数の後）	ма	ме

例）Субботада паза позырахта магазиннер тоғынча ба?
（土曜日と日曜日にお店は営業していますか？）
Идіңер ізіпче бе?（あなたは熱がありますか？）
Орта адапчам ма?（私は正しく発音できていますか？）

サガイ方言においては，２人称で動詞と疑問の助詞 ба / бе，ма / ме が融合した形，２人称単数形 -чимың / -чимің で，２人称複数形 -чимер で用いられることがある.

例）Парчимың?（君は向かっているの？）
Cf. Парчазың ма? （標準語）
Парчимер?（君たちは向かっているの？）
Cf. Парчазар ба? （標準語）

８．８．１．２．過去形

過去時制は次の７つ、１）-ды 形過去（近過去），２）-ған 形過去，３）-ҷаң 形過去（習慣過去），４）-чатхан 形過去，４）-тыр 形過去，６）-ғалах 形過去，７）-чых 形過去に分かれる．

また，これに加えて上記の過去形を組み合わせた形がある．

８．８．１．２．１．-ды 形過去（近過去）

-ды 形過去は以下の過去形接辞 -ды（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第３型をつけて形成する．

過去形

動詞語幹 ＋ 過去形接辞 -ды ＋ 人称接辞
第３型

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-ды	-ді
無声子音	-ты	-ті

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

сана-（数える）

数／人称	単数	複数
1 人称	санадым	санадыбыс
2 人称	санадың	санадыңар / санадар
3 人称	санады	санадылар

көр-（見る）

数／人称	単数	複数
1 人称	көрдім	көрдібіс
2 人称	көрдің	көрдіңер / көрдер
3 人称	көрді	көрділер

хас-（掘る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	хастым	хастыбыс
2 人称	хастың	хастыңар / хастар
3 人称	хасты	хастылар

пӧк-（決める）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	пӧктім	пӧктібіс
2 人称	пӧктің	пӧктіңер / пӧктер
3 人称	пӧкті	пӧктілер

２人称複数では人称接辞 -ңар / -ңер の ң が過去形接辞 -ды とのあいだにあって２つの母音に挟まれることになり脱落して１つになった形 -дар / -дер，-тар / -тер も，-дыңар（とその発音上のバリエーション）と同様に，使われる．

例）санадыңар　>　санадыар　>　санадаар　>　санадар
　　пӧктіңер　>　пӧктіер　>　пӧктеер　>　пӧктер

否定形は否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞，そして人称接辞をつける．

否定形接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-ба	-бе
無声子音	-па	-пе
-м, -н, -ң	-ма	-ме

否定の過去形

動詞語幹 ＋ 否定形接辞 -ба ＋ 過去形接辞 -ды ＋ 人称接辞
第３型

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

сана-（数える）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	санабадым	санабадыбыс
2 人称	санабадың	санабадыңар / санабадар
3 人称	санабады	санабадылар

пӧк-（決める）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	пӧкпедім	пӧкпедібіс
2 人称	пӧкпедің	пӧкпедіңер / пӧкпедер
3 人称	пӧкпеді	пӧкпеділер

否定形でも２人称複数で融合した形 -дар / -дер，-тар / -тер 形は，-дыңар（とその発音上のバリエーション）と同様に，使われる．

-ды 形過去の意味

近い過去において行われた，行われなかった行為，起きた，起きなかったことをあらわす．その際、その事柄を話者は確信をもって発話している．文脈によって行為の完了やあるいはプロセスをあらわす．

例）Інектеріңер тооза сағлап алдыңар ба?
（あなたはご自分のウシをすべて搾乳したんですか？）

ふつうプロセスをあらわす動詞（例えば「住む」や「働く」，「読む」など）の行為の完了をあらわしたいときは，完了をあらわす助動詞とともに，あるいは完了をあらわす接辞 -ыбыс（とそのバリエーション）をつけてあらわす．

例）Опытнай станцияда ікі чыл тоғын салдым.
（私は実験場で２年間働いた［その勤務を終えた］.）— 助動詞 саларға
Мин астап пардым.
（私はお腹が空いた.）— 助動詞 парарға

ふつう１回きりで完了をあらわす動詞（「来る」や「理解する」，「取る」など）は過去形接辞 -ды をつけるだけで行為の完了の意味になる．

例）Мин білдім.（私は分かった.）

遠い過去について述べるときもこの -ды 形過去が用いられることがあるが，それは口承文学で多く，この接辞を用いることによって，語り部（ナレーター）が遠い出来事を自分の目の前で起きているように生き生きと語る効果が得られる．

起こりうる，望ましくない行為への警告の意味を伝えることができる。ただし、特別なイントネーションを伴う.

例）Атха тептірдің анда.

（あそこで君はウマに蹴られた. /　そこでウマに蹴られてしまうよ〔警告〕.）

この接辞は，多回体（-ғла）や даа，ох，нооза といった語句といっしょに用いることができる.

確認をあらわす -ох / -ök は接辞 -ды と結びつくと語形変化する（例：-ды　+　-ох →　-дох）．この場合，「…するとすぐに」という意味あいになる.

例）Мин, чатт<u>ох</u>(чаттым<u>ох</u>), узубысхам.

（私は横になるとすぐに寝入った.）

小詞 ни は時制をあらわす接辞と人称接辞のあいだにはいる.

例）Ноға ла андағ хыял итті<u>ни</u>м?

（どうして私はこんなひどいことをしたんだろう？）

強調の小詞 даа / дее は過去接辞 -ды とともに用いられるときは，完了をあらわす接辞がはいらなければいけない．その際，小詞 даа / дее は本動詞語幹と完了体接辞のあいだにはいり、完了体接辞の後に過去接辞 -ды がくる.

その際「(その行為を）ほぼ終えた；…さえしている」という意味になる.

例）Олар тоғыстарын тоозыптаабыстылар.

（彼らは自分の仕事をほぼ終えた.）

Пу тоғысты идіп, мин майых таа пардым.

（この仕事をしながら，疲れてさえいる.）

８．８．１．２．２．-ған 形過去

-ған 形過去は以下の形動詞 -ған 形（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第２型をつけて形成して，述語として用いる.

過去形

動詞語幹　＋　形動詞 -ған 形　＋　人称接辞（第２型）

接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-ғ, -г, -ң を除く）	-ған	-ген
無声子音	-хан	-кен
-ғ, -г, -ң	-ан	-ен

動詞と助動詞の語幹が母音で終わる場合， ғ と г は２つの母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音 -аа- / -ее- になる．

例）сыйла- ＋ -ған → сыйлаған → сыйлаан
изерле- ＋ -ген → изерлеген → изерлеен

人称接辞をつけたとき，３人称以外では -ған 形の最後の н が脱落する．

１人称複数では人称接辞 -быс の後に -тар(-тер) をつけることもある．

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

сырла-（色を塗る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
１人称	сырлаам	сырлаабыс / сырлаабыстар
２人称	сырлаазың	сырлаазар
３人称	сырлаан	сырлаан(нар)

піл-（知っている）

数 / 人称	単　　数	複　　数
１人称	пілгем	пілгебіс / пілгебістер
２人称	пілгезің	пілгезер
３人称	пілген	пілген(нер)

пас-（書く）

数 / 人称	単　　数	複　　数
１人称	пасхам	пасхабыс / пасхабыстар
２人称	пасхазың	пасхазар
３人称	пасхан	пасхан(нар)

тоң-（凍える）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	тоңам	тоңабыс / тоңабыстар
2 人称	тоңазың	тоңазар
3 人称	тоңан	тоңан(нар)

否定形は否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞 -ған ，そして人称接辞第２型をつける．

否定の過去形

動詞語幹 ＋ 否定形接辞 -ба ＋ 過去形接辞 -ған ＋ 人称接辞（第２型）

否定形接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-ба	-бе
無声子音	-па	-пе
-м, -н, -ң	-ма	-ме

否定接辞は母音で終わるので，２つの母音に挟まれた ғ と г は脱落して１つの長母音 -аа- / -ее- になる．

例）сыйла- ＋ -ба ＋ -ған → сыйлабаған → сыйлабаан

изерле- ＋ -бе ＋ -ген → изерлебеген → изерлебеен

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

сырла-（色を塗る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	сырлабаам	сырлабаабыс / сырлабаабыстар
2 人称	сырлабаазың	сырлабаазар
3 人称	сырлабаан	сырлабаан(нар)

піл-（知っている）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	пілбеем	пілбеебіс / пілбеебістер
2 人称	пілбеезің	пілбеезер
3 人称	пілбеен	пілбеен(нер)

пас-（書く）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	паспаам	паспаабыс / паспаабыстар
2 人称	паспаазың	паспаазар
3 人称	паспаан	паспаан(нар)

тоң-（凍える）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	тоңмаам	тоңмаабыс / тоңмаабыстар
2 人称	тоңмаазың	тоңмаазар
3 人称	тоңмаан	тоңмаан(нар)

-ған 形過去の意味

過去に起きた，あるいは行われた行為をあらわす.

過去 -ған 形は，近過去 -ды 形と異なり，過去に起きた，あるいは行われた行為の事実を確認するだけである.

その行為の結果は現在まで続いていることもありうる.

過去 -ған 形は，その行為が話者本人の目の前で起きた，行われたか，あるいは聞き知った事柄かは話者には関心がなく，ただ過去に起きた行為をあらわす形として現代ハカス語の過去形のなかで一番よく用いられる形である.

例）Мин Аағбанда төреем.　（私はアバカンで生まれた.）

Пастағы курсты тоосханда, Егор нанарда аағаа телеграмма пирібіскен.

（大学 1 年を終えた後，エゴールは実家へ帰る際彼女に電報を送った.）

この形動詞過去 -ған 形には, 近過去 -ды 形と同様に, 多回体(-ғла)や даа, ох, нооза といった語句といっしょに用いることができる.

接辞 -ох / -өк (～も)は人称接辞の後につけることもあれば, 形動詞過去 -ған 形に直接つけることもある.

例) Мин аңнаамох. (私も狩りに行った.)
Ол тоғынғанох. (彼も働いた.)
Син чөргезінөк. / Син чөргенөксің. (君も行ってきた.)
Олар көргеннерөк. / Олар көргенөктер. (彼らも見た.)

この -ох / -өк は, 動詞に体をあらわす接辞 -быс がつく場合には体接辞の前後どちらでも, また完了体をあらわす助動詞 сал- がつく場合にも, 本動詞語幹にも助動詞 сал- どちらにもつけることができる.

例) Ол парыбысханох. / Ол парыбохысхан. (彼も去った.)
Мин пас салғамох. / Мин пазыбох салғам. (私も書き終わった.)

８．８．１．２．３．-чаң 形過去(習慣過去)

-чаң 形過去は以下の形動詞現在＝未来形 -чаң (とその発音上のバリエーション) を動詞語幹につけ, その後に人称接辞第１型あるいは第２型をつけて形成して, 述語として用いる. 近年では第２型のほうがよく用いられるようになっている.

習慣過去形

[動詞語幹] ＋ [形動詞 -чаң 形] ＋ [人称接辞]
第１型, 第２型

形動詞現在＝未来 -чаң 形の接辞は以下の通りである.

接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-чаң	-чең
無声子音	-чаң	-чең

人称接辞第２型がつく場合, １人称と２人称では接辞 -чаң 形最後の -ң が脱落して人称接辞がつく.

人称接辞第２型がつく際に１人称単数では, 語幹最後が無声子音で終わる場合, 形は現在形と同一形になる (-чам / -чем ; 例えば атчам). しかし, 発音は異なり, 現在形接辞 ча / -че の母音は強く発音されるのに対し, 習慣過去接辞の母音は弱く発音される.

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

чоохта-（話す）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	чоохтаҷаңмын / чоохтаҷам	чоохтаҷаңмыс / чоохтаҷабыс
2 人称	чоохтаҷаңзың / чоохтаҷазың	чоохтаҷаңзар / чоохтаҷазар
3 人称	чоохтаҷаң	чоохтаҷаңнар

кил-（来る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	килҷеңмін / килҷем	килҷеңміс / килҷебіс
2 人称	килҷеңзің / килҷезің	килҷеңзер / килҷезер
3 人称	килҷең	килҷеңнер

否定形は否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞 -чаң ，そして人称接辞第１型あるいは第２型をつける．

肯定形のときと同様に，人称接辞第２型がつく場合，１人称と２人称では接辞 -чаң 形最後の -ң が脱落して人称接辞がつく．

否定の過去形

動詞語幹 ＋ 否定形接辞 -ба ＋ 過去形接辞 -чаң ＋ 人称接辞

第１型，第２型

否定形接辞

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-ба	-бе
無声子音	-па	-пе
-м, -н, -ң	-ма	-ме

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

ат-（射る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	атпаҷаңмын / атпаҷам	атпаҷаңмыс / атпаҷабыс
2 人称	атпаҷаңзың / атпаҷазың	атпаҷаңзар / атпаҷазар
3 人称	атпаҷаң	атпаҷаңнар

пӧк-（[問題を] 解く）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	пӧкпеҷеңмін / пӧкпеҷем	пӧкпеҷеңміс / пӧкпеҷебіс
2 人称	пӧкпеҷеңзің / пӧкпеҷезің	пӧкпеҷеңзер / пӧкпеҷезер
3 人称	пӧкпеҷең	пӧкпеҷеңнер

-чаң 形過去の意味

1）過去に何度も行われた習慣行為をあらわす.

例）Коля чахсы ӳгренҷең, сохтанмачаң, уғаа амыр оолах полған.
（コーリャはよく勉強ができて，ふざけることもなく，とても物静かな男の子だった.）

Мының алнында син удаа килҷеңзің.
（以前，君はよく［ここに］来たものだった.）

Школада спорт залы чох полчаң.
（学校には体育館がなかった.）

繰り返し行われた行為を強調するために動詞語幹と接辞 -чаң 形の前に現在接辞 -чат 形が入ることがある.

例）Ойнап, мал хадарып, іӧлең не чӧрчетчеңміс.
（私たちは遊ぶときも，家畜の放牧をするときも二人で行ったものだった.）

Андада мин, кічіг пала чіли, ылғапчатчаңмын.
（当時，私は小さな子供のようによく泣いたものだった.）

2）諺や俚諺で用いられて時制にとらわれない一般的な行為をあらわす.

例）Читі кізі пір кізіні сағыбаҷаң.
（7 人が 1 人を待つことはない.）

Алтын чыыр киректе чӧпті кізідең кілебеҷең.
（金を採掘するときは人にアドバイスを乞わない.）

Іҷезі кізінің сӧзін исчең.
（母の言いつけには従うものだ.）

Махачы кізіні чылан даа сахпаҷаң, хортых кізіні адай даа тутхлаҷаң.
（俚諺勇気ある人には蛇も咬まず，臆病者には犬も咬む.）

動詞 пол-（～である）の -чаң 形 полҷаң は，この意味においては会話のなかでも用いられ，日常的に行われる行為（現在の意味として）をあらわす（～することはよくあることだ）.

例）Чиит туста полҷаң анзы.
（若い時はそのことはよくあることだ.）

3）動詞否定形に -чаң 形をつけ，疑問をあらわす助詞 ма / ме とともに用いると，過去の習慣を問う質問の意味のほかに，文脈とイントネーションによっては行為を促す，希望する意味，反語的意味になる．その際，接辞 -чаң 形は話者の人称に関係なく３人称になる.

例）Аны киспеҷең ме, алай улуғ ба?
（それ［その服］を着たらよいのに，大きいのか？）

4）動詞肯定形に -чаң 形をつけ，疑問をあらわす助詞 ма / ме とともに用いると，通常の過去の習慣を問う質問の意味のほかに，行為の実行を躊躇している話者に対する質問（～しようか？）となる.

例）Алай апсахты сӧлеп кӧрҷең ме?
（それとも老人と話してみようか？）

5）疑問をあらわす助詞 хайди（どう？）や ноға（なぜ？ どうして？）とともに用いると，反語表現として行為遂行の不可能や可能をあらわす.

例）Хазых кізі курортха ноға чӧрҷең?
（健康な人がどうして保養地に行くのか？［行く必要はないでしょう］）
Анҷа улуғ кізі хайди мындығ аар тоғыс тоғынҷаң?
（あんな年老いた人がどうしてこんな重労働でできるのか？［できないでしょう］）
Мин идіп полар ниме полза, ноға полыспаҷаң?
（私はしてあげられることがあるなら，どうして手伝わないのか［手伝います］）
Хығырған чирзер хайди парбаҷаң?
（招かれた場所にどうして行かないことがあろうか［行きます］）

この構文では文脈によって過去の習慣の意味になる.

例）Сіерзер ноға чӧрҷең?
（あなたがたのところへどうしてよく行ったのですか？）

形動詞 -чаң 形は名詞を修飾すると習慣現在の意味になることに注意すること（８．６．６．形動詞現在＝未来 -чаң 形参照）.

例）хыстаҷаң чир（いつも冬を過ごす場所，越冬地）

８．８．１．２．４．-чатхан 形過去

-чатхан 形過去は形動詞 -чатхан 形（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第２型をつけて形成して，述語として用いる．以前は第１型が用いられていたが，近年では第２型が用いられるようになっている．

-чатхан 形過去形

副動詞 -ып 形 / 動詞語幹 ＋ 形動詞 -чатхан / -четкен 形 ＋ 人称接辞
第２型（第１型）

	副動詞 -ып 形もしくは語幹の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
	-чатхан	-четкен

人称接辞をつける際，１人称と２人称では接辞 -чатхан 形最後の -н が脱落して人称接辞がつく．

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

узу-（眠る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
１人称	узупчатхам / узупчатхабын	узупчатхабыс
２人称	узупчатхазың	узупчатхазар
３人称	узупчатхан	узупчатханнар

кис-（切る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
１人称	кисчеткем / кисчеткебін	кисчеткебіс
２人称	кисчеткезің	кисчеткезер
３人称	кисчеткен	кисчеткеннер

-чатхан 形の否定形

否定形は副動詞否定形 -бин（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞 -чатхан ，そして人称接辞第２型（第１型）をつける．

肯定形のときと同様に，人称接辞つける際，１人称と 2 人称では接辞 -чатхан 形最後の -н が脱落して人称接辞がつく．

動詞語幹 ＋ 副動詞否定形 -бин 形 ＋ 形動詞 -чатхан / -четкен 形 ＋ 人称接辞

第２型

副動詞 -бин 形接辞

動詞語幹の最後の音	
母音 有声子音 （-м, -н, -ӊ を除く）	-бин
無声子音	-пин
-м, -н, -ӊ	-мин

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単数	複数
１人称	ойнабинчатхам / ойнабинчатхабын	ойнабинчатхабыс
２人称	ойнабинчатхазыӊ	ойнабинчатхазар
３人称	ойнабинчатхан	ойнабинчатханнар

кӱл-（笑う）

数 / 人称	単数	複数
１人称	кӱлбинчеткем / кӱлбинчеткебін	кӱлбинчеткебіс
２人称	кӱлбинчеткезіӊ	кӱлбинчеткезер
３人称	кӱлбинчеткен	кӱлбинчеткеннер

例）Олғаннар ойнабинчатханнар.
（子供たちは［そのとき］遊んでいなかった.）
Апсах кӱлбинчеткен. （老人は［そのとき］笑わなかった.）

-чатхан 形過去の意味

1）話者にとって［行われていたことが］明白で，一定の期間行っていた，続いていた過去の行為をあらわす（～していた）.

その際，何か他の行為が過去形で伴い，その行為に関連して生じた行為をあらわしたり，期間や時をあらわす語句や従属節を伴うことがよくある.

例）Чыплама хараа полған, постың көдірген салаазы даа көрінминчеткен.
（真っ暗な夜だった，目の前に出した自分の指さえも見えなかった.）
Алҷыбай чаадаң айлаң килгенде, туразы ээн турчатхан.
（アルジュバイが戦争から帰還したとき，家には誰もいなかった.）

2）-чатхан 形過去は主となる他の行為の背景的状況をあらわすこともある.

3）-чатхан 形過去は自然の描写によく用いられる.

例）Көлнің алтын саринда таға сіри, пулуттуғ күнде харал турған улуғ көл чілі, хыра чаза тасталчатхан.
（湖の下方域では，曇りの日に黒ずんで見える大きな湖のように，耕作地が山までずっと広がっていた.）

この -чатхан 形過去は，-ған 形過去と異なり，ある一定の期間行われていたプロセスをあらわすだけで，行為の結果，行為の完了の意味はあらわさない.

例）Ол килчеткен.（彼は来ようと向かっていた.）
Cf. Ол килген.（彼はやって来た.）

形動詞 -чатхан 形は名詞を修飾すると現在の意味になる（８．６．１．形動詞現在 -чатхан 形参照）.

例）парчатхан кізі（歩いている人），чүгүрчеткен кізі（走っているウマ），ойнапчатхан олғаннар（遊んでいる子供たち）

８．８．１．２．５．-тыр 形過去

-тыр 形過去は接辞 -тыр（とその発音上のバリエーション）を副動詞 -ып 形につけ，その後に人称接辞第１型をつけて形成して，述語として用いる．

動詞語幹が母音で終わるときは副動詞 -ып 形にして，動詞語幹が子音で終わるときは，動詞語幹にこの接辞をつける．

この接辞は歴史的に動詞 -тур（立っている）に起源がある．

-тыр 形過去

副動詞 -ып 形 ＋ 接辞 -тыр ＋ 人称接辞
第１型

副動詞 -ып 形の最後の音 動詞語幹	副動詞 -ып 形もしくは語幹の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
有　声　子　音（-л, -р を除く）	-дыр	-дір
-п 無　声　子　音 -л, -р	-тыр	-тір

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

чурта-（住む）

数 人称	単　　数	複　　数
１人称	чуртаптырбын	чуртаптырбыс
２人称	чуртаптырзың	чуртаптырзар
３人称	чуртаптыр	чуртаптырлар

кил-（来る）

数 人称	単　　数	複　　数
１人称	килтірбін	килтірбіс
２人称	килтірзің	килтірзер
３人称	килтір	килтірлер

否定形は副動詞否定形 -бин（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞 -тыр ，そして人称接辞第１型をつける．

動詞語幹 ＋ 副動詞否定形 -бин 形 ＋ 接辞 -тыр ＋ 人称接辞
第１型

副動詞 -бин 形接辞

動詞語幹の最後の音	
母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-бин
無声子音	-пин
-м, -н, -ң	-мин

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

чурта-（住む）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	чуртабиндырбын	чуртабиндырбыс
2 人称	чуртабиндырзың	чуртабиндырзар
3 人称	чуртабиндыр	чуртабиндырлар

кил-（来る）

数 / 人称	単数	複数
1 人称	килбиндірбін	килбиндірбіс
2 人称	килбиндірзің	килбиндірзер
3 人称	килбиндір	килбиндірлер

-тыр 形過去の意味

1）話者が見ていないところで起きた行為，遠い過去に起きた行為をあらわす．フォークロアや遠い過去の出来事を誰かから聞いて知ったことの叙述でよく用いられる．

例）Ікі харындас чуртаптыр. Оларның пірсі пай, пірсі чох-чоос полтыр.
（二人の兄弟が住んでいたそうだ．一人は裕福で，もう一人は貧乏だったそうだ．）

Пістің чон алында Хызылчардаң ала полтыр.
（私たち民族は以前クラスノヤルスクに至る範囲にまで住んでいた．）

２）話者はその場に居合わせていないが，現場の状況や自分の推論に基づいて結論づけて判断できる行為をあらわす（どうやら～のようだ，気がつくと～のようだ）．完了をあらわす接辞や助動詞とともに用いられることが多い．

また，ある状況について話者が初めて知ったこともあらわせる．そのような場合，突然そのことが起きたことによる話者の驚きや初めて知った驚きをあらわしている．

例）Мин хаҷанох килгем, а син ам даа килбиндірзің.
（私はかなり前に来ているのだが，君はまだ来ていないようだ.）
Узухсып парыбыстырбын.
（どうやら私はうとうとまどろんでしまっていたようだ.）
Сіреер пір дее алыспиндырзар.
（あなたは全然変わっていないようですね.）

-тыр 形過去が動詞 пол- とともに用いられると現在の意味，あるいは時制に関係ない一般的な内容となる．

例）Халтар, син уғаа улуғ сағыстығ кізі полтырзың.
（ハルトゥル，君はどうやらとても賢い人のようだね.）

８．８．１．２．６．-ғалах 形過去

-ғалах 形過去は形動詞過去 -ғалах（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第１型をつけて形成して，述語として用いる．

-ғалах 形過去

動詞語幹 ＋ 接辞 - ғалах ＋ 人称接辞
第１型

接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-ғ, -г, -ӊ を除く）	-ғалах	-гелек
無声子音	-халах	-келек
-ғ, -г, -ӊ	-алах	-елек

２つの母音に挟まれた ғ と г は脱落して，隣同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- / -ее- になる．

例）ойна-（遊ぶ） ＋ -ғалах → ойнағалах → ойнаалах
изенне-（鞍をつける） ＋ -гелек → изеннегелек → изеннеелек

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	ойнаалахпын	ойнаалахпыс
2 人称	ойнаалахсың	ойнаалахсар
3 人称	ойнаалах	ойнаалахтар

тік-（縫う）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	тіккелекпін	тіккелекпіс
2 人称	тіккелексің	тіккелексер
3 人称	тіккелек	тіккелектер

тоң-（凍る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	тоңалахпын	тоңалахпыс
2 人称	тоңалахсың	тоңалахсар
3 人称	тоңалах	тоңалахтар

-ғалах 形過去の意味

1）まだ行われていない，起きていないが，これから行われる，起きることが予期された過去の行為や出来事をあらわす．そもそも否定の意味なので否定形は形成されず，完了をあらわす接辞や助動詞を用いることもない.

意味の点で，多くは ам даа（いまだ）をともなう -ған 形過去と同じになる。

例）Суғ тоңалах.（川はまだ凍っていなかった.）

Күн килгелек.（太陽はまだ昇っていなかった.）

Пу кізі тоғызын тоосхалах.（この人はまだ仕事を終えていない.）

意味の点において，文脈次第で未着手「まだしていなかった」の意味にも，未完了「（やっているが）まだ終えていなかった」の意味にもなりうる.

例）Мин иткелекпін.

（私はまだ着手していなかった．/ 私はまだやり終えていなかった.）

８．８．１．２．７．-чых 形過去

-чых 形過去は接辞 -чых（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第１型をつけて形成して，述語として用いる．

-чых 形過去

動詞語幹 ＋ 接辞 -чых ＋ 人称接辞
第１型

接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-ҷых	-ҷік
無声子音	-чых	-чік

否定形は否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，過去形接辞 -чых をつけて形成するが（ -бачых / -бечік，-пачых / -печік，-мачых / -мечік,），ほとんど用いられない．

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

ойна-（遊ぶ）

数 人称	単数	複数
1 人称	ойнаҷыхпын	ойнаҷыхпыс
2 人称	ойнаҷыхсың	ойнаҷыхсар
3 人称	ойнаҷых	ойнаҷыхтар

кил-（来る）

数 人称	単数	複数
1 人称	килҷікпін	килҷікпіс
2 人称	килҷіксің	килҷіксер
3 人称	килҷік	килҷіктер

-чых 形過去の意味

近い過去，あるいは遠い過去に起きたかは関係なく，過去に行われた行為を断言するニュアンスを与える（確かに～した，本当に～だった）.

例）Семён кӱн тооза піске полысчых.
（セミョンは１日中私たちを手伝ってくれた.）

-чых 形過去は，過去 -ды 形や過去 -ған 形，過去 -тыр 形のあとに用いられることもある．その場合にそれぞれの過去の意味を断定する，強める役割をする.

例）Хайди сарнадычыхсар, пу суулахта ундуп салтырбын.
（あなたが［最近］どのように歌ったのか，この騒がしさの中で私は忘れてしまったようだ.）
Ады паза позы прай хыролап парғанчых.
（馬も自分自身も霜に覆われてしまった.）
Олар аарға иирде читтірчіктер.
（彼らは村に夕方に到着したようだ.）

この -чых 形過去は現代では用いられなくなってきており，カチン方言で見られるようである.

８．８．１．３．未来形

８．８．１．３．１．-ар 形 / -бас 形未来

-ар 形未来は形動詞 -ар 形（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第１型あるいは第２型をつけて形成して，述語として用いる.

-ар 形未来

動詞語幹 ＋ 接辞 -ар ＋ 人称接辞
第１型あるいは第２型

接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
子音	-ар	-ер
母音	-ир （下記の発音上の変化を参照）	

動詞語幹が，母音 ＋ 子音 п，к，х，с で終わっているとき，これらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化し，それぞれ子音 б，г，ғ，з になる.

例）маах-（ずぶ濡れになる） ＋ -ар → маах̲ар → маа̲ғар
пас-（書く） ＋ -ар → па̲сар → па̲зар
пӧк-（［問題を］解く） ＋ -ер → пӧк̲ер → пӧг̲ер

動詞語幹が子音 т で終わっているときは, 語幹直前に母音があるときのみに有声化して д になる.

例）сат-（売る） ＋ -ар → сатар → садар

しかし，öскірт-（育てる） ＋ -ер → öскіртер

（直前が子音のときは有声化しない）

動詞語幹が母音で終わっているときは，動詞語幹の最後の母音と形動詞接辞最初の母音はひとつの母音 и になる.

例）аңна-（狩りをする） ＋ -ар → аңнаар → аңнир

сағы-（待つ） ＋ -ар → сағыар → сағир

ікінчіле-（疑う） ＋ -ер → ікінчілеер → ікінчілир

икі-（頷く） ＋ -ер → икіер → икир

サガイ方言においては，１人称単数では接辞 -ар 形最後の -р が脱落せずに，-р に第２型の変形バージョン-ым / -ім がつく.

例）парарым, аларым, истерім, көрерім

人称接辞表とつけた形

数	人称	未来形接辞	人称接辞	
単数	1	-ар / -ир	-бын / -ым -м[1]	-арбын / -арым / -ам[1] -ирбын / -ирым / -им[1]
		-ер / -ир	-бін / -ім -м[1]	-ербін / -ерім / -ем[1] -ирбін / -ирім / -им[1]
	2	-ар / -ир	-зың	-арзың / -ирзың
		-ер / -ир	-зің	-ерзің / -ирзің
	3	-ар / -ир	—	-ар / -ир
		-ер / -ир	—	-ер / -ир
複数	1	-ар / -ир	-быс	-арбыс / -ирбыс -абыс[2] / -ибыс[2]
		-ер / -ир	-біс	-ербіс / -ирбіс -ебіс[2] / -ибіс[2]
	2	-ар / -ир	-зар	-арзар / -ирзар -азар[3] / -изар[3]
		-ер / -ир	-зер	-ерзер / -ирзер -езер[3] / -изер[3]
	3	-ар / -ир	-лар	-арлар / -ирлар
		-ер / -ир	-лер	-ерлер / -ирлер

注１）１人称単数では，接辞 -ар 形最後の -р が脱落して人称接辞 -м がつく形もある．すべての動詞ではなく，会話で日常よく使う動詞のときのようである．

例）парам, алам, истем, көрем

注２）１人称複数では，接辞 -ар 形最後の -р が脱落して人称接辞 -быс / -біс がつく形もある．

例）парабыс, ойнибыс, килебіс

注２）２人称複数では，接辞 -ар 形最後の -р が脱落して人称接辞 -зар / -зер がつく形もある．

例）паразар, ойнизар, килезер

例文）

Мин халас, ит паза яблах аларбын(аларым).

（私はパンと肉，じゃがいもを買います.）

Піс сіреркі ікі часта сахтирбыс.

（私たちはあなたを２時に待っています.）

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

ойна-（遊ぶ）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	ойнирбын / ойним / （サガイ）ойнирым	ойнирбыс
2 人称	ойнирзың	ойнирзар
3 人称	ойнир	ойнирлар

кил-（来る）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	килербін / килем / （サガイ）килерім	килербіс
2 人称	килерзің	килерзер
3 人称	килер	килерлер

否定形は否定形接辞 -бас（とその発音上のバリエーション）を動詞語幹につけてから，人称接辞第１型をつける．

サガイ方言では，１人称単数と２人称単数では人称接辞第１型をつけるかわりに，接辞 -бас 形最後の -с に第２型の変形バージョン -ым / -ім がつく．

動詞語幹 ＋ 否定形接辞 -бас ＋ 人称接辞
第１型

否定形接辞

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （-м, -н, -ң を除く）	-бас	-бес
無声子音	-пас	-пес
-м, -н, -ң	-мас	-мес

例）парбас（行かない），ўрбес（[風が] 吹かない），хайнатпас（沸かさない），тоңмас（凍らない），өрінмес（喜ばない）

人称接辞表

数	人称	否定の未来形接辞	人称接辞	
単数	1	-бас / -пас / -мас	-пын -сым[1]	-баспын / -паспын / -маспын -бассым/ -пассым / -массым
		-бес / -пес / -мес	-пін -сім[1]	-беспін / -песпін / -меспін -бессім / -пессім / -мессім
	2	-бас / -пас / -мас	-сың	-бассың / -пассың / -массың
		-бес / -пес / -мес	-сің	-бессің / -пессің / -мессің
	3	-бас / -пас / -мас	―	-бас / -пас / -мас
		-бес / -пес/ -мес	―	-бес / -пес/ -мес
複数	1	-бас / -пас / -мас	-пыс	-баспыс / -паспыс / -маспыс[2]
		-бес / -пес/ -мес	-піс	-беспіс / -песпіс / -меспіс[2]
	2	-бас / -пас / -мас	-сар	-бассар / -пассар / -массар
		-бес / -пес/ -мес	-сер	-бессер / -пессер / -мессер
	3	-бас / -пас / -мас	-тар	-бастар / -пастар / -мастар
		-бес / -пес / -мес	-тер	-бестер / -пестер / -местер

注１）　１人称複数では，接辞 -бас（とその発音上のバリエーション）と -сым / -сім がつく形もある．サガイ方言のようである．
例）парбас<u>сым</u>, килбес<u>сім</u>

注２）１人称複数では，接辞 -бас（とその発音上のバリエーション）に -пыс / -піс をつけたとき，人称接辞の п と ы(i) つが入れ替わった発音もある．
-бас<u>ып</u>с / -пас<u>ып</u>с / -мас<u>ып</u>с ；　-бес<u>іп</u>с / -пес<u>іп</u>с / -мес<u>іп</u>с
例）килбес<u>іп</u>с

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

чурта-（住む）

数 / 人称	単　　数	複　　数
1 人称	чуртабаспын / （サガイ）чуртабассым	чуртабаспыс
2 人称	чуртабассың	чуртабассар
3 人称	чуртабас	чуртабастар

кил-（来る）

数 人称	単　　数	複　　数
1 人称	килбеспін / （サガイ）килбессім	килбеспіс
2 人称	килбессің	килбессер
3 人称	килбес	килбестер

-ар 形 / -бас 形未来の意味

1）発話時点よりも未来に行われる（行われない），起きる（起きない）行為，あるいは未来において完遂される（完遂されない）行為をあらわす.

例）Хазычах-оолағах, пүүн күскү тустың пілдіріглернең танызарбыс.
（少年少女の皆さん，今日は秋の季節の到来を告げる兆候を教えます.）

2）諺や俚諺，なぞなぞなどのなかで -ар 形 / -бас 形未来が用いられると，未来の意味ではなく，物や人間のふだんの，あるいは恒常的な特徴をあらわすことが多い.

例）Чахсы кізі хайда даа чахсы полар.
（いい人はどこでも［どこにいようと］いい人だ.）

3）疑問詞とともに用いて，「（どうして，何を）～するのか」の意味になる.

例）Нимені пілгелекте нимее өкпеленер.
（まだ何も知っていないのに何に怒っているのか.）

4）助動詞 пол- の未来形 -ар 形 полар は「おそらく，たぶん」という意味で，モダリティーをあらわすことばとしてよく用いられる.

例）Ол иткен полар.（彼はたぶんしただろう.）

5）助動詞 пол- の未来形 -ар 形 полар は名詞や代名詞の奪格，形動詞未来形の奪格形とともに用いて，「～だけでなく」という意味で用いられる.

例）Синнең полар, ол позы даа ит полбаан.
（君ばかりか彼さえもできなかった.）

Чүгүрердең полар, ол одыр таа полбинча.
（走ることだけでなく，彼は座ることさえもできていない.）

８．８．１．３．２．合成未来

合成未来は形動詞形と助動詞 пол- の полар とを組み合わせてつくる．人称接辞は полар につけ，第１型あるいは第２型をつけて述語として用いる．
合成未来形は２つの形がある．

合成未来

形動詞　　полар ＋ 人称接辞
第１型あるいは第２型

１）形動詞 чаӊ 形 ＋ полар
この形はふつう疑問文で用いられて，話者が我慢できず待ちこがれている未来の行為をあらわす．

例）Ирлік-ханнар! Мыннаӊ хаҷан парҷаӊ полар лар?
（この悪魔たちめ！ ここからいったいいつ立ち去るのか？）

平叙文で用いると、普通の未来形の意味になる．

例）Ол таӊда парҷаӊ полар.（彼は明日行きます.）

２）形動詞 бас 形 ＋ полар
この形は疑問文で用いられて，話者が望んでいる未来の行為をあらわす．形動詞が否定形なので反語的な表現になる（～しないのか，いや～してほしい）．

例）Нööс таӊда килбес полар лар?
（ほんとうに彼らは明日来ないのか，来てほしいのだが.）

８．８．２．命令法

命令法は，動詞語幹，あるいは助動詞語幹に人称に合わせて命令形をあらわす接辞（以下の接辞表を参照）をつけてあらわす．

１人称では双数形があり，「私とあなた」，「私たち２人」を意味している形である．

２人称単数の命令形には特別な接辞はなく，語幹がそのまま命令形となる．

１人称複数の命令形接辞は二種類，接辞 -ибыс(-ибіс) と接辞 -аңар(-еңер) がある．-ибыс（とその発音上のバリエーション）は聞き手を含まない形（私とその身内など）で，-аңар（とその発音上のバリエーション）は聞き手も含めた私たちが「～しましょう」の意味になる．

３人称複数の命令形は３人称単数の命令形接辞に複数形をあらわす接辞 -нар がつく．

命令形の否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション；８．３．否定形参照）をつけてからそれぞれの命令形接辞をつける（２人称単数では，動詞語幹 + 否定形接辞のみである）．

命令形の接辞表

人称	数	語幹最後の音	語幹最終音節の母音	
			硬母音	軟母音
1	単数		-им	
	双数		-аң	-ең
2	単数		— （動詞語幹のみ）	
3	単数	母音 有声子音	-зын	-зін
		無声子音	-сын	-сін
1	複数	母音 子音	-ибыс	-ибіс
		母音 子音	-аңар -алар（サガイ方言）	-еңер -елер（サガイ方言）
2	複数	母音	-ңар	-ңер
		子音	-ыңар	-іңер
3	複数	母音 有声子音	-зыннар	-зіннер
		無声子音	-сыннар	-сіннер

☆１人称単数の命令形接辞をつける例と注意点：

例）сал-（置く）＋ -им → салим

кӧр-（見る）＋ -им → кӧрим

動詞語幹の最後が母音で終わるとき，語幹最後の母音を脱落させて命令形接辞 -им をつける．

例）ырла-（歌う）＋ -им → ырлаим → ырлим

сине-（計測する）＋ -им → синеим → синим

否定形の場合も否定形接辞最後の母音 a を脱落させて命令形接辞 -им をつける．

例）ырла-（歌う）＋ -ба ＋ -им → ырлабаим → ырлабим

動詞語幹の最後が子音 -п，-т，-к，-х，-с で終わるとき，それらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化して，それぞれ -б，-д，-г，-ғ，-з に変わる．

例）сат-（売る）＋ -им → сатим → садим

☆１人称双数の命令形接辞をつける例と注意点：

例）сал-（置く）＋ -аң → салаң

кӧр-（見る）＋ -ең → кӧрең

動詞語幹の最後が母音で終わるとき，隣同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- か -ее- になる．

例）ырла-（歌う）＋ -аң → ырлааң

сине-（計測する）＋ -ең → синеең

сағы-（待つ）＋ -аң → сағыаң → сағааң

動詞語幹の最後が子音 -п，-т，-к，-х，-с で終わるとき，それらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化して，それぞれ -б，-д，-г，-ғ，-з に変わる．

例）сат-（売る）＋ -аң → сатим → саданң

☆１人称複数の命令形接辞をつける例と注意点：

１人称複数の命令形接辞 -ибыс(-ибіс) をつける際，動詞語幹の最後が母音で終わるとき，語幹最後の母音を脱落させて命令形接辞 -ибыс(-ибіс) をつける．

否定形の場合も否定形接辞最後の母音 a を脱落させて命令形接辞 -ибыс(-ибіс) をつける．

例）ырла-（歌う）＋ -ибыс → ырлаибыс → ырлибыс

сине-（計測する）＋ -ибіс → синеибіс → синибіс

ырла-（歌う）＋ -ба ＋ -ибыс → ырлабаибыс → ырлабибыс

１人称複数の命令形接辞 -ибыс(-ибіс) をつける際, 動詞語幹の最後が子音 -п, -т, -к, -х，-с で終わるとき，それらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化して，それぞれ -б，-д，-г，-ғ，-з に変わる．

例）сат-（売る）＋ -ибыс → сатибыс → садибыс

１人称複数の命令形接辞 -аңар(-еңер) をつける際，語幹最後の母音は脱落しない．

例）ырла-（歌う）＋ -аңар → ырлааңар

сине-（計測する）＋ -еңер → синееңер

しかし，動詞語幹の最後が母音 а あるいは е 以外の子音で終わるときは，隣同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- か -ее- になる．

例）сағы-（待つ）＋ -аңар → сағыаңар → сағааңар

１人称複数の命令形接辞 -аңар(-еңер) をつける際, 動詞語幹の最後が子音 -п, -т, -к, -х，-с で終わるとき，それらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化して，それぞれ -б，-д，-г，-ғ，-з に変わる．

例）сат-（売る）＋ -аңар → сатаңар → саданар

☆２人称複数の命令形接辞をつける例と注意点：

２人称複数の命令形接辞 -ыңар(-іңер) をつける際, 動詞語幹の最後が子音 -п, -т, -к, -х，-с で終わるとき，それらの子音は２つの母音に挟まれることになり有声化して，それぞれ -б，-д，-г，-ғ，-з に変わる．

例）сат-（売る）＋ -ыңар → сатыңар → садыңар

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

пар-（行く）

肯　定　形			
人称	単　　数	双　　数	複　　数
1	парим	параң	параңар парибыс
2	пар		парыңар
3	парзын		парзыннар
否　定　形			
人称	単　　数	双　　数	複　　数
1	парбим	парбааң	парбааңар парбибыс
2	парба		парбаңар
3	парбазын		парбазыннар

сат-（売る）

肯　定　形			
人称	単　　数	双　　数	複　　数
1	садим	садаң	садаңар садибыс
2	сат		садыңар
3	сатсын		сатсыннар
否　定　形			
人称	単　　数	双　　数	複　　数
1	сатпим	сатпааң	сатпааңар сатпибыс
2	сатпа		сатпаңар
3	сатпазын		сатпазыннар

命令形の例文をいくつか挙げておく.

例）Че, хада парааң.（[一人の人に］いっしょに行こう.）
Марғызаң!（[一人の人に］賭けよう！）
Чойланма!（嘘をつくな！）
Чоохтағларны синтаксис саринаң ўзўр салыңар.
（文章を統語論の観点から分析してください.）

命令形の語調をやわらげるために，人称接辞の後に接辞 -дах（とその発音上のバリエーション）をつけることができる.

命令形の語調をやわらげる接辞

人称接辞 （２人称単数語幹） の最後の音	最　終　音　節　の　母　音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　　音 有　声　子　音	-дах	-дек
無　声　子　音	-тах	-тек

例）Тоғындах.（仕事してね.）
Пирдемдек.（あげよう.）
Көзіт пирдек.（見せて.）
Пирзіндек.（[彼が］くれるようにさせたらね.）
Айран сустах.（アイラン［発酵乳］を入れてあげて.）

８．８．３．条件法

条件法は動詞語幹あるいは助動詞語幹に条件法をあらわす接辞 -за（とその発音上のバリエーション）をつけて，その後に人称接辞第２型をつける．

否定形は動詞語幹の後に否定をあらわす接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけ，その後に条件法接辞，人称接辞をつけてあらわす．

条件法接辞

動詞語幹の最後の音	最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	-за	-зе
無声子音	-са	-се

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく．

肯定形

ойна-（遊ぶ）

人称	単数	複数
1	ойназам	ойназабыс
2	ойназаң	ойназаңар
3	ойназа	ойназалар

кил-（来る）

人称	単数	複数
1	килзем	килзебіс
2	килзең	килзеңер
3	килзе	килзелер

否定形

ойна-（遊ぶ）

人称	単数	複数
1	ойнабазам	ойназабабыс
2	ойнабазаң	ойнабазаңар
3	ойнабаза	ойнабазалар

кил-（来る）

人　称	単　　数	複　　数
1	килбезем	килбезебіс
2	килбезең	килбезеңер
3	килбезе	килбезелер

条件法の意味

1）条件法は別の行為を行う前提条件をあらわす行為をあらわす（もし～ならば）.
「もし」をあらわす語として илебесте，илебести が用いられる.

例）Наңмыр чағза, тынанарбыс.
（雨が降るならば，私たちは休息をとろう.）
Илебести аалҷы килбіссе, маң чох полбызар.
（もしお客が来るならば，暇な時間はないだろう.）
Чöптіг чуртазаң, узун чурт полар.（仲良く暮らすなら，長生きするだろう.）

2）条件法は行為が行われる時をあらわす（～したら…）.

例）Олған öс парза, школазар парча, анаң институтха кірче.
（息子が成長したら，学校へ行き，大学に入学する.）
Соохталза, ағастарға тикпер тўсче.（寒くなったら，木々に霜が降りる.）

3）条件法は対比をあらわすこともある（～であるのに対し…）.

例）Алнындағы чылларда таарығ тоғыстары хосхар айының холғанҷы кўннерінде пасталған полза, пўўл – силкер айында ла.
（以前までの数年間，播種は４月末の日々に行われていたのに対し，今年は５月に行われた.）

4）動詞 кöр-（見る，見える）と ис-（耳にする，聞き知る）の条件法の形はふつう現在の意味になる：кöрзе（見てみるに）と иссе（聞いてみるところでは，聞こえるところでは）

例）Кöрзем, форточка хыринда кöгізек одырча.
（私が見てみるに，小窓のそばにシジュウカラがいる.）
Иссем: аны адабинчалар.
（聞いてみるところでは，彼にまだ名前がつけられていない.）

条件のなかで具体的に時制をあらわしたいときは，文章の意味をなす動詞をそれぞれの時制にして，その後に助動詞 пол- を条件法にしてあらわす. 人称接辞は助動詞 полза につける.

条件法を過去形にして入れると仮定法になる（仮定法参照）.

ただし，現在形のときは，動詞語幹と条件法接辞のあいだに接辞 -чат- / -чет- を入れてあらわすことが多い．否定形は動詞語幹と接辞 -чат- / -чет- のあいだに否定形接辞 -бин（とその発音上のバリエーション）を入れる.

「もし」をあらわす語として илебесте，илебести があるが，最近ではロシア語からの借用語 если （もし～ならば）を使うことが多い.

1）現在形

接辞 -чат- / -чет-

肯定形： 現在形 -чатса / -четсе ＋ 人称接辞（第２型）

否定形： 現在形 -бинчатса(-бинчетсе) ＋ 人称接辞（第２型）

接辞 -чат- / -чет- を入れた時の例を挙げておく

肯定形

пас-（書く）

人　称	単　　数	複　　数
1	пасчатсам	пасчатсабыс
2	пасчатсаӈ	пасчатсаӈар
3	пасчатса	пасчатсалар

否定形

пас-（書く）

人　称	単　　数	複　　数
1	паспинчатсам	паспинчатсабыс
2	паспинчатсаӈ	паспинчатсаӈар
3	паспинчатса	паспинчатсалар

例）Ол, пірее ниме итчетсебіс, сиспектер база сöспектернеӈ хаӈан даа тузаланӈаӈ, пісті ўгреде чоохтаӈаӈ.
（彼は，ときどき何かをするときに，なぞなぞや諺をいつも使って，私たちに教えてくれた.）

Чоох тоосчатса, анымӈохтазарға ундурбаӈар.
（お話を終えたら，別れの挨拶をすることを忘れないでください.）

現在形と полза を組み合わせてもよい.

肯定形： 現在形 -ча / -че　полза(ползам, ползаӈ...)

否定形： 現在形 -бинча(-бинче...)　полза(ползам, ползаӈ...)

例）Ир кізі тöретпинче полза, кöк пуғадаӈ сўт саалбинохча нимес пе зе.
（男性が子供を産まないなら，雄ウシからも同様に乳は搾乳できない.）

２）過去形

過去形は形動詞 -ған 形，あるいは形動詞 -чаң 形と полза を組み合わせて形成するが，仮定法の意味になるので仮定法の項目で扱うことにする．

３）未来形

条件法を未来の意味であらわしたいときは，主たる行為をあらわす動詞を肯定形なら形動詞 -ар 形，否定形なら形動詞 -бас 形にして，その後に полза をつけてあらわす．

例）Ізер ползаң, піске пар.（君が飲みたいのなら，私たちのところに来て．）

Наңмыр чаар полза, яман, пастағы тамҷы теңзөк, ойлап сыхча.

（雨が降ると，ヤギは最初の雨の一滴が身体に触れるや逃げ出す．）

８．８．４．譲歩法

条件文（条件法）をあらわす従属節中に助詞 даа（とその発音上のバリエーション）を入れると，譲歩（～だけれども，～だとしても）をあらわす．それは強調をあらわす語 даа が入ることによって譲歩の意味が加わると解釈できる．

助詞 даа

助詞 даа 直前の単語最後の音	最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音	даа	дее
無声子音	таа	тее

条件法で人称接辞をつけると以下のようになる。否定形でも助詞 даа のつけ方は同じになる．

ойна-（遊ぶ）

人称	単数	複数
1	ойназам даа	ойназабыс таа
2	ойназаң даа	ойназаңар даа
3	ойназа даа	ойназалар даа

кил-（来る）

人称	単数	複数
1	килзем дее	килзебіс тее
2	килзең дее	килзеңер дее
3	килзе дее	килзелер дее

例）Пу кізі, пічік пілбезе дее, позының чонының фольклорын уғаа чахсы пілген...
（この人は，文字を知らなかったけれども，自分の民族のフォークロアをとてもよく知っており…）
Парзам даа, маңнанмаспын.
（私は行ったとしても，間に合わないだろう.）
Пістің университетке 22 ле чыл полза даа, ол Хакасияа паза Россияа кирек специалисттерні тимнепче.
（私たちの大学はまだたった２２年しか存在していないけれども，この大学はハカスとロシアに必要な専門家を養成している.）

８．８．５．仮定法

仮定法は接辞 -чых（その発音上のバリエーション）を形動詞未来 -ар 形（否定形は形動詞 -бас 形）につけて形成する．人称接辞は第１型をつける．

仮定法の接辞

肯定形

形動詞未来形の接辞	
-ар	-чых
-ер	-чік

否定形

形動詞未来形の接辞	
-бас -пас -мас	-чых
-бес -пес -мес	-чік

仮定法

動詞語幹 ＋ 形動詞 -ар 形 / -бас 形 ＋ 仮定法接辞 ＋ 人称接辞
第１型

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

肯定形

пас-（書く）

人　称	単　　数	複　　数
1	пазарҷыхпын	пазарҷыхпыс
2	пазарҷыхсың	пазарҷыхсар
3	пазарҷых	пазарҷыхтар

кил-（来る）

人　称	単　　数	複　　数
1	килерҷікпін	килерҷікпіс
2	килерҷіксің	килерҷіксер
3	килерҷік	килерҷіктер

否定形

тоғын-（働く）

人　称	単　　数	複　　数
1	тоғынмасчыхпын	тоғынмасчыхпыс
2	тоғынмасчыхсың	тоғынмасчыхсар
3	тоғынмасчых	пасмасчыхтар

кис-（切る）

人　称	単　　数	複　　数
1	киспесчікпін	киспесчікпіс
2	киспесчіксің	киспесчіксер
3	киспесчік	киспесчіктер

仮定法の意味

1）仮定法はある他の行為を行った条件のもとで，起きた，起きなかった，あるいは起こるだろう，起こらないだろう行為をあらわす（もし…だったら，～だろうに）.
条件節をともなう場合は，条件法の時制を過去形にして用いる．条件法の過去形は，形動詞 -ған 形と полза を組み合わせて形成する．すなわち，主たる行為をあらわす動詞を形動詞 -ған 形にして，その後に полза をつける．人称接辞は полза につける．
否定形は形動詞 -ған 形の否定形に準じ，動詞語幹と -ған 形のあいだに否定接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）が入る．

条件節

形動詞 -ған 形	полза(ползам, ползаң...)

例）Наңмыр полбаан полза, піс парыбызарҷыхпыс.
（雨が降らなかったなら，私たちは行っただろうに.）
Киҷее чахсы кӱн полған полза, мин сомарға парарҷыхпын.
（昨日良い天気だったなら，私は泳ぎに行ったのに.）

2）丁寧な依頼（～していただけないでしょうか）や願望（～したいんだが，～したらいいのに）をあらわすことができる.
例）Сіпер маға город кӧзіт пирерчіксер бе?
（あなたは私に町を案内していただけないでしょうか？）
Мин Хакасия наука тоғынҷыларынаң тоғазып аларҷыхпын.
（私はハカスの研究者の人たちと知り合いになりたいのですが.）
Мин тӱрче узуп аларҷыхпын.
（私は少し眠りたいんですが.）
Пір чірче чей ізерҷікпін.
（私お茶を一杯飲みたいんだが.）

従属節だけでも願望をあらわすことができる.
例）Табырах килҷең ползалар.
（もし彼らが早く来たならなあ.）

８．８．６．希求法

希求法は接辞 -ғай（その発音上のバリエーション）を動詞語幹につけて形成する．
人称接辞は第１型をつける．

希求法の接辞

動詞語幹の最後の音	最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
母音 有声子音 （ -ғ, -г, -ң を除く）	-ғай	-гей
無声子音	-хай	-кей
-ғ, -г, -ң	-ай	-ей

例）нанғай（家に帰ったら良い），пілгей（知ったら良い），
сатхай（売ったら良い），төккей（注いだら良い），
чығай（集めたら良い），сигей（線を引いたら良い），
тоңай（凍ったら良い）

２つの母音に挟まれた ғ と г は脱落して，隣り同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- / -ее- になる．

例）ойна-（遊ぶ） ＋ -ғай → ойнағай → ойнаай
сөле-（言う） ＋ -гей → сөлегей → сөлеей

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（その発音上のバリエーション）をつけてから，希求法接辞をつけた形成する．
否定接辞をつけると，希求法接辞中の ғ と г は必ず２つの母音に挟まれることになるので脱落し，隣り同士並んだ２つの母音は一つの長母音 -аа- / -ее- になる．
例）халбаай（残らなかったら良い），итпеей（しなければ良い）

希求法
肯定形
動詞語幹 ＋ 希求法接辞 -ғай ＋ 人称接辞
第１型
否定形
動詞語幹 ＋ 否定形接辞 -ба ＋ 希求法接辞 -ғай ＋ 人称接辞
第１型

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

肯定形

ал-（手に取る，持って行く）

人　称	単　　数	複　　数
1	алғайбын	алғайбыс
2	алғайзың	алғайзар
3	алғай	алғайлар

кис-（着る）

人　称	単　　数	複　　数
1	кискейбін	кискейбіс
2	кискейзің	кискейзер
3	кискей	кискейлер

否定形

ал-（手に取る，持って行く）

人　称	単　　数	複　　数
1	албаайбын	албаайбыс
2	албаайзың	албаайзар
3	албаай	албаайлар

кис-（着る）

人　称	単　　数	複　　数
1	киспеейбін	киспеейбіс
2	киспеейзің	киспеейзер
3	киспеей	киспеейлер

希求法の意味

1）行為を行う希望や期待，企図，お願いをあらわす（～したらいいと望む，～してほしい，～しようと思う）.

例）Минің пабам чуртына нанғай, чаа тоозылза.

（戦争が終わったら，父に国に帰ってきてほしい.）

2）行為を行うことへの同意をあらわす（[まあいいでしょう] ～したらよい，～してもよい）.

例）Че, чарир, син дее иткейзің.
（うん，わかった，君は［それを］したらいいよ.）
Піс тее полысхайбыс.
（わかった，私たちは手伝ってあげよう.）

８．８．７．推量法

推量法は形動詞未来 -ғадағ 形を動詞語幹につけ，その後に人称接辞第１型をつけてあらわす.

形動詞未来形の接辞は以下の通りである.

動詞語幹の最後の音	動詞語幹の最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
有声子音（-ғ, -ң を除く）	-ғадағ	-гедег
無声子音	-хадағ	-кедег
母音 -ғ, -ң	-адағ	-едег

例）халғадағ（残るだろう），чағадағ（降るだろう）

語幹が母音で終わっている場合，本来は有声子音につける -ғадағ / -гедег がつくのだが，接辞最初の子音 ғ あるいは г は２つの母音に挟まれることになり脱落して１つの長母音，-аа- / -ее- となる．動詞語幹が母音 а あるいは е はで終わるときは，そのまま語幹に -адағ / -едег をつければよく，動詞語幹がそれ以外の母音であれば１つの長母音，-аа- / -ее- となる.

例）ырла-（歌う） ＋ -ғадағ → ырлағадағ → ырлаадағ
тимне-（準備する） ＋ -гедег → тимнегедег → тимнеедег

否定形は動詞語幹に否定形接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけた後に形動詞未来 -ғадағ 形，すなわちここでは -адағ / -едег をつけてあらわす.

推量法
肯定形
[動詞語幹] ＋ [形動詞未来形接辞 -ғадағ] ＋ [人称接辞]
第１型
否定形
[動詞語幹] ＋ [否定形接辞 -ба] ＋ [形動詞未来形接辞 -адағ / -едег] ＋ [人称接辞]
第１型

いくつかの動詞で人称と数による変化を挙げておく.

肯定形

сыйла-（贈る）

人　称	単　　数	複　　数
1	сыйлаадағбын	сыйлаадағбыс
2	сыйлаадағзың	сыйлаадағзар
3	сыйлаадағ	сыйлаадағлар

кил-（来る）

人　称	単　　数	複　　数
1	килгедегбін	килгедегбіс
2	килгедегзің	килгедегзер
3	килгедег	килгедеглер

否定形

сыйла-（贈る）

人　称	単　　数	複　　数
1	сыйлабаадағбын	сыйлабаадағбыс
2	сыйлабаадағзың	сыйлабаадағзар
3	сыйлабаадағ	сыйлабаадағлар

кил-（来る）

人　称	単　　数	複　　数
1	килбеедегбін	килбеедегбіс
2	килбеедегзің	килгедегзер
3	килбеедег	килбеедеглер

推量法の意味
話者が観察や経験に基づいて，これから起こるであろう，可能であろう，あるいは起こらないであろう，できないだろうと推量・推測した行為ををあらわす（どうやら～らしい，おそらく～するだろう，どうやら～しないらしい，おそらく～しないだろう）.

例）Парар чирім ырах чир, паза килбеедегбін.
（私が今から行く場所は遠い場所だから，二度と戻って来られないだろう.）
Пўўл яблахтаң маатпаадағбыс.
（私たちは今年ジャガイモに困らないだろう.）

過去形は形動詞未来 -ғадағ 形のあとに助動詞 пол- を過去形してあらわす．人称接辞は助動詞 пол- につける.

例）Ойнаадағ полғам.
（私は［そのとき］遊ぶことができただろう.）

８．９．合成動詞

動詞の組み合わせで一定の意味をもつ動詞を形成する．その際，組み合わせ最後の動詞以外（の前）は副動詞 -ып 形（あるいはその短縮形の語幹のみ）である.
以下にその組み合わせのいくつかを挙げる．熟語のように覚えておくとよい.

пар кил-　：行って来る
ал пар кил-　：持って行く，連れて行く
піл кил-　：知るために行く，行って知る
кір сых-　：訪れる
кир пар-　：到着する
кир сал-　：持ってくる，届ける
кир сал пар-　：ついでに届ける
ал пар сал кил-　：持って行く，運んで行く
ал кил-　：持ってくる

いくつかの動詞は名詞と組み合わせてその名詞の行為を行うことをあらわす.

動詞 тарт-（引っぱる）
тамкы тарт-　：煙草を吸う
харых тарт-　：いびきをかく
ӧдӧс тарт-　：喉歌を歌う
хыра тарт-　：耕す
ун тарт-　：小麦を挽く

動詞 сал-（置く）
хол сал-　：署名する
тӧлке сал-　：占う
нымах сал-　：昔話を語る
хыра сал-　：播種する
тус сал-　：塩を入れる

動詞 ит-（する）
халас ит-　：パンを焼く
чох ит-　：撲滅する

動詞 сых-（外に出る）
сабға сых-　：有名になる
動詞 ал-（取る）
öс ал-　：復讐する
ипчі ит-　：（男性が）結婚する

動詞 хан-（満足する）
маха хан-　：満足する
сухсун хан-　：渇きを癒す
уйғу хан-　：十分眠る

８．１０．助動詞

８．１０．１．さまざまな助動詞

いくつかの動詞は，自らの主要な語彙的意味のほかに，補足的ニュアンスや時制，体，態といった文法カテゴリーを表現するために助動詞として用いられる．

その際，否定の接辞や過去形の接辞は助動詞につく．

以下に，その助動詞の用法と意味を挙げておく．

助　動　詞 （動詞語幹）	要求する 本動詞の 形態	意　　味
аларға (ал-)	副動詞 -ып 形	自分自身（主語）のために行う行為をあらわす． （自分のために～する）
	例	кіріп аларға（[困難などを乗り越えて]中に入る） чадып аларға（横になる，横になって休む）
идерге (ит-)	不定形	企図をあらわす． （しようと思っている，～するつもりです）
	例	Піс алызарға итчебіс. （私たちは結婚しようと思っています.）
килерге (кил-)	副動詞 -ып 形	行為が行われたことをあらわす． （～してくる，～し終える）
	例	пар килерге（行ってくる） ал килерге（買ってくる，買う） учух килерге（[飛行機などが］到着する）
көрерге (көр-)	副動詞 -ып 形 副動詞 -бин 形	試行をあらわす（～してみる）.
	例	тыхтап көрерге（修理してみる）

одырарға (одыр-)	-ча 形現在	モダリティーをあらわす言葉して，「どうやら～のようだ」の意味になる．
	例	Полызар кізі пар одыр. （どうやら手伝ってくれる人はいるようだ.）
пararға (пар-)	副動詞 -ып 形	現在形で用いて，まだ終わっていないがもうすぐ終わる行為をあらわす（～しつつある）．
	例	Пес сооп пари.（ペチカは冷めつつある.）
	副動詞 -ып 形	行為の完了をあらわす（～してしまう）．
	例	тоозыл пararға（終わる）
пирерге (пир-)	副動詞 -ып 形	第三者のために行う行為をあらわす. （～してあげる）
	例	ал пирерге（買ってあげる） пӧк пирерге（［問題を］解いてあげる）
полarға (пол-)	副動詞 -ып 形	可能，不可能をあらわす（～できる，～できない）．
	例	Олар кил полбааннар.（彼らは来ることができなかった.）
	形動詞 -ҷых 形	「～しないふりをする」をあらわす. 例文は８．１０．２．２．を参照. その他の用法は８．１０．２．助動詞 пол- の用法を参照
	例	көрбеечік полarға（見ないふりをする）
саларға (сал-)	副動詞 -ып 形	行為の完了をあらわす（～してしまう）．
	例	ал саларға（買う） ундут саларға（忘れる，忘れてしまう）
	副動詞 -а 形	移動をあらわす動詞とともに用いて，予期しなかった突然に起きた，行われた行為の完了をあらわす. （突然～した）
	例	Олғаннарны кӧр салдох, одырған орнынаҥ тура салған. （子供たちを見るとすぐに，［彼女は］座っていた場所からさっと立ち上がった.）
сығарға (сых-)	副動詞 -ып 形	行為の開始をあらわす（～し始める，～し出す）．
	例	ырлап сыххан（歌い始めた） ылғап сыххан（泣き出した）
тастирға (таста-)	副動詞 -ып 形	迅速で果断な行為をあらわす（さっと～する）．
	例	пас тастирға（さっと書いてしまう）

турарға (тур-)	副動詞 -ып 形	長時間続く，あるいは常に行われる行為をあらわす. （～している）
	例	кӧр турарға（ずっと［たえず］見ている）
	副動詞 -ып 形 副動詞 -бин 形	２人称命令形で用いて，ある限定した時間内にする行為，しない行為をあらわす. （～しなさい，～してはいけません）
	例	Столға прайлары одырбаанча, син азыранарын пастабин тур. （皆が席に着くまで，君は食べ始めないで.）
тӱзерге (тӱс-)	副動詞 -а 形	突然，不意に起きる（行われる）行為をあらわす.
	例	ырли тӱзерге（[突然］歌い始める） чоохтана тӱзерге（[突然］話し始める）
халарға (хал-)	副動詞 -ып 形 副動詞 -бин 形	行為の完了をあらわす（～してしまう）. 「～するのに間に合う」,「～するのが間に合わない」をあらわす.
	例	ас халарға（道に迷ってしまう） Арчылыг пӱріҷекті сибирлебин ӱзіп алзаҥ, кӧрбин халарзыҥ, хайди арчы тамҷыгазы от сабы хыринҷа чылбыри халған. （もし君が露がついている葉っぱを雑にちぎってしまうなら，露の滴が草の茎をつたって滑り落ちるのを君は見ることはないだろう.）
хонарға (хон-)	副動詞 -а 形	完了した行為，一瞬で行われる行為，一回きりの行為，エネルギッシュに行われる行為をあらわす.
	例	ибдеҥ сығара хонарға（家からさっと出る） тура хонарға（さっと立ち上がる）
чӧрерге (чӧр-)	副動詞 -ып 形	長期間，常に（いつも）行われる行為をあらわす.
	例	сағын чӧрерге（ずっと［いつも］考えている）
ызарға (ыс-)		接辞 -быс（とその発音上のバリエーション）に変わってしまった. 詳しくは８．４．２．完了体を参照.

８．１０．２．助動詞　пол- の用法

８．１０．２．１．可能・能力「～できる」・不可能「～できない」をあらわす構文

副動詞 -ып 形の後に助動詞 пол- を現在形（ -ча 形）にして，否定形なら助動詞 пол- に副動詞 -бин 形をつけて用いて，可能・能力（～できる）や不可能（～できない）をあらわす．

可能をあらわす助動詞 пол- の後に完了などをあらわす他の助動詞をつけることができる．その際は助動詞 пол- は副動詞 -ып 形 / 副動詞否定 -бин 形になる．また，完了をあらわす接辞をつけることができる．

肯定形

副動詞 -ып 形		пол-	＋	-ча	＋	人称接辞

例）Мин ўгрен полчам.（私は学ぶことができる．）

主語が三人称複数のときは現在形に -лар がつく．

例）Олар ўгрен полчалар.（彼らは学ぶことができる．）

否定形

副動詞 -ып 形		пол-	＋	-бин	＋	-ча	＋	人称接辞

例）Піс санап полбинчабыс.（私たちは数えることができない．）

ときには，助動詞 пол- を使わずに，現在形 -ча 形で可能や能力をあらわすこともある．疑問文では助動詞 пол- を使うことが多い．

この可能をあらわす助動詞 пол- は，-и(р) 形現在を除く他の現在形でも用いることができる．

習慣現在（いつも［ふつう］～できない）の意味で助動詞 пол- を用いるときは，助動詞 пол- は副動詞 -а 形になり，その後に чоғыл，人称接辞が続く．

副動詞 -ып 形		пола	＋	чоғыл	＋	人称接辞

例）Олар мындыг нимелерні ит пола чоғыллар.
（彼らはふつうそのようなものを作ることができない．）
Піс узып пола чоғылбыс.
（私たちはいつも眠ることができない．）

ただし，助動詞 пол- が否定形で完了をあらわす接辞 -ыс がつく場合には，上記の形にはならずに -дыр 形を用いる．

例）Хомай мал часхыда чӧр полбиныздыр.
（体の悪い家畜は春にはふつう歩くことができないものだ．）

過去形は助動詞 пол- を過去形にする.

例）Олар санап полбааннар.（彼らは数えることができなかった.）
Мин тоғын полбиныстым.（私はもう働くことができなかった.）

未来形は助動詞 пол- を未来形にする.

例）Мин кил поларбын(полам).（私は来ることができる.）
Ол тоғын полар ба?（彼は働くことができるのだろうか？）
Ол тоғын полбас ба?（彼は働くことができないのだろうか？）

本動詞を副動詞 -бин 形にして助動詞 пол- を未来形にして用いると, ふつう反語の意味になる.

副動詞 -бин 形　　полар　＋　人称接辞

例）Андағ чітіг ухтар піске хазарбин полар ба за?
（このような鋭い弾は私たちに傷を負わせないことがあろうか［傷を御負わせるにきまっている］.）

本動詞を副動詞 -бин 形にして助動詞 пол- を否定形 -бас 形にして用いると, 二重否定になる.

副動詞 -бин 形　　полбас　＋　人称接辞

例）Чарых кӱн сығар, сыхпин полбас.
（明るい日差しの太陽が出る，出ないわけがない.）

カチン方言では可能・能力と不可能をあらわす構文は，副動詞 -ып 形に助動詞 ал- 形を直接つけた後に時制をあらわす接辞をつける．しかし，標準語としては稀であり，カチン方言話者に限られる.

例）Ол сыдаалбинча.（彼は［それを］うまくできない.）

８．１０．２．２.「～するふりをする」をあらわす構文

本動詞に接辞 -ачых（とその発音上のバリエーション）をつけて，その後に助動詞 пол- を用いると,「～するふりをする」をあらわす構文となる.

否定形は本動詞に否定接辞 -ба（とその発音上のバリエーション）をつけてから接辞 -ачых（とその発音上のバリエーション）をつける.

接辞 -ачых の変化は以下の通りである.

人称接辞（２人称単数語幹）の最後の音	最終音節の母音	
	硬母音	軟母音
	-ачых	-ечік

動詞語幹の最後が，母音の後に к，п，с，т，х が続くとき，語幹最後のこれらの子音は有声化して，それぞれ г，б，з，д，ғ になる．

例）сап-（叩く） ＋ -ачых → сапачых → сабачых

кіс-（切る） ＋ -ечік → кісечік → кізечік

例）Нинаны пілзем дее, ноға-да таныбаачых полғам.

（私はニーナを知っていたけれども，なぜか知らないふりをした．）

«Тойны мында идерзер», – испеечік полып, амыр чоохтанған іҷем.

（「結婚式をここで行うんですね」と，母は聞こえないふりをして，静かに言った．）

８．１０．２．３．「もしかして～したのではないですか」をあらわす構文

助動詞 пол- の否定の命令形（ полбим, полбиӈ, полбазын, полбибыс, полбаӈар, полбазыннар ）は，形動詞と組み合わせて疑問文の形で用いると，「もしかして～したのではないですか」という意味になる．

例）Ағырыбысхан полбаӈар?（もしかしてあなたは病気されたのではないですか？）

８．１０．２．４．「たぶん～だろう」をあらわす構文

助動詞 пол- の形動詞 -ар 形 полар は動詞（様々な時制）の後に用いて，「たぶん～，おそらく～」という意味として用いられる．人称接辞は полар につく．

例）Сіреp прайзыӈар даа оларны пілче поларзар.

（あなたがた皆それらのことをおそらく知っていることでしょう．）

Пүүн чахсы ойын полған полар.

（今日はきっと良い試合だったでしょう．）

８．１０．２．５．動詞と助動詞 пол- の様々な過去形との組み合わせ

助動詞 пол- はほかの動詞の様々な過去形の後につけて用いることができる（ただし，-чых 形過去は除く）．人称接辞は助動詞 пол- につける．

否定形は本動詞のそれぞれの形動詞や副動詞の否定形を用いる．

助動詞 пол- の前の動詞に完了をあらわす助動詞を用いたり，完了をあらわす接辞 -быс がついてもよい．

１）過去 -ған 形 ＋ полған（～だったのだった）

この過去形の組み合わせの後に，別の過去形，しかも話者の発話時により近い過去形が続くときである．

例）Парған полғам. （私は［かつて］行ったのだった．）

２）過去 -ған 形 ＋ полтыр（どうやら～したのだった）

この形は昔話のなかでよく用いられる．

例）Парған полтырбын. （どうやら私は［かつて］行ったことがあったようだ．）

３）過去 -ған 形　＋　полҷаң（～したのか？）

この形では疑問形で用い，　полҷаң は過去の意味をもたない．助動詞 полҷаң がついた形と助動詞 полҷаң がつかない過去形との意味の違いは，助動詞 полҷаң がついた形は誰か特定の人に訊いているのではなく，一般の人々に向けて言っている，あるいは話者が自分自身に向かって言っていることである．

例）Хайдар парған полҷаң?　（彼はいったいどこへ行ってしまったのか？）

４）過去 -ды 形　＋　полҷаң（～したのか？）

近い過去に起きたことをあらわす．

例）Бригадирібіс хайдар парыбысты полҷаң?
（我々の作業隊長はいったいどこへ行ってしまったのか？）

５）過去 -чаң 形　＋　полды（［どうして］～だったのか？）

疑問をあらわす言葉，ふつう ноға（なぜ），хайди（どうして）とともに用いる．助動詞 пол- には助詞 ни がつく（人称接辞は助詞 ни の後につく）．この場合，話者が後悔している，あるいは驚嘆しているニュアンスが加わっている．

例）Ноға ла пілбеҷең полдыним, пасха кізі кізі полчатханын?
（どうして私は知らなかったのか，他の人も人であることを？）

６）過去 -чаң 形　＋　полған

この形には意味が２つあり，１）習慣的に繰り返された過去の行為（いつも～したものだった），２）過去に完遂しなければならなかったが，実際には完遂されなかった行為（～しなければならなかった）である．

２つ目の意味では，未来 -ар 形 / 未来否定 -бас 形　＋　полған で言い換えることができる．

例）Парҷаң полғам.
（私は［かつて］いつも行ったものだった．/ 私は行かなければならなかった．）
Піс ребустарда өөнінде сөстер ле чазырҷаң полғабыс.
（私たちは判じ絵に主として単語を隠したものでした．）
Алында хакас ипчі хайди чуртаҷаң полғам?
（昔，ハカス人女性はいつもどのように暮らしていたのか？）
Син пүүн не ибдең сыхчаң полғазың хайза?
（君は今日家を出ないといけなかったのではないか？）

７）過去 -чаң 形　＋　полтыр

この形には意味が２つあり，１）話者がその場にいなかった，習慣的に繰り返された過去の行為（いつも～したものだった），２）過去に完遂しなければならなかったが，実際にはなぜか完遂されなかった行為で，しかも話者はそのことについて今になって知った行為（～しなければならなかった）である．

例）Өлері сидік полбаҷаң полтыр.（死ぬということはむずかしくないようだ．）
Алында солдатта чибіргі пис чыл служить полҷаң полтыр.
（以前は，いつも２５年間兵役に勤務しなければならなかったそうだ．）

８）過去 -чатхан 形　＋　полған（[そのとき］～していたのだった）
この形は過去のある一定の期間行われていた行為をあらわす（[そのとき］～していたのだった）．その際，この行為と同時に別の行為が行われている，この行為の背景に何か別の行為が行われている．

例）Ол туста кыстар ибзер наннапчатхан полған.
（そのとき若い娘たちはそれぞれ家に向かっていたのだった.）

９）過去 -чатхан 形　＋　полтыр（[そのとき］～していたようだった）
この形は，話者がいない所で起きた，過去のある一定の期間行われていた行為をあらわす（[そのとき］～していたようだった）．

例）Ол Ористі сағыпчатхан полтыр.
（そのとき彼女はオリスを待っていたようだった.）

この形は，また，-чатхан 形は形動詞現在形であることから，現在の意味もあらわせる（どうやら～であるようだ）．

例）Ол чахсы ырлапчатхан полтыр.（どうやら彼女は歌が上手なようだ.）

この意味では -чаттыр 形，あるいは現在形 -ча ＋ полтыр 形でも言える．

例）Ол чахсы ырлапчаттыр.（どうやら彼女は歌が上手なようだ.）
Син ырлабинча полтырзың.（どうやら君は歌っていないようだね.）

１０）過去 -ғалах 形　＋　полған
この形は，比較的遠い過去において完遂されなかったが，現在その行為，出来事がもうすでに完遂されているかもしれないことをあらわす（[～するはずだったが］～しなかった［でも今は終わっているかもしれない]）．その際，話者はそれについて知らないかもしれない．

例）Хароол санын киҹее пöккелек полған.
（ハロールは昨日算数の問題を解いていなかったのだった［今日はもう解いているかもしれない].）

１１）過去 -ғалах 形　＋　полтыр
この形には意味が２つあり，１）ある一定の過去の時点において完遂されなかった行為で，しかも話者がその場にいなかった，あるいは聞き知った行為（[そのとき］どうやら～していたのだった，［そのとき］～していたそうだ；今は完遂されているかもしれない），２）完遂されなければならない行為が，まだ完遂されておらず，そのことについて話者が発話時点において知った行為（～したはずなのにまだしていないのが分かった；その行為は未来において完遂されるかもしれない）である．

例）Парғалах полтыр.
（[そのとき］彼はまだ行っていなかったようだ．　/
彼はまだ行っていないし，今もそうだ.）

１２）現在形 -ча 形　＋　полҹаӈ（～している）
現在の意味をあらわす．

例）Олар, тоғыстарын тооспин, ниме сағынча полҹаӈнар?
（彼らは仕事を終わらせずに，何を考えているのか？）

１３）現在形（形動詞過去） -чатхан 形 ＋ полҷаӈ（～している）
現在の意味をあらわす.

例）Пу кізілер ниме итчеткен полҷаӈ?
（この人たちは何をしているのか？）

１４）未来 -ар 形 / 未来否定 -бас 形 ＋ полған
未来 -ар 形 ＋ полған 形は過去に完遂しなければならなかったが，実際には完遂されなかった行為（～しなければならなかった），未来否定 -бас 形 ＋ полған 形は行う必要がなかった行為（～しなくてもよかった）をあらわす.

９．副詞

副詞は，動詞や形容詞を修飾し，хайди?（どう，どのように？），хайдаг оңдайнаң?（どのようにして？），хачан?（いつ？），хайда?（どこで？），хайдаң?（どこから？），хайдартын?（どの方角から，どこから？），хайча?（どこに沿って？）の疑問文に答える．

多くの副詞は、その形が形容詞と同じである．

９．１．副詞の形成

副詞は，もうこれ以上分けられないものから形成されている副詞と名詞や形容詞に格接辞がついた形，動詞の副動詞形や形動詞形が副詞化して形成されたものがある．

以下に格接辞がついて副詞化したものの例を少し挙げておく．

属格接辞から形成（時をあらわす名詞につけると「毎～」を意味する副詞を形成）：
күннің（毎日），чылның（毎年）

与格接辞から形成：пыласпахха（先を争って），чабдахха（鞍をつけずに），
хуруға（熱い料理なしで），тіріге（生きたままで，生存して）

位格接辞から形成（時と関係する副詞が多い）：часхыда（春に），иирде（晩に），
орайда（遅くに），тузында（ちょうどよい時に），
наада（最近），иргіде（昔に），хазыхта（健康な時に）

奪格接辞から形成（「どのようにして」行うかをあらわす副詞，時をあらわす副詞を形成）：толдыразынаң（完全に），пылтырдаң（去年から），
хачан-пуруннаң（大昔から）

具格接辞から形成：чорыхнаң（［ウマが］だく足で）

比較格接辞から形成（「～に沿って」や程度・大きさをあらわす副詞を形成）
：ағыринча（静かに）

以下に動詞から副詞化した例を少し挙げておく．

副動詞 -ып 形から形成：хатап（再び，また；< хата-［繰り返す］），
орустап（ロシア語で；< оруста-［ロシア語で話す］）

副動詞 -а 形から形成：толдыра（いっぱいに；< толдыр-［満たす］），
пілдіре（分かるように，明白に；< пілдір-［知らせる］）
сыстада（痛くなるまで；< сыстат-［痛みを呼び起こす］）
күүледе（騒がしく；< күүлет-［騒々しくする］）

このうち接辞 -да / -де は動詞から副詞を形成する接辞として考えてもよいが，これは，動詞語幹 + 使役態接辞 -т + 副動詞 -а 形 から形成された副詞である．

また，代名詞の格変化形が副詞化したものがある．

例）анда（あそこに；ол の位格），аннаң（あそこから；ол の奪格），
мында（ここに；пу の位格）

副詞を形成する接辞

1）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音（ а, ы, о, у ）	軟音（ э , е , и, і, ö, ÿ ）
有声子音	-дын	-дін
無声子音 -р 母音	-тын	-тін

副詞や形容詞にこの接辞をつけて，起点「～から」をあらわす副詞を形成し，хайдаң?（どう，どのように？），хайдартын?（どの方角から，どこから？）に答える。

例）ырахтын（遠くから），чағындын（近くから），чағартын（上流から），іскертін（東から），тасхартын（通りから）

この接辞は名詞の方向格につけて形成することができる（「～のほうから」）.

例）столзартын（机のほうから），тағзартын（山のほうから）

2）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
	-зын	-зін

時と関係する名詞や形容詞から時をあらわす副詞を形成する.

例）иргізін（夕方に，晩に），хараазын（夜中に），чайғызын（夏に）

また，数詞や数量をあらわす単語（ көп [多い]など）から形成して回数をあらわす副詞を形成する.

例）ікінчізін（２度），пизінчізін（５回目として），пастағызын（初めて），көбізін（多く）

3）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
有声子音	-да	-де
無声子音 母音	-та	-те

動詞から副詞を形成し，「動詞のあらわす状態にさせて」の意味になる．この接辞は動詞語幹 ＋ 使役態接辞 -т ＋ 副動詞 -а 形 から形成された副詞である.

例）тадырада（大きな声で；< тадыра-［鳴り響く］），
хызарта（夜中に；< хызар-［赤くなる］），
кӱӱледе（騒がしく；< кӱӱле-［騒ぐ］），
көгерте（青くなるまで；< көгер-［青くなる］）

4）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音
有声子音	-ли
-м, -н, -ӊ	-ни
無声子音	-ти
母音	-ди

時と関係する名詞や形容詞などから行為をあらわす時間や期間をあらわす.
例）части（春のあいだ中），чайли（夏のあいだ中），кичееди（昨日）
加えて，接辞 -ни，-ти，-ди は行為の特徴や様態を比喩的にあらわす副詞を多く形成する.
例）ортымахти（平均して），тиӊни（同等に），пала кусти（雛のように），
чулахти（小川のように）

この副詞は動詞の副動詞 -a 形から形成されたものである.

９．２．副詞の弱化

副詞を弱める接辞を以下に挙げる.

1）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
有声子音 母音	-ҷах	-ҷек
無声子音	-ах	-ек

例）тӱрҷеҷек（ほんの少し），аҕыринҷах（ほんとに静かに）

2）

語幹の最後の音	語幹の最終音節の母音	
	硬音	軟音
有声子音 母音	-ғына	-ґіне
無声子音	-хына	-кіне

例）көөлҷегіне（ほんとにゆっくり），аҕыринҷах（ほんとに静かに）

９．３．副詞の比較級

副詞の比較級も形容詞と同様に特別な接辞はなく，比較の対象（～より）を奪格にしてあらわす.

例）Чоохтар чилдең табырах таразар.
（人の話は風よりも速く広まる.）

９．４．疑問副詞

代表的な疑問副詞を挙げる.

Хайди?	どのように？
Хайда?	どこで？
Хайдар?	どこへ？
Хайдаӈ?	どこから？
Хайдартын?	どこから？
Хачӈан?	いつ？
Хайча?	いくつ？
Ноға?	なぜ？ どうして？
Ноғадаӈар?	どうして？ どういうわけで？

例）Автобус хайдаӈ хайдар келген?（バスはどこからどこへ行きましたか？）
Уроктар хачӈан пасталча?（授業はいつ始まりますか？）
Сірер каникулларны хайди иртірчезер?
（あなたは休みをどのように過ごしていますか？）

９．５．不定副詞

不定副詞は疑問詞に助詞 -да / -де をつけて形成する.

хайда-да（どこかで）
хайдаӈ-да（どこからか）
хачӈан-да（いつか）
ноға-да（なぜか）

１０．後置詞

後置詞は，主に２つのグループから形成されており，１つは「上部」や「下部」,「真ん中」,「前部」,「後部」,「前」,「後」など空間的位置や時間関係をあらわす名詞の格変化形から形成されたもの後置詞，もう１つは動詞の副動詞形が後置詞化したものである．

副動詞形が後置詞化した後置詞は変化しない．後置詞の前につく名詞はふつう，そのもとになった動詞が支配する格を必要とする．

名詞から形成された後置詞は，元となる名詞に所有接辞がつき，その後に与格や位格，奪格などの格接辞がついてできている．ふつう名詞の後に続くので，３人称所有接辞がついて形成されるが,「私の前に」,「あなたの後ろから」など人称代名詞が後置詞につくときは元になる名詞には１人称や２人称の所有接辞がついた後に格接辞がついて後置詞となる．

後置詞の前には形動詞がくることもある．

よく用いる後置詞とその用例を，副詞から前置詞句のように用いるものも含めて巻末に表として掲載しておく．

１１．接続詞

ハカス語の接続詞の数はそれほど多くない．それは動詞の様々な形動詞構文や副動詞構文を用いた方法や後置詞，助詞を用いて文章と文章を結ぶことが多いからである．また，関係代名詞や副詞，助動詞表現が接続詞化した形なども用いられる（それぞれの項目を参照）．

近年ではロシア語の接続詞がそのまま借用されて用いられることもある．

例）а（だが），а то（そうでなければ），зато（その代わりに），
ведь（とういうのは…だから）

接続詞の前にはコンマを打つ．

１）並立的接続詞

паза	～と…；そして，；さらに；また
анаң	そのあとで，それから
че	しかし，しかしながら（逆接）
а	だが，ところが ※ ロシア語からの借用語
тізең	だが，ところが；…に関して言えば ※ 前後にコンマを打つ
андағ даа полза	しかし，そうとはいえ
андағ полза даа	しかし，そうとはいえ
алай	それとも，あるいは
алай ба	それとも，あるいは
нимезе	それとも
пірде ... , пірде ...	あるときは…，またあるときは…
піреede, піреede ...	あるときは…，またあるときは…

２）従属的接続詞

ананңар	だから
аның ӱчӱн	そのため，その理由で
нименің ӱчӱн	そのため
сынап	もし（…なら）
илебесте, илебести (если)	もし（…なら）
хаҷан	…するとき
тіп	…と（言う）

１２．助詞

助詞は，単語や文章の前におく助詞や単語や文章の直後におく助詞，動詞語幹と時制などの接辞のあいだや語幹最後につける助詞（接辞）がある．
以下に主な助詞を挙げる．

疑問の助詞

ба / бе / па / пе / ма / ме　　～か？
・文末につけて疑問文をつくる．
・肯定文で用いるときは疑問「～か？」の意味となり，否定文で用いると疑いや驚きのニュアンス「ほんとうに～でないのか？」が加わる．

例）Директор Абаканнаң килбеен ме?
（所長はアバカンからほんとうにまだ来ていないか？）

助詞 ба のつけ方

疑問助詞前の単語の最後の音	疑問助詞前の単語の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 有　声　子　音	ба	бе
無　声　子　音	па	пе
-м, -н, -ң	ма	ме

а　　え，何ですって？
・聞き直しや注意の催促をあらわす．

ноо　　① いったい何の～？ いったいどんな～？
・疑問の強調，突然知った情報への驚きをあらわすこともある．
② 強調（肯定文で）
・行為者をあらわす際，助詞 ноо に述語接辞がつく

例）Ноо ниме полды?（いったい何が起きたの？）
Ноо кізі?（いったい誰なの？）
Тынанар ноом.（今休憩しよう．）

нөөс　　ほんとうに～なのか？ はたして～なのか？
・疑問の強調，話者の疑念や不信の念をあらわす，また反語もあらわす．

例）Нөөс ундубысхазың?（ほんとうに君は忘れてしまったのかい？）

ни　　～か？
・文末につけて疑問文をつくる．

ба ни / бе ни / па ни / пе ни / ма ни / ме ни　～か？
・疑念やためらいをよくあらわす

ба ни за / бе ни зе / па ни за / пе ни зе / ма ни за / ме ни зе　～か？

чи
① （前文を受けて）じゃあ～は？
② （後悔・残念）ああ～だったなら
・条件法の後につける.

нимес пе　ほんとうに～ではないのか？
・動詞過去形の後でも用いてもよい.

例）Ол киҹее иирде килген нимес пе?
（彼は昨日の夜に来たのではないのか？）

強調の助詞

таа / тее / даа / дее
① （強調）～も
・強調したい語句の後におく.
～も（…ない）
・動詞否定形や чоғыл（～がない）とともに用いる
どんな～も，いかなる～も
・疑問詞とともに用いる
② （譲歩）～だけれども，～とはいえ
・条件法（-за）とともに用いる
③ （反意）～だが

例）Пістің чазыларда пуғдай даа, арыс таа, көче дее чахсы өсче.
（私たちの耕地では小麦もライ麦もオオムギもよく育っている.）

助詞 таа のつけ方

助詞前の単語最後の音	助詞前の単語の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 有　声　子　音	даа	дее
無　声　子　音	таа	тее

хаҹан даа　いつも

хайдағ даа　どんな～も

хайда даа　どこでも，いたるところで

例）Н.Катанов, хайдағ даа істезіг чорыхтарҹа чөріп, наа чоннарның тіллерін үгренҹең.
（N.カタノフはどんな研究調査へも出かけ，新しい諸民族の言語を研究した.）

нооза　　～だからだ，～のようだ

・нооза に１人称，２人称述語接辞（第２型）がつくとき，за は離して書く．

例）Мин дее кізібін ноом за, міндір дее палых нооза.
（俚諺私も人間だし，カワメンタイも魚なんだから．）

-ох / -ӧк　　（肯定・強調）～も

・強調する単語（名詞や形容詞，副詞など）の後につけ，一体化する．その際，単語が母音で終わるときは，最後の母音が脱落して，-ох あるいは -ӧк がつく．

・位格など格接辞がついている名詞にもつく．

・動詞のなかに入れても用いられるが，ふつう人称接辞の前に入ることが多いが，現在形接辞 -ча の前に入るなど接辞によって異なる．

例）Мии дее минӧк ноомза, миндір дее палыгох нооза.
（俚諺私も人間だし，カワメンタイも魚なんだから．）
Агния Львовна Барто 1906 чылда Москвада тӧреен, андох чуртаан.
（アグニヤ・リヴォーヴナ・バルトーは１９０６年にモスクワで生まれ，ずっとそこに暮らしました．）

-ох / -ӧк のつけ方

-ох / -ӧк 前の単語の最終音節の母音	
硬　母　音	-ох
軟　母　音	-ӧк

за / зе / са / се　　①（強調）

②（疑問の強調）ほんとうに（～か）？

・疑問詞の入った疑問文で，疑問詞の入っていない疑問文では，ба ни за（と発音上のバリエーション）の組み合わせでよく用いられる．

例）Ол за сынын чоохтаан.（彼はほんとうに本当のことを話した．）
Ол килген ме ни зе?（彼はほんとうに来たのか？）

助詞 за のつけ方

助詞前の単語最後の音	助詞前の単語の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 有　声　子　音	за	зе
無　声　子　音	са	се

限定の助詞

ла / ле,　　① （限定）～だけ，ただ～だけ
на / не　　② （強調・確認）まったく，まさに
・助詞 ла は動詞のなかに入れて用いることができる．その際，助詞 ла は動詞時制の接辞の後につける，ただし，３人称複数のときだけ複数形接辞の後につける．以下別表で例を挙げておく．

例）Онааға ла кіргем.（私はただたんに寄っただけです.）

助詞 ла のつけ方

助詞前の単語最後の音	助詞前の単語の最終音節の母音	
	硬　母　音	軟　母　音
母　音 子　音 （-м, -н, -ң を除く）	ла	ле
-м, -н, -ң	на	не

助詞 ла が動詞のなかに入った例
пар-（行く）; парар（未来形）

数 / 人称	単　数	複　数
1 人称	Мин парарлабын	Біс парарлабыс
2 人称	Син парарлазың	Сіреер парарлазар
3 人称	Ол парарла	Олар парарларла

肯定の助詞

я　　（肯定の返事）はい，そうだ，もちろん
・я の後はコンマを打つ.

ізе　　（肯定の返事）はい，そうだ，もちろん
・ізе の後はコンマを打つ.

否定の助詞

чох　　① （否定の返事）いいえ，そうじゃない
・чох の後はコンマを打つ.
② （存在の否定）いません，ありません
чох が述語になるとき，接辞 -ыл がついて чоғыл になる.
例）Маң чоғыл.（暇な時間がない.）

	③ 形容詞や副詞の後において「～ではない」,「～ではなく」という反意語を形成する.
	④ 名詞の後において否定的な意味の副詞, 形容詞を形成する.
тааң, таң	（やわらかな否定，情報の不確かさをあらわす） さあ，さあ知らない
нимес	～ではない ・名詞や代名詞，形容詞を否定する
чаа(х)	（会話文で，不同意をあらわす）
-тах / -тек / -дах / -дех	（命令形を丁寧にする） ８．８．２．命令法参照
-та / -те, -да / -де, -на / -не	（疑問代名詞のあとにつけて不定代名詞を形成する） ７．５．不定代名詞参照
сах	まさに，ちょうど
харын	（挿入語，述語のように）良いことには，幸運なことには
тіп	…と（言う）
感情などをあらわす助詞	
ма	（物を差し出して）ほら，取りなさい，さあさあ
чаа(х)	（会話文で，不同意をあらわす）
че	①（疑問文とともに用いて）で，～か？ それで～か？ ②（同意・促し・強制）さあ（～しなさい),
паза	（事柄の確実性・確信）もうこれ以上
итпезе	（話者の予測，推測）もしかしたら
хайа	（行為の促し）さあさあ
иң	（形容詞の最上級を形成）最も～，一番～
чир дее	決して（～しない） ・否定形とともに用いる.

１３．後置詞および後置詞句一覧表

後置詞および後置詞句一覧表
　この一覧表はアルファベット順に並べてある．

　表の使用にあたっての注意点は以下の通りである．

１）主に後置詞は位置や時間関係をあらわす名詞に所有接辞の３人称形がつき，さらに格変化接辞（位格や与格，奪格，方向格）がついて形成されている．所有接辞３人称形がついた名詞に格変化接辞がつくとき，あいだに н がはいる．
　この表では，名詞から形成されている後置詞は３人称所有接辞をつけたものを挙げている．つまり，普通の名詞（単数形でも複数形でも）が前にくる場合（「～の」），後置詞は表に載っている形をそのまま使用すればよい．

２）前置詞の前に人称代名詞がつく場合も минің（私の）や синің（君の），пістің（私たちの），сіпернің（あなたがたの）のように属格になり，当然に所有接辞はそれぞれの人称に従った形となり，格変化接辞がつづく．その際，所有接辞１人称と２人称形と格変化接辞のあいだには н は入らない．しかも，格変化接辞も所有接辞の語尾によって発音上のバリエーションで異なることになる．この種の後置詞で人称代名詞の所有接辞がつく可能性のあるものには（名）の印をつけておく．
　　例）минің орны<u>ма</u>（私の代わりに）

３）後置詞もしくは補助詞の前につく名詞の格支配は属格が多いが，その場合，属格は属格接辞をつけない不完全な形，すなわち主格を同じ形が使われることが多い．

４）前に入るのが名詞ではなく文章がはいる場合，①動詞が名詞化し，さらに後置詞の名詞格支配にあわせて格変化させて入れる，②動詞は形動詞形で入れる，の２通りがある．それぞれの後置詞で異なる．

５）この表には便宜上，副詞と接続詞，接続をあらわす語句も含んでいる．

後置詞一覧表

後置詞および 名詞に格をつけた後置詞句， 副詞とともに用いる句	前に置く 名詞の格支配 動詞の形	意　　味 例
аар（副）	奪格	①～の向こう側へ，～（人）から離れた方へ аалдаң аар（村から離れたほうへ）
азаа（名）< азах азаанда ‹前›	属格	足 ①　～の足もとに ②［時間的］～の終わりに чыл азаанда（年末に）
азыг（後置）	主格	（数詞とともに）～以上，～を上回って чӱс азыг（１００以上）

азыра（後置） ＜азыр- 副動詞 -а 形	対格	①［空間的］～を越えて иңнин азыра（肩越しに） таг(ны) азыра（山を越えて） ②［超過］～（ある限度）を越えて，～を超過して план азыра（計画を上まわって） ③（数詞とともに）～以上，～を上回って，～よりも前に Пір чӱс азыра кіизі килген. （１００名以上の人が来た.） Алты кӱн азыра килгеннер. （[予定日より］６日も前に彼らはやって来た.）
	奪格	③［超過］～（ある限度・容量）を越えて，～を超過して планнаң азыра（計画を上まわって）
айландыра（後置）	主格	～のまわりに，～の周囲に тумзух айландыра парарга （岬を周って行く）
ала（後置）	奪格	①～といっしょに，～を含めて，～までも含めて сірердең ала（あなたを含めて） ②～から（時間的） иртеннең ала（朝から） саарбахтаң ала （ティーンエージャーの時から） ③～から（空間的） ізіктең ала тӧрге читкенде （ドアから上座まで） ④ ～に至るまで（到達），～を含んで паладаң ала （子供も含んで） Хызылчардаң ала （クラスノヤルスクに至る範囲にまで）
алдыра（後置） ＜алдыр- 副動詞 -а 形	方向格 主格	①［空間的］～のほうへ，～へ向かって аалзар алдыра（村へ向かって） ②［時間的に］～までに，～頃までに иир алдыра（夕方頃までに）
алны（名） алнына〈与〉 алнында〈前〉	属格 形動詞 -ар 形	前部，前側，先頭 ～の前に，～の前へ（空間的） шкаф алнына（食器棚の前に） ①～の前に，～の先頭に кӧріндес алнында（鏡の前に） алнымда（私の前に）

алнынаң〈奪〉 алнынзар〈方〉 алнынча〈比〉		сöс алнында（語頭に） ②～の前に（時間的） кірер алнында（中に入る前に） наңмыр алнында（雨の前に） наңмыр чаар алнында （雨が降る前に） ～の前から，～前側から аал алнынаң（村のはずれから） ～の前へ，～前側へ город алнынзар（町はずれへ） ～の前側に沿って Прай отрядтар трибуна алнынча пайрамныг маршха тимненібіскеннер. （全部隊は貴賓席前に沿って祝賀パレード行進を行う準備が整った.）
алты（名） алтына〈与〉 алтында〈前〉 алтынаң〈奪〉 алтынзар〈方〉 алтынча〈比〉	属格	下，下部，前側 ～の下へ，～の下側へ суг алтына（水の中へ） ～の下に，～の下側に таг алтында（山の麓に） чир алтында（地下に） ～の下から，～の下側から стол алтынаң（机の下から） ～の下へ，～の下側へ от алтынзар（草の下のほうへ） ～の下側に沿って тахтаның алтынча（橋の下に沿って）
аразы（名） < ара аразына〈与〉 аразында〈前〉 аразынаң〈奪〉 аразынзар〈方〉	属格	～のあいだ ～のあいだへ ол тус аразына（この期間中に） ① ［空間的］～のあいだに，～と～の間に таг аразында（山と山の間に） урок аразында（授業と授業の間に） кізі аразында（人々の中に，社会に） ② ［時間的］～の間，～の期間 ікі час аразында（２時間） ～のあいだから агас аразынаң（森から） ～のあいだへ Палаалр агас аразынзар парабысханнар. （子供たちは森の中に入っていった.）

аразынча〈比〉		～のあいだに沿って，～の間を Тас аразынча суғ ахча. （岩の間を水が流れている.）
арали（後置） < арала- 副動詞 -и 形	主格	①～と混ぜて，～と混ぜこぜに мука арали（小麦粉と混ぜて） ②～のあいだに，～を通して，～の中で（空間的位置） ағас арали（樹木のあいだに） кізі арали（人々の中に） Көк түдүн арали хазан-хахпах көрін турған. （青白い煙を通して鍋［ボイラー］が見えていた.）
артиинаң（副） < артых артых + ы（三人称所有接辞）+ наң（具格）	数詞主格	～より多く，～以上 Оолах он артиинаң палых тудып алған. （少年は１０匹以上魚を捕まえた.）
ибіре（後置） < ибір- 副動詞 -а 形	主格 対格 代名詞対格	～のまわりに，～の周辺に，～の周囲に стол ибіре（机のまわりに） көл(ні) ибіре（湖周辺に） Ай Чир ибіре айланча. （月は地球の周りを回っている.） Аалны ибіре хойыг ағастыг таглар тигірге сіри хасхай турчалар. （村の周囲に密林のように木々が生い茂っている山々が天高く聳えている.）
индіре（後置） < индір- 副動詞 -а 形	主格	①［方向］～を下方へ、～の下流へ，～の麓へ，～の方向へ суг индіре（川の下流へ） таг индіре（山の麓へ） чил индіре（風の吹く方に沿って） ②［位置］～の下流に Ол аал Хара Үүс индіре полча. （この村はハラ・ユース川の下流にある.）
іст(і)（名） істіне〈与〉 істінде〈前〉 істінең〈奪〉	属格	内部，中 ～の内部に，～中に Сиден істіне кір килген. （彼は塀のなかに入った.） ～の内部に，～の中に харачах істінде（引き出しの中に） ～の内部から，～の中から таг істінең（山の中から）

істінзер〈方〉 істінче〈比〉		～の内部へ，～の中へ шкаф істінзер（食器棚の中へ） ～の内部に沿って，～の中に沿って чер істінче（地面の中に沿って）
кизіре / кичіре（後置） < кизір- 副動詞 -а 形	主格 対格	～を越えて，～を横切って чол кизіре（道を渡って） суғ(ны) кизіре（川を渡って）
килістіре（副）	与格	～に合うように，合致するように Хоостарға килістіре чоохтағлар пүдір （絵の内容に合うように文を作りなさい.）
кире（後置） < кир- 副動詞 -а 形	方向格 与格	～の内部へ Өрке інзер кире ойлабысхан. （ジリスは巣穴の中へ逃げ去った.） Пызолар хазааға кире сүрілгеннер. （子ウシは牛小屋へ追い立てられた.）
кист(і)（名） кистіне〈与〉 кистінде〈前〉 кистінең〈奪〉 кистінзер〈方〉 кистінче〈比〉	属格	後部，後ろ ～の後ろに，～の後方に，～の向こう側へ Парта кистіне одырған. （彼は学習机に座った.） ～の後ろに，～の後方に，～向こう側に ағас кистінде（木の向こう側に） Стол кистінде одырча. （彼は席についている.） ～の後ろから，～の後方から，～向こう側から Хазаа кистінең ікі іс парыбыстыр. （庭から二つの足跡が続いている.） ～の後ろへ，～の後方へ，～向こう側へ тағ кистінзер（山の向こうへ） ～の後部に沿って
кичіре （カチン方言）	主格	～を越えて чол кичіре（道を渡って）
көзі（名） < көс көзіне〈与〉 与格にして用いる	属格	目 ～のいる前で，～の目の前で，～がいる際に，～の立会いのもとに кізі көзіне（人前で） минің көзіме（私のいる前で）
көре（後置） < көр- 副動詞 -а 形	与格 代名詞与格	① ～を手本にして，～を見ならって сағаа көре（君を見ならって） ② ～に応じて

	対格	тоғасха көре（労働に応じて） ③ ～の後につづいて，～の後を追って сині көре（君の後から）
найырли（副）	方向格	～の方向へ тағзар найырли（山の方へ）
озари（名）< ол сари озари озаринда〈位〉 озаринаң〈奪〉	属格	その向こう側 ～の向こう側に，～の向こう側で граница озари（外国で） ～の向こう側に，～の向こう側で суғ озаринда（川の向こう側に） ～の向こう側から төң озаринаң（丘の向こう側から）
озынаң（後置）	属格 形動詞	① ［時間］～から ол озынаң（それ以来） ② ［理由］～のために өрінген озынаң（嬉しくて） ③ ～する道すがら，～するついでに магазинге парған озынаң аптекаа кір парарға （お店に行ったついでに薬局に寄る）
орны（名） < орын орнына〈与〉 орнында〈位〉	属格	場所 ～のかわりに，～（人）の代わりに минің орныма（私の代わりに） Чистек орнына миске теер килгеннер. （彼らはベリーのかわりにキノコを採集した.） Точкаларның орнына кирек буквалар пас. （点々のかわりに必要な文字を書きなさい.） Пүүн синің орныңа тоғынарбын. （今日，君の代わりに僕が働くよ.） ～のかわりに，～（人）の代わりに Минің орнымда хайдағ даа кізі мин осхас поларҷых. （私の代わりに他の誰がしたとても，私のようにしただろう.）
ортызы（名）< орт(ы) ортызына〈与〉 後置詞とも	属格	（空間的に）真ん中，（時間的に）中旬，中頃 ～の真ん中に，～の真ん中へ，～の中旬に ікі ағастаң ортызына （二本の木のあいだに）

ортызында〈位〉 ортызынзар〈方〉 ортызынаң〈奪〉 ортызынча〈比〉		сентябрьның ортызына читіре （９月の中頃までに） ～の真ん中に，～の中旬に аал ортызында（村の真ん中に） ～の真ん中へ，～の中旬まで тоғылахтың ортызынзар （円の真ん中へ） ～の真ん中から，～中旬から март айның ортызынаң сығара （３月中旬から） ～の真ん中に沿って Палалар чол ортызынча парчалар. （子供たちは道の真ん中を歩いている.）
осхас / охсас（方言）（後置） < осха- / охса- / осша-	主格 形動詞 述語の後	①～のように，～に似て пала осхас（子供のように） тас осхас（石のように） Тыхтаан соонда машина наачылан парған осхас. （修理後，車は新車のようだ.） ②（述語の後に用いて）どうやら～のようだ，～らしい Мал-хус чир тітірірін сисче осхас. （動物や鳥は地震を察知するようだ.）
өтіре（後置） < өтір- 副動詞 -а 形	対格	～を通り抜けて，～を越えて хойыг ағас өтіре（深い森を越えて） Түнүк өтіре тигір көрінче. （煙突を通して空が見える.）
паарли	対格	～の斜面に沿って таг паарли（山の斜面に沿って）
пазы（名） < пас пазына〈与〉 пазында〈位〉 пазынаң〈奪〉	属格	頭；頂上 ～の上に，～の上へ таг пазына（山の頂上に） ～の上に Ағас пазында хустар чуртапчалар. （木の頂上に鳥が住んでいる.） ①～の上から Таг пазынаң күн көрініп пастапча. （山の頂上から太陽が見え始めている.） ②［時間的］～後に үс күн пазынаң（３日後に） ікі ай пазынаң（二か月後に） Мин ікі час пазынаң килем.

пазынзар〈方〉 пазынча〈比〉		（私は二時間後に来ます.） ～の上のほうへ таг пазынзар（山の頂上へ） ～の上部に沿って Чил халсарыг пазынча толгала тўскен. （イネ科の多年草の上を風がクルクルと舞い下りてきた.）
пасти（後置） ＜пастир- 副動詞 -а 形	奪格	［時間的起点］～から（始めて） 2019 чылдаң пасти （2019 年から）
пастыра（後置） ＜пастыр- 副動詞 -а 形	対格	①［空間］～を通って，～を経由して Асхыс пастыра （アスキスを経由して） ②［手段］～を通して，～の手段で радио пастыра（ラジオで） сурыглар пастыра піліп аларга （質問して知る）
пасха（後置）	奪格	～以外に，～のほかに ічемнең пасха（私の母のほかに）
пеер（後置） ＜пеер（副詞）	奪格	～以来，～から今まで ирекннең пеер（道を渡って）
пірге（副）	具格	～といっしょに
полызиинаң	属格	～の助けをかりて，～を用いて хозымнар полызиинаң （接辞を用いて）
пögін（名） пögіннең〈具〉	形動詞 -ар 形	［目的］～する目的で，～するために Хырачылар таарыг тогызы хайди парчатханын піліп алар пögіннең хыразар чол тутхабыс. （農民たちの種まきの作業がどう進んでいるかを知る目的で，私たちは耕作地へと向かった.）
сай（後置） ＜сай-(ハカス語 сана-)	主格	～ごとに，毎～，各～ кўн сай（毎日） чайгы сай（毎夏） чыл сай（毎年） ўлўкўн сай（祝日のたびに） сöбіре сай（各家庭に）

	形動詞	〜する度に，毎回〜するごとに Наңмыр, кӱгӱрт кӱзӱреен сай, улам хосчатхан чіли пілдірген. （雷が鳴るたびに，雨が強くなっていることが分かった.）
сари（名） саринда〈前〉 саринаң〈奪〉 саринзар〈方〉 саринча〈比〉	属格 形容詞	〜側，脇，端側 〜側に чолның оң саринда（道の右側に） 〜側に沿って，〜側を чолның оң саринаң （道の右側に沿って，道路の右側を） 〜の側へ позының оң саринзар （自分の右側へ） 〜に沿って，〜側に沿って улицаның ікі саринча （通りの両側に沿って）
сiри（後置） ＜ сipe- 副動詞 -а 形	与格	［空間的に］〜まで，〜までくっつけて Столны стенаа сiри турғызыңар. （机を壁にくっつけて置いてください.）
сӱре ＜ сӱр- 副動詞 -а 形	対格	すべての，まるまる〜 кӱн сӱре（1 日中）
сӱрiстiре（副）	具格	〜の後に続いて миннең сӱрiстiре（私の後に続いて）
соо（名） ＜ соң соона〈与〉 соонда〈前〉 соонаң〈奪〉	属格 形動詞 -ған 形	後ろ，後部，後ろ側，（時間的に）終わり 〜の後ろに，〜の後ろ側に ① ［空間的に］〜の後ろに，〜の後ろ側に от соонда（暖炉の後ろ側に） ② ［時間的に］〜の後に、〜した後で урок соонда（授業後に） Азыранған соонда, Валянаң Гриша школаа парғаннар. （食事をとった後に，グリーシャはヴァーリャと学校へ出かけた.） аның соонда（その後で） ③ ［時間的に］〜末に，〜下旬に ай соонда（月末に） ①〜の後につづいて，〜の後ろから апсахтың соонаң （老人の後につづいて）

		②［時間的に］）～の後に Ағырығ соонаң тыығалах. （病気の後彼はまだ完全には元の調子に戻っていない.）
соонзар〈方〉		① ～の後ろへ，～の後ろ側へ ② ～の終わりへむけて，～末へ Июнь айнын соонзар（６月末までに）
соонча〈比〉		～の後に沿って Ол істернең соонча мин хыраң ас парғам. （これらの足跡に沿って私は丘を越えた.） Минің соомча пар. （私の後についていきなさい.）
сунғар(сынғар)（後置）	対格	～に沿って чол сунғар（道に沿って）
суура（後置）	対格	～のあいだ кӱн суура（１日中）
сӱре（後置）	主格 対格	すべての～，～の間ずっと кӱн сӱре（一日中） ～を追いかけて соон сӱре（後を追いかけて）
сӱрістре（副）	奪格 対格	～を追って，～の後を追って，～の後に続いて Миннең сӱрістре чӧр. （私の後からついて来なさい.） соон сӱрістре（次々に，後を追って）
сығара（後置） ＜сығар- 副動詞 -а 形	奪格 与格	①～から（起点） аннаң сығара（ここから） ибдең сығара（家から） ②～に至るまで，～に至る間（時間的） ӱс кӱнге сығара（３日間）
сылтаанда（後置） ＜сылтағ сылтағ + ы（三人称所有接辞）+ (н)да（位格）	主格 代名詞属格	～の結果，～が原因で，～のために ағырығ сылтаанда（病気のせいで） аның полызии сылтанда （彼の助けを借りて）
	形動詞	～なので Пӱӱл хар кӧп чаған сылтаанда, часхыда суғлар тың тасханнар. （今年の冬に雪が多く降ったので，春に川が氾濫した.）
сыы（後置）	主格	～の間中，～の間 кӱн сыы（一日中）

сыынаң（後置）	主格 形容詞 形動詞	～して以来，～から ол сыынаң（それ以来） кичеегі сыынаң（昨日から） Харындазым городха парған сыынаң пічік паспады. （私の弟は都会へ行って以来，手紙を書かなかった.）
талаза（後置）	対格	① ～までに（時間的） иир талаза（夕方までに） ② ～の方向へ суғның пилтірін талаза （川の河口のほうへ）
тамни（後置）	対格	① ～を通して кізі тамни（人を通して） ② ～のあとから сöс тамни（順々に，少しずつ）
тамңдади（副）	主格	～の直前に，～の前夜に ўлўкўн таңдади（祝日直前に）
тарта（後置）	方向格 与格	①（方向）～のほうへ іскер тарта（東のほうへ） ②（時間）～までに，～頃までに хысхызар(хысхаа) тарта（冬までに）
тасты（名） тастына〈与〉 тастында〈前〉 тастынаң〈奪〉 тастынзар〈方〉 тастынча〈比〉	属格	外部，外側 ～の外側に，～の向こう側に шкаф кистіне（食器棚の向こう側に） ～の外側に，～の向こう側に аал тастында（村はずれに，村の外に） ～の外側から，～の向こう側から аал тастынаң（村はずれから） Город тастынаң чазаг килдім. （郊外から私は歩いて来た.） ～の外側へ，～の向こう側へ город тастынзар（郊外へ） ～の外側に沿って город тастынзар（郊外に沿って）
тастых（後置） ＜тастых 副詞	奪格 （ときには奪格の後に数詞とその単位が入る）	～から遠くに Турабыс аалдаң тастых турча. （私たちの家は村から遠いところにある.） Сибирскай тимір чолдаң 100 километр тастых Еремеевка аал чатча. （私シベリア鉄道から１００㎞はなれたところにエレメエーフカ村がある.）
теере（後置）	与格	① ［空間的］～まで

< теер- 副動詞 -а 形		ибге теере（家まで） ② ［時間的］～まで хысхаа теере （冬まで） таңдаға теере （明日まで）
тобыра（後置） < тобыр- 副動詞 -а 形	主格 対格 代名詞対格	① ～を通って，～を通り抜けて тайға тобыра（タイガを通り抜けて） ② ～を通して，～を経て（時間的意味） улуғ чааны тобыра （大きな戦争を通して）
тоғыр（後置） < тоғар（副詞）	与格 奪格（～から） 奪格 奪格	① ［空間的］～の反対側に，～の向かい側に чолға тоғыр（道の向かい側に） миннең тоғыр（私[の家]の真向かいに） ②～に対する，～との（闘い） ыырчыдаң тоғыр күрезіг （敵に対する闘い） ③～を治す（薬），～を防ぐ（薬） грипптең тоғыр им （インフルエンザ治療薬） сарығ сеектең тоғыр ниме （虫[蚊]刺されの薬，蚊よけ薬）
тооза（後置）	与格	～の間中ずっと（時間的） күн тооза（一日中） хараа тооза（夜中じゅう，朝まで） чай тооза（夏の間中ずっと）
төбін（名） < түп	主格	～の下へ，～の下方へ иніс төбін（斜面を下へ）
төзі（名） < төс төзіне 〈与〉 төзінде 〈位〉 төзінең 〈奪〉 төзінзер 〈方〉 төзінче 〈比〉	属格	基盤，基部 ～の下に，～の下部に，～に麓に Чахайах төзіне суғны мин ургам. （私は花の根元に水を注いだ.） ～の下に，～の下部に，～に麓に ағас төзінде（木の下に） таг төзінде（山の麓に） ～の下から，～の根元から，～に麓から Олар, чатхан ағастарның төзінең турганнар. （彼らは横たわっていた木から立ち上がった.） ～の下へ，～に麓へ ағас төзінзер（木の根元へ） ～の下に沿って，～の下部に

		Тигей төзінче Чобат суғ чат партыр. （丘の下からその丘に沿ってチョバット川が流れ出ている.）
төөй（後置） ＜ төөй（形）	与格	～に似て，～のように талайға төөй（海に似て，海のように）
тус（名） тузында〈前〉	属格	時間，時 ～の時に пістің тузында（我々の時代に，現代に） тоғыс тузында（仕事の時に） чаа тузында（戦争の時に）
түзіре ＜ түзір- 副動詞 -а 形	与格 方向格	まっすぐ～のほうへ Тайраның ибіне түзіре （まっすぐタイラの家へ向かって）
удур（後置）	与格	～（側）に向かって，～を出迎えに чилге удур （風が吹いてくるほうに向かって） үлүкүнге удур（祭日を迎えるために）
узада（後置）	対格	～に沿って суғ узада（川に沿って）
үст(ү)（名） үстүне〈与〉 үстүнде〈前〉 үстүнең〈奪〉 үстүнзер〈方〉 үстүнче〈比〉	属格	上，上部 ～の上に，～の上へ Чазы үстүне харасхы түзібіскен. （ステップは黄昏れた.） ～の上に，～の上方に пістің үстүбісте（私たちの上方に） стол үстүнде（机の上に） Хартха аал үстүнде айлахтанча. （ハヤブサが村の上を旋回しながら飛んでいる.） ～の上から，～の上方から тахта үстүнең（橋の上から） ～上へ，～の上のほうへ таг үстүнзер（山の上へ向かって） ～の上に沿って，～の上方に沿って，～の上方を пус үстүнче（氷上に沿って） Харачхайлар чир үстүнче чавыс учухчатсалар, айас күн сахтаба. （ツバメが地上低空に飛んだなら，晴天の日を待つな.）

ўчўн（後置）	形動詞 -ған 形 形動詞 -чатхан 形	①［理由，原因］～のために，～のせいで，～が原因で，～のために чайғыдағы өрттердең ўчўн （夏の火事が原因で） аның ўчўн （それが原因で，そのため）
	主格 代名詞属格 形動詞 -ар 形	②［目的，擁護］～のために Ада-чир суубыс ўчўн（祖国のために） мир ўчўн күрезіг （平和のための闘争） Синің арғызың позырахта ниме иткенін піліп алар ўчўн, 3-4 сурыг пас сал. （君の友人が日曜日に何をしたのか知るために，３，４文の質問を書きなさい.）
	主格 代名詞属格	③［代償，対価，交換］～に対して Книга ўчўн пис салковай төледим. （本に対し５ルーブル私は支払った.）
хабыстыра	与格	［近似値，概数］～ぐらい，～に近い Онға хабыстыра（１０に近く）
хада（後置） ＜хат- 副動詞 -а 形	具格	～といっしょに Валянаң хада（ヴァーリャと）
хайа（後置）	方向格	～のほうに向けて，～へ向けて ізіксер хайа（顔をドアのほうへ向けて）
хас（名） хазында〈前〉	属格	端 ～のそばに，～の端に от хазында（焚火のそばに）
хапсыра（後置）	属格 与格	①～の近くに（空間的位置） аал хапсыра（村の近くに） ②～近くに（時間的，概数） иирге хапсыра（夕方頃までに） чўске хапсыра（１００ちかく）
хастада（後置）	対格	～に沿って суг хастада （川に沿って，川岸に沿って） ол суучахты хастада （この小川に沿って） чікім хайалыг таглар хастада （険しい崖を有する山に沿って）
хасти（後置）	対格	～に沿って чол хасти （道に沿って） чар хастада парарга

		（岸に沿って行く）
хоза（後置） ＜хос- 副動詞 -а 形	与格	～に加えて，～のほかに аҟаа хоза （それに加えて）
хоостыра（後置） ＜хоста-	主格	①～（人）を通して кізі хоостыра（人を通して） ②～に従って，～に則って план хоостыра （計画に従って） алфавит хоостыра （アルファベット順に） ис хоостыра （跡を追って，痕跡を追って） ③～に沿って суҕ хоостыра парарҕа （川に沿って行く）
хости（後置） ＜хоста- 副動詞 -и 形	具格	～のとなりに，～の近くに Палазы іҽзінеӈ хости турча. （子供は母親のとなりに立っている.）
хыза（後置） ＜хыс- 副動詞 -а 形	数詞与格 与格	①［近似値］～近く，～ぐらい Ахчазы ікі чӱске хыза. （彼のお金は２００ルーブルぐらいだ.） Нинҽее хыза? （だいたいどのくらいですか？） ②［時間的］～頃までに иирге хыза（夕方頃に） часхаа хыза（春頃までに）
хыр(и)（名） хырина〈与〉 хыринда〈前〉 хыринаӈ〈奪〉 хыринзар〈方〉 хыринҽа〈因〉	属格	端，境，境界 ～のほうへ тура хырина（家のほうへ） ～のそばに，～の近くに талай хыринда（海辺に） ～から，～の端から аал хыринаӈ（村のはずれから） ～のほうへ，～の近くへ хазаа хыринзар（家畜の囲い場へ） ～に沿って，～のそばを тура хыринҽа（家のそばを）
чаҕын（後置） ＜чаҕын（副詞）	与格	①［空間的］～の近くに суҕа чаҕын（川の近くに） ②［近似値］～に近い Апсахтыӈ чазы чӱске чаҕын полар. （老人の年齢は１００歳に近い.）
читіре（後置） ＜читір- 副動詞 -а 形	与格 代名詞与格	①［空間的］～まで аалҕа читіре（村まで）

		②［時間的］～まで амға читіре（現在まで） иирге читіре（夜まで） тоғыс часха читіре（９時まで）
чіли（後置）	主格 代名詞主格	～のように мин чіли（私のように） парыс чіли（ユキヒョウのように）
чоғар（後置） ＜чоғар（副）	主格 対格 奪格	①～の上へ，～の上方へ таг чоғар（山の頂きのほうへ） ②～の流れに逆らって，～の上流へ Асхыс чоғар（アスフス川上流へ） ～から上方へ Урсул суғны чоғар （ウルスル川を上流へ） Пістің аалдан чоғар тайға пасталча. （私たちの村から上方へ向かってタイガが広がって〔始まって〕いる.）
чоора	対格	～のあいだ（時間的） кўн чоора（一日中）
чох чохта	属格	～なしで ахча чохта（お金をもたずに）

参考文献

Анжиганова О.П., Субракова О.В., Топаева Л.С. *Русско-хакасский разговорник Орыс-хакас чоохтазыг,* Хакасское отделение Красноярского книжного издательства, Абакан, 1989

Анжиганова О.П., Субракова О.В. *Русско-хакасский разговорник Орыс-хакас чоохтазыг 2-ое издание, переработанное и дополнительное* Хакасское отделение Красноярского книжного издательства, Абакан, 2010

Арчимаева М.С., Толмачёва Л.Н., Тюкпиекова Л.И., Чекурова Л.Л., Чебодаева М.Н., Субракова З.М., Сагалакова А.А., Толмашова Н.А. , Карачакова Е.Г., Сазанакова З.И., Идимешева И.В. *Хакас тілі. 4 класс* Хакас книга издательствозы, Ағбан, 2013

Баскаков Н.А., Инкижекова-Грекул А.И. *Хакасский язык(Фонетическая структура, словарный состав и грамматический строй)* « Хакасско-русский словарь », Государственное издательство иностранных и национальных словарей, Москва, 1953, стр.359-487

Баскаков Н.А. *Грамматика хакасского языка*, Наука, Москва, 1975

Белоглазов П.Е. *Реконструкция первичных корней в хакасском языке*, Наука, Москва, 1975

Карпов В.Г. *Хакасский язык* « Языки народов СССР » т. 2, Наука, Москва, 1966, стр. 428-466

Карпов В.Г. *Сопоставительная фонетика хакасского и русского языков* Хакасское книжное издательство, Абакан, 1995

Карпов В.Г. *Сопоставительная фонетика и грамматика хакасского и русского языков Часть I :Учебное пособие* Хакасский государственный университет им. Н.Ф. Катанова, Абакан, 2011

Карпов В.Г. *Изъявительное наклонение глагола в современном хакасском языке* Хакасский государственный университет им. Н.Ф. Катанова, Абакан, 2014

Патачакова Д.Ф., Чанков Д.И. *Хакас тілінің орфографиязы / Орфография сöстігі*, Хызылчар книга издательствозының Хакасиядағы пöлігі , Абакан, 1988

Чебодаева Л.И. *Хакас тілі. 2 классха* Хакас книга издательствозы, Ағбан, 2014

Чебодаева Л.И. *Хакас тілі. 3 классха* Хакас книга издательствозы, Ағбан, 2014

Чебодаева Л.И., Тюмерекова Т.Т., *Хакас тілі. 5 классха* Хакас книга издательствозы, Ағбан, 2014

2023年度言語研修「ハカス語」研修テキスト 1
ハカス語文法

ILCAA Intensive Language Course 2023 “Khakas” Textbook 1
Khakas grammar

2024（令和 6）年 3 月 31 日　第 1 版発行

著　者　高島 尚生

発　行　東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
〒 183-8534 東京都府中市朝日町 3－11－1
Tel. 042－330－5600
https://publication.aa-ken.jp/

©2023 Naoki Takashima
ISBN 978-4-86337-526-0

この作品は PDF フォーマットによる電子出版物として刊行されました。
この作品はクリエイティブ・コモンズ表示―非営利 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/

ISBN978-4-86337-526-0

ILCAA
Research Institute for
Languages and Cultures of
Asia and Africa